

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） 第三次中間評価書（案）

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、本調査から得られた成果から環境政策の検討を行うことを目的としている。その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の企画及び実施内容の評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の実施状況の評価を実施することとしている。

エコチル調査は、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施している。

エコチル調査の実施状況の評価については、同調査が長期間にわたる事業であることを鑑み、進捗状況に関する年次評価又は中間評価を行うこととし、事業終了後には最終評価を行うこととしている。

第三次中間評価においては、調査実施のための組織体制の妥当性、フォローアップの進捗状況等、長期的なフォローアップに向けた準備状況、詳細調査の実施状況、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルールへの順守状況、研究（追加調査等）の体制及び実績、調査結果に関する広報活動の状況、環境政策・施策への反映等の観点から評価を行うこととする。

なお、エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。

2. 概評

2-1 実施体制

エコチル調査のユニットセンターは、公募で選ばれた全国 15 地域の大学等で組織されている。ユニットセンターでは、参加者から返送のあった質問票の入力、詳細調査での訪問調査、医学的検査、精神神経発達検査の実施、参加者への広報などのコミュニケーション活動、地域運営協議会の運営及び調査結果を用いた研究活動を行っている。調査の目的である環境要因が子どもの健康に与える影響を解明できるように参加者の維持に努めるとともに、調査の状況、地域の実情を勘案した適切な実施体制を毎年度検討することが望まれる（参考①、②）。

また、平成 31 年度からは、より一体的なエコチル調査の実施のため、ユニットセンターに対する委託事業を含めて、国立環境研究所にエコチル調査の実施に関する予算が一元化されることに加えて、子どもの成長過程における化学物質曝露を評価するための「学童期検査」が開始されるため、コアセンターを中心として、関係者がより一層連携を密にして、エコチル調査を実施する必要がある。

2-2 子ども出生数に対する現参加者数（現参加者率）

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするため、参加者数を高い水準で維持することがエコチル調査の最重要課題の一つである。「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書」においても、「追跡率（注記参照）は、フォローアップ期間終了時に 80%以上となることを目指す」と記載されている。追跡率を示す指標である、子ども出生数に対する現参加者数については、現参加者率が平成 28 年度（平成 28 年度より集計開始）は 97.2%であり、平成 30 年度 9 月現在も全国平均で 95.9%であり、高い水準で維持していることは、高く評価できる（表 1）。一方で、現参加者率のユニットセンター間における最大値と最小値の差については、平成 28 年度（平成 28 年度から集計開始）は 3.4%、平成 29 年度は 3.7%、平成 30 年度 9 月現在は 4.7%であり、現参加者率のユニットセンター間の格差は拡大している。このため、現参加者に協力を希望していただくためにも、社会還元等を通して、エコチル調査の意義を理解していただけるように、エコチル調査関係者が一丸となって、努める必要がある。また、来年度から子どもの成長過程における化学物質曝露を評価するための「学童期検査」が開始となることから、引き続き現参加者率を高い水準で維持するための取組が期待される。

（注）追跡率：時間を追って追跡情報を入手できる調査対象者数を調査開始時の調査対象者数で割ったもの。

2-3 質問票回収状況

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするためには、参加者の質問票回収率を高い水準で維持することが最重要課題の一つである。全年齢を平均した回収率について、平成 27 年度は 90.2%であり、平成 30 年度 9 月現在も全国平均で 85.2%であり、高い水準で維持していることは高く評価できる（表 2）。なお、平成 30 年 9 月 28 日時点の子どもの出生後の質問票回収率は、生後 6 ヶ月 94.1%、1 歳 91.3%、1 歳半 89.2%、2 歳 87.2%、2 歳半 85.6%、3 歳 84.1%、3 歳半 81.4%、4 歳 80.0%、4 歳半 78.3%、5 歳 76.0%、5 歳半 77.1%、6 歳 76.6%である。参加者（子ども）が学童期を迎える時期であることから、引き続き質問票回収率を高い水準で維持できるような取組が期待される。一方で、質問票回収率のユニットセンター間における最大値と最小値の差については、平成 27 年度は 9.2%、平成 28 年度は 10.3%、平成 29 年度は 12.7%、平成 30 年度 9 月現在は 13.5%であり、質問票回収率のユニットセンター間の格差は拡大している。多くのユニットセンターで、子どもの年齢を重ねるごとに質問票回収率が低下する傾向があり、今後、質問票回収率の低減をできる限り抑えていくことが最重要課題である。

また、全ユニットセンターの平均における、生後 6 ヶ月時点と直近で質問票調査を始めた年齢の回収率の差については、平成 28 年度（平成 28 年度より集計開始）は 13.9%、平成 29 年度は 18.3%、平成 30 年度 9 月現在は 17.5%であった（表 3）。一旦回収率の差が拡大したものの、直近の 6 歳（6 ヶ月経過後）においては平成 29 年度の 5 歳時点に比べ、その差が縮小している。ユニットセンター間において、優れた取組からグッドプラクティスを相互に学んでいくことが有効と考えられる。

なお、6ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける平成29年9月26日時点と平成30年9月28日時点での年齢別回収率の回帰直線($Y=aX+b$)の傾き(a)の差異について、直近1年間の比較を行った結果(表4)、多くのユニットセンターにおいて、質問票回収率が改善傾向にあることは評価できる。回収率維持において改善の傾向があり、引き続き各ユニットセンターにてPDCAサイクルに則った取組を行う必要がある。(表5)

2-4 詳細調査の実施状況

平成26年10月に開始した詳細調査のリクルートは、平成28年8月時点で5,018名の応諾で完了している。平成26年11月より、参加の意思表示を確認し、訪問の調整がついた者から初回の訪問時に参加の同意書を受領した上で、1歳半時の訪問調査(環境測定)を開始した。また、平成27年4月より、2歳時の医学的検査及び精神神経発達検査、平成28年5月より、3歳時の訪問調査(環境測定)、平成29年4月より、4歳時の医学的検査及び精神神経発達検査を開始した。1歳半時及び3歳時の訪問調査(環境測定)並びに2歳時の医学的検査及び精神神経発達検査は終了した(参考③)。精神神経発達検査については、2歳詳細調査の実施時の問題点をふまえ、検査者指導を強化したことは評価できる。平成30年度は、4歳の医学的検査と精神発達検査を実施しており、引き続き8歳詳細調査に向けて準備を進めることが必要である。

2-5 学童期検査

エコチル調査の当初の研究計画書に、全体調査において質問票調査とともに、6歳と12歳時点で、小児科診察、身体計測、採尿を行うことが示されており、リクルート時における参加者に対する説明書にも記載されていた。6歳時点での調査に向けて検討を行ってきたが、調査実施に十分な準備期間が必要なこと及び調査実施上の意義の観点から、調査時期を運営委員会にて再検討し、8歳時点で行うこととなった。子どもの成長過程における化学物質曝露や健康影響の評価を目的とした12歳時点の採血の実施については、胎児期曝露と現在の曝露の状況が大きく異なることから必要性は極めて高いため、参加者への安全等の倫理面への配慮、体制等の実施上の課題等を引き続き検討していく必要がある。

2-6 エコチル調査ルールへの遵守及び管理状況

エコチル調査は、大規模な調査ゆえ多数の関係者に支えられている。多くの関係者が関わって実施する調査においては、一定の「ルール」を策定し、それらが遵守されるよう管理している。特に調査の要になり得る重要事項において、「ルール」を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行することにつながる。

平成27年度から平成30年度にかけては、個人情報管理に関する基本ルールの違反が1件あった。平成30年度は、個人情報管理に関する基本ルールに違反した事例の発生はないが、成果発表に関するルールに違反した事例を認めた(表6、7)。今後エコチル調査の成果発表が増えてくる時期となり、社会へのインパクトが大きいことから、引き続き、個人情報の管理、情報発信等の体制を強化していかねばならない。

2-7 参加者及び調査地域でのコミュニケーション活動

参加者のフォローアップに関する取組の一環として PDCA サイクルに則り、コアセンターにおける参加者コミュニケーションの研修を行うなど、質問票回収率の維持・改善に向けた取組を行っている（表5、参考④）。

今年度は、エコチル調査に係る業務全般の取組について、PDCA サイクルに則って、改善がなされているかどうか評価した。多くのユニットセンター・サブユニットセンターにおいて優れた取組がなされており、引き続きグッドプラクティスを相互に学んでいくことが必要である。

さらに、学術論文等の成果が積み重ねられる時期であるため、各実施機関は、参加者に対して、エコチル調査の成果の還元を図る観点からのコミュニケーション活動が求められる。

2-8 地域運営協議会の実施状況

各ユニットセンターが関連組織と良好な関係を構築・維持することは、今後の調査を円滑に継続するために必要不可欠であると考えられる。エコチル調査参加者が学童期に入ることやエコチル調査の成果発表が徐々に増えていくことを勘案し、ユニットセンターが調査地域の小中学校等の教育関係機関等や地方公共団体の環境部局等に地域運営協議会への参加を積極的に行ったことは評価できる。平成31（2019）年度には、「学童期検査」が開始されることから、引き続き、これらの機関との連携を深めていくことが期待される（参考②）。

2-9 研究実績及び成果の社会への還元

エコチル調査の全国データを用いた成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるような体制を構築し、論文執筆に向けた取組を行っている。

エコチル調査の全国データを用いた論文は45編（うち中心仮説に係る論文3編）、追加調査に係る論文は17編（いずれも平成31年1月末までの累計）発表（参考⑤、⑥）されており、大規模疫学調査の先行研究であるDNBC（デンマーク全国出生コーホート）、MoBa（ノルウェー母子コーホート調査）の同じ時期の論文数（DNBC 22編、MoBa 5編）と比較しても多く、現段階としては評価できる。

生体試料中に含まれる化学物質の分析は、現在までに血中金属類（Hg、Pb、Cd、Mn、Se）の分析が終了し、これらの結果を解析した論文が順次、発表される段階に入っている。6月には、血液中の化学分析に基づくものとしては初めて、妊婦（2万人分）の血中カドミウム濃度と早産の関係を調べた論文が発表されたところであり、引き続き、化学物質と健康影響に係るものを中心とした論文執筆の加速化に、一層力を入れることが望まれる。

また、エコチル調査の進展に伴い、データの分析や学術論文等による成果発表の増加が期待される時期であることから、今後は、その成果を社会に還元していくことが重要である。また、エコチル調査全体として、成果還元の状況（全国データを用いた論文、学会での発表、マスメディア、一般向けシンポジウム・講演等）を適切に評価していくことが必要となる（参考⑦、⑧）。

さらに、今後はエコチル調査の進捗に準じ、学術論文等の成果が積み重ねられ

る時期であるため、適切な科学コミュニケーションを行うための体制の構築が望まれる。特に、正しく化学物質リスクを避け、リスクと上手に向き合う社会を目指すため、「地域の子育て世代との対話事業」を環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力して着実に進めることが望まれる。

2-10 その他

平成 29 年度年次評価書を受けての取組状況は、年次評価の内容を勘案した PDCA サイクルに則った取組が、各ユニットセンター等においてなされている。

3. 実施機関別評価

3-1 環境省

エコチル調査の目的とする成果を得るためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠である。当初予算及び補正予算で調査を実施してきたが、平成 31 (2019) 年度は、目指してきた当初予算で完結するような安定した予算 (案) となったことは評価できる。引き続き、安定した予算確保のための努力を行うことが望まれる。

今後、分析を進めて研究成果の社会への還元を推進する時期に本格的に入っていくことから、予算をより効果的に運用するため、平成 31 (2019) 年度からユニットセンターの委託費について国立環境研究所運営費交付金に一体化が図られる予定である。そのため、環境省予算からの移行がスムーズに行えるような体制を整備することが必要である。ユニットセンター委託費の配賦、運用のノウハウを適切にコアセンターと共有し、引き続きコアセンターで適切な運営ができるように、コアセンターと共に着実に進めることが期待される。

広報については、従来は主に、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上の視点から実施してきたが、今後は、エコチル調査の進展に伴い成果が積み重ねられる時期であることから、従来の取組に加えて、成果の社会への還元を目的とした広報活動を展開していくことが、重要である。今後、「地域の子育て世代との対話事業」等を通して、子育て世代の悩み・不安に応える形で調査結果等をわかりやすく提供して行く必要がある。

参加者 (子ども) が学童期に入ることから、今後、教育的視点から学校関係者から協力を得ることが重要となってくる。そのため、文部科学省、小児関連団体等との情報共有を引き続き進め、より一層の連携を図ることが望まれる。

国際連携については、ノルウェー、デンマーク、ドイツ等の諸外国の出生コホート調査の専門家メンバーとする「大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、これらの専門家と連携をより一層強化していくことが望まれる。また、昨年度に引き続き国際シンポジウムを、研究者向けに開催し、環境疫学に関する国際的な知の共有を行ったことは評価できる。今後も学会等を通じて世界に向けた情報発信に取り組むことが期待される。

3-2 コアセンター

エコチル調査の実施主体として、全国のユニットセンターとの緊密な連携を図りながら全体をとりまとめており、今後もそのような取組が継続されることが期待される。

エコチル調査の成果をより価値あるものにするためには、現参加者率や質問票回収率の維持が重要であり、調査開始年度から8年目の現在も、いずれも高い水準を維持できていることは高く評価できる。これらの維持・向上のため、参加者コミュニケーション専門委員会が主体となり、ユニットセンターの取組の支援を行っている。引き続きユニットセンター実務担当者 web 会議及びスタッフ研修の開催などを通して、ユニットセンター間の情報共有の場を設け、これらの取組を継続していくことが望まれる。また、ユニットセンターにおける参加者の個人情報管理については、個人情報の管理状況が適切であるかどうか、定期的に確認する体制を維持することが重要である。そのため、引き続きコアセンターが中心となり、適切な個人情報の管理がなされるような体制を維持していくことが望まれる。

6万人分の血中金属類のデータ固定が終了するなど、着実に化学分析結果を解析できる体制が整いつつあることは評価できる。今後も、化学分析等を計画的に進めるとともに、効率的・効果的に化学分析が実施されることが望まれる。

医学的検査及び精神神経発達検査の実施、詳細調査の結果返却、相談対応については、引き続きメディカルサポートセンターと連携しつつ、各ユニットセンターに応じたフォローを行うことが望まれる。

全体調査の成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるよう「中心仮説ワークショップ」「疫学統計専門委員会」の開催や体制の構築を行ったことは評価できる。また、エコチル調査で得られた成果が諸外国にも通用するようなものとなるよう、成果のまとめ方及び論文の質の担保ができるような体制を構築したことは評価できる。

エコチル調査の全国データを用いた論文が45編（平成31年1月末までの累計）と着実に増えてきていることは評価できるが、そのうち中心仮説に係る論文は3編であり、今後、中心仮説に係る論文執筆の加速化が望まれる。

加えて、平成31（2019）年度からユニットセンターの委託費について国立環境研究所運営費交付金に一体化が図られる予定であるため、コアセンターで適切な運営ができるよう、環境省と共に着実に体制整備を進めることが期待される。

3-3 メディカルサポートセンター

医学的検査及び精神神経発達検査について、主要専門分野のプロジェクトを設け、コアセンター経由で寄せられるユニットセンターからの問い合わせに適宜回答し、得られるデータの質を維持していることは評価できる。

平成29年度に引き続き、8歳パイロット調査の実施状況を確認し、手法の標準化が進んだことは評価できる。平成31（2019）年度から6歳時の医学的検査が始まることから、ユニットセンターで円滑に調査が行われ、検査の標準化が適切に行われるよう、バックアップ体制を維持・強化することが望まれる。

平成31（2019）年度から開始が予定されている学童期検査において、実施可能な精神発達検査の手法の選択、妥当性の検討を行ったことは評価できる。また、エコチル調査の成果発表の加速を図る一環として、データクリーニングの方法の見直しをコアセンターで行ったことは評価できる。

成果の社会への還元の一環として、全国データを用いた論文に関してメディカルサポートセンターからは45編のうち5編（平成31年1月末までの累計）

が発表されていることは評価できる。今後は、中心仮説に係る論文に関しても順次執筆を加速化していくことが望まれる。エコチル調査の全体調査に関する成果発表については、論文の質が担保できるような体制構築を、コアセンターと協働して検討することが望まれる。

3-4 ユニットセンター

10万組の親子を対象に実施しているエコチル調査において、子どもが13歳になる調査の終了時まで、より多くの参加者の調査継続と年に2回送付する質問票の回答率を高めることが、調査の質の向上及び国民に対して有益な結果を還元するために必要不可欠かつ重要な事項である。調査開始から8年目の現在も、現参加者率及び質問票回収率は低下傾向にあるものの、いずれも高い水準で維持されており、全体としては高く評価できる(表1、表2)。一方で、ユニットセンター間における現参加者率及び回収率の最大値と最小値の差は拡大している。各ユニットセンターの業務全般において、PDCAサイクルの中で調査地域の特徴や効率性を勘案し、調査の質の向上に繋がるような取組を行うことを求めたい。加えて、全国平均より回収率が低いユニットセンターについては、原因を分析し、改善に導く一層の工夫が必要である。

また、エコチル調査が開始されて8年が経過する今般、調査の成果が積み重ねられる時期に差し掛かり、今後その成果を社会に適切に還元していくことが重要である。成果還元としては、全国データを用いた論文45編(うち中心仮説に係る論文3編、平成31年1月末までの累計)が学術雑誌等に掲載されており、平成30年度には、学会での発表77件、マスメディア34件、一般向けシンポジウム・講演等125件(いずれも平成30年3月1日から平成31年1月末時点)といった取組等が実施されており、調査地域を中心とした積極的な取組は評価できる(参考⑧)。なお、エコチル調査を適切に実施するための各種ルール(個人情報管理や成果発表などを含む)を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行する上で重要であり、引き続きルールに沿った運用を行っていくよう、各ユニットセンターにおいてスタッフへ周知を継続していくことが必要である(表6、7)。

本年度の評価においては、①参加者の参加継続と質問票の回収に繋がるフォローアップ状況と、②エコチル調査の業務全般におけるPDCAサイクルでの取組、③主要なルールの遵守状況及び管理状況を勘案した評価方法を設定した。

4. 総括

平成27年～30年度にかけて、現参加者率や質問票回収率が高い水準で維持されていること、学童期検査に向けて準備を行っていること、着実に化学分析が進んでいること、論文として成果が増えていること、学術発表に加えて広報やコミュニケーション活動・国際連携を行ってきたこと、調査のフェーズに合わせて実施体制の見直しを行ったことなど、エコチル調査を着実に進めていることは高く評価できる。

今後は、エコチル調査が新たなフェーズを迎えることを踏まえ、エコチル調査の成果を国民に最大限還元できるように、学童期検査の着実な実施や化学分析等の計画的な実施、論文執筆の加速化、「地域の子育て世代との対話事業」等を進めることが求められる。

加えて、効果的・効率的にエコチル調査を進めていくことが重要であるため、エコチル調査の新たなフェーズに合わせた評価の在り方について検討する必要がある。

ユニットセンターにおける総合評価指標

(1) フォローアップ状況

○ 現参加者率【表1】

対象である子どもの出生者数に対し、調査参加者数の比率を算出した。調査参加者数とは、出生した子どものうち、打ち切り数（本人死亡、代諾者消失など）、他ユニットセンターへの転出、転入を反映した人数である。

[評価] 各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する（評価は行わない）。

○ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）【表2】

平成30年9月28日時点で質問票送付後6ヶ月経過した出生後6ヶ月から6歳までの発送数に対する回収数を用いて算出。総合的な質問票の回収状況を確認する指標として位置付ける。

[評価] 回収率が85.2%（平均）以上を◎とする。また、平成29年度、30年度継続して回収率が0.5SD以上の場合は◎を加点する。

○ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）【表3】

【表2】における出生後6ヶ月の質問票回収率と6歳時の質問票回収率の差を算出。直近の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

[評価] 差異17%未満を◎とする。

○ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表4】

6ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける平成29年度9月26日時点と平成30年9月28日時点での年齢別回収率の回帰直線（ $Y=aX+b$ ）の傾き（a）の差異をみる。直近1年間の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

[評価] 傾き差異がプラスの場合を◎とする。

(2) エコチル調査に係る業務全般に関する取組

○ エコチル調査に係る業務全般に関する取組のPDCA評価【表5】

参加者の調査参加へのモチベーションの維持、質問票回収率の維持・向上、コミュニケーション活動（参加者を含む調査地域でのリスクコミュニケーションを含む）、その他の取組について、PDCAサイクル※に則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

[評価] PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組を行っている場合を◎とする。

※フォローアップ状況におけるPDCAの考え方

- ①（P：計画）これまでの取組の結果を的確に分析をして、その結果をよく勘案して計画を立案する
- ②（D：実施）（P）を受けて、具体的に取組を実施する
- ③（C：評価）（D）の結果を的確かつ客観的に分析を行い説得力のある根拠を示す
- ④（A：改善）（A）での考察を来期の計画に反映することを示す
- ⑤効率性を考慮した費用対効果を十分に検討する

(3) エコチル調査ルールへの遵守及び管理状況

エコチル調査で定める各種ルールの遵守状況やその管理状況を確認するための指標として位置付ける。【表6、7】

[評価] 軽微でないルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、2回以上（年度をまたぐ場合を含む）同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価をCとする。

総合評価の考え方

S：◎が5個以上あり、かつ、PDCA評価が◎

A：◎が3個以上ある

B：◎が1個又は2個ある

C：◎がない又は2回以上（年度をまたぐ場合も含む）同じルール違反がある

※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でも B 以下となる

各ユニットセンターの総評

- ◎：総合評価指標の項目で、優れていると判断される事項に対する評価
- ：エコチル調査ルールへの遵守状況において、違反が生じた事案の評価

北海道ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
コミュニケーション活動に対する取組として、市民講演会での成果発表や終了後の質疑応答や談話会等、さらに高校生向けの出前講義等で、より広い年齢層へエコチル調査の成果報告を積極的に行っていることは、エコチル調査の成果の社会への還元の見地から、特に高く評価できる。

宮城ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
参加者へのモチベーションの維持に対する取組として、質問票回収状況を十分に分析した上でのアメニティを提供する対象の絞り込みやその提供方法の工夫などを行い、その結果を具体的に検証していることは特に高く評価できる。
- エコチル調査ルールの遵守及び管理状況：
環境省等に対して、成果発表ルールに違反する事後報告があったため、再発防止策を厳に講じる必要がある。また、ユニットセンターにおいてルール等の周知が必要である。

福島ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
コミュニケーション活動に対する取組として、保護者向けの環境セミナーを開催したことは、一般の方々に環境問題に関心を持ってもらうことに繋がり、エコチル調査の成果の社会への還元につながる取組として特に高く評価できる。

千葉ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

神奈川ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

甲信ユニットセンター（山梨大学）

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票回収率を維持・向上させるための取組として、中身が見えるビニール製封筒への変更、記入漏れ防止対策としてのチェックボックスの印刷、発送曜日変更など独自の取組を展開し、その効果検証から更に改善に向けた取組に繋げていることは特に高く評価できる。

甲信サブユニットセンター（信州大学）

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
平成29年度及び30年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票回収率を維持・向上させるための取組として、独自に作成する進行管理ファイルにより、参加者一人一人に合わせたフォローアップを行い、回収率を高く維持していることは特に高く評価できる。

富山ユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
平成29年度及び30年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票回収率を維持・向上させるための取組として、質問票返送率とイベント参加との関連に着目し、イベント参加経験のない人のニーズの抽出を行い、質問票返送率向上に結びつけたことや、記入の不備を減らすため「メモっとカレンダー」を作成したことは特に高く評価できる。

愛知ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

京都ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
平成29年度及び30年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

大阪ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

兵庫ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

鳥取ユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
平成29年度及び30年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票回収率を維持・向上させるための取組として、昨年度のアンケート結果を活かして複数のイベントを企画したことや、開催後その効果を費用対効果も加味して検証していることは特に高く評価できる。

高知ユニットセンター

総評：B

- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
質問票回収率を維持・向上させるための取組として、昨年度末に「フォローアップ対策チーム」を発足させ、そのチームが行った参加者へのアンケート結果を踏まえて、謝礼の渡し方を変更するなど、回収率を向上させるための複数の取組を行った結果、回収率の改善が見られたことは特に高く評価できる。

産業医科大学サブユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
参加者へのモチベーションの維持に対する取組として、地域の教育委員会や校長会と連携し全ての新1年生にエコチル調査の情報を提供するなど、参加児の成長とともに教育現場との連携強化が図られていることは特に高く評価できる。

九州大学サブユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

熊本大学サブユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：
参加者へのモチベーションの維持に対する取組として、質問票送付ごとに押されるスタンプラリーの導入や参加者の子どもをモデルとしたオリジナルポスターの作製などの取組を複数行い、質問票提出意欲の向上だけでなく、参加者意識へも働きかけていることは特に高く評価できる。

宮崎大学サブユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率）：
平成29年度及び30年度の結果：高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

琉球大学サブユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

ユニットセンター 総合評価一覧

評価項目	フォローアップ状況											エコチル調査に係る業務全般の取組状況		エコチル調査ルールの遵守及び管理状況		総合評価				
	現参加者率【暫定】	質問票の回収率(累計)									PDCA評価									
	現参加者数÷登録者数【表1】	質問票回収状況(出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率)【表2】			質問票回収率の維持状況(出生後6ヶ月回収率と6歳回収率の差)【表3】		質問票回収率の直近の改善状況(回収率の傾向比較)【表4-1、表4-2】(※平成29年9月26日時点から平成30年9月28日時点までの期間)													
掲載項目	評価項目	評価項目	評価		評価項目	評価	評価項目	評価	評価	評価	評価	違反の有無	該当ルール名と種類	総合指標		評価(S,A,B,C)				
評価基準	現参加者率	回収率	◎	◎	回収率の差異	◎	傾きの差異	◎	◎	◎	◎	違反の有無	該当ルール名と種類	◎個数	ルール違反					
評価基準			平成30年度の回収率が平均以上	平成29年度～30年度の回収率が(SD0.5)以上を継続	◎:17%未満		◎:傾きの差異がプラス				PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組を行っている場合◎	☑:違反事案 ※軽微なものは含まない								
	現参加者率(参考)	回収率	ランキング(参考)	評価		回収率の差異	ランキング(参考)	評価	傾きの差	ランキング(参考)	評価	評価	☑	該当ルールと事案の種類	年度	フォローアップ状況	ルール違反	総合評価(案)	ユニット/サブユニットセンター名	
北海道ユニットセンター	94.8	85.6	11	◎		19.0	16		0.041	18	◎	◎					3	0	A	北海道
宮城ユニットセンター	95.0	81.9	16			17.5	12		0.133	15	◎	◎	☑	成果発表ルール	H30		2	1	B	宮城
福島ユニットセンター	96.8	85.9	10	◎		20.8	17		0.046	17	◎	◎					3	0	A	福島
千葉ユニットセンター	93.8	83.6	14			18.0	13		0.261	10	◎						1	0	B	千葉
神奈川ユニットセンター	93.6	87.0	6	◎		15.0	6	◎	0.251	11	◎						3	0	A	神奈川
甲信ユニットセンター(山梨大学)	93.3	81.9	15			17.1	11		0.431	4	◎	◎					2	0	B	山梨大学
甲信サブユニットセンター(信州大学)	96.1	92.5	1	◎	◎	10.1	1	◎	0.144	14	◎	◎					5	0	S	信州大学
富山ユニットセンター	96.3	89.3	2	◎	◎	13.5	5	◎	0.334	8	◎	◎					5	0	S	富山
愛知ユニットセンター	96.3	86.1	9	◎		12.9	4	◎	0.118	16	◎						3	0	A	愛知
京都ユニットセンター	96.6	89.2	3	◎	◎	11.7	3	◎	0.247	12	◎						4	0	A	京都
大阪ユニットセンター	97.7	84.8	13			15.8	7	◎	0.405	5	◎						2	0	B	大阪
兵庫ユニットセンター	95.7	86.1	7	◎		19.0	15		0.349	7	◎						2	0	B	兵庫
鳥取ユニットセンター	96.7	87.6	5	◎	◎	16.1	9	◎	0.282	9	◎	◎					5	0	S	鳥取
高知ユニットセンター	96.2	81.1	17			26.0	19		-0.029	19		◎					1	0	B	高知
産業医科大学サブユニットセンター	98.1	85.5	12	◎		11.3	2	◎	0.600	2	◎	◎					4	0	A	産業医科大
九州大学サブユニットセンター	95.9	86.1	8	◎		18.1	14		0.351	6	◎						2	0	B	九州大学
熊本大学サブユニットセンター	96.0	79.0	19			16.4	10	◎	0.870	1	◎	◎					3	0	A	熊本大学
宮崎大学サブユニットセンター	97.4	89.0	4	◎	◎	15.9	8	◎	0.239	13	◎						4	0	A	宮崎大学
琉球大学サブユニットセンター	95.2	81.0	18			24.5	18		0.571	3	◎						1	0	B	琉球大学

総合評価(案)
S: ◎が5個以上あり、且つPDCA評価が◎
A: ◎が3個以上ある
B: ◎が1個又は2個ある
C: ◎がない又は2回以上(年度をまたぐ場合も含む)同じルール違反がある
 ※ 但し、ルール違反等があった場合は、◎が3個以上の場合でもB以下となる。

表1 子どもの現参加者率【平成30年9月末時点（暫定値）】※現参加者率の高い順に表示

	出生数	他UCへの 転出者数	他UCからの 転入者数	打ち切り						現参加者		集計日	現参加者数 (計算数)	現参加者率 (%)
				本人 死亡	代諾者消失		子氏名等の 情報提供拒否	住所 不明	その他理由により 調査継続不能	不明・ その他				
					児の個人情報の 削除を伴うもの									
産業医科大学サブユニットセンター	2,952	4	13	5	55	12	1	4	1	2,895	0	9/28	2,895	98.1
大阪ユニットセンター	7,856	15	16	13	141	9	0	16	11	7,676	8	9/28	7,676	97.7
宮崎大学サブユニットセンター	1,834	9	10	3	44	14	0	1	0	1,787	16	9/28	1,787	97.4
福島ユニットセンター	12,867	71	116	23	420	121	0	10	0	12,459	16	9/28	12,459	96.8
鳥取ユニットセンター	3,036	5	6	7	85	1	1	7	0	2,937	0	9/28	2,937	96.7
京都ユニットセンター	3,898	19	13	8	94	12	0	20	3	3,767	0	9/28	3,767	96.6
愛知ユニットセンター	5,555	10	22	8	171	6	0	21	19	5,348	0	8/31	5,348	96.3
富山ユニットセンター	5,389	14	6	9	178	66	0	7	0	5,187	0	9/27	5,187	96.3
高知ユニットセンター	6,920	17	6	16	220	27	0	10	5	6,658	1	9/26	6,658	96.2
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,679	3	8	5	99	0	0	2	4	2,574	0	9/28	2,574	96.1
熊本大学サブユニットセンター	3,012	26	7	10	90	10	0	2	0	2,891	0	9/28	2,891	96.0
九州大学サブユニットセンター	4,565	9	22	8	152	38	2	36	1	4,379	0	9/28	4,379	95.9
兵庫ユニットセンター	5,070	36	14	7	117	17	1	18	53	4,852	0	9/28	4,852	95.7
琉球大学サブユニットセンター	863	10	5	1	28	0	0	7	0	822	2	9/28	822	95.2
宮城ユニットセンター	9,002	101	60	19	352	128	6	29	1	8,554	0	9/28	8,554	95.0
北海道ユニットセンター	7,933	10	24	22	398	36	0	7	0	7,520	0	9/28	7,520	94.8
千葉ユニットセンター	5,970	25	19	12	294	22	40	17	0	5,601	0	9/28	5,601	93.8
神奈川ユニットセンター	6,404	26	29	9	345	5	13	47	0	5,993	0	9/28	5,993	93.6
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,490	15	8	12	250	10	1	29	0	4,191	0	9/28	4,191	93.3
合計	100,295	425	404	197	3,533	534	65	290	98	96,091	43		96,091	95.9

※表中の値は、平成30年9月28日現在コアセンターで集計中の暫定値である。

表1別紙 現参加者率の推移

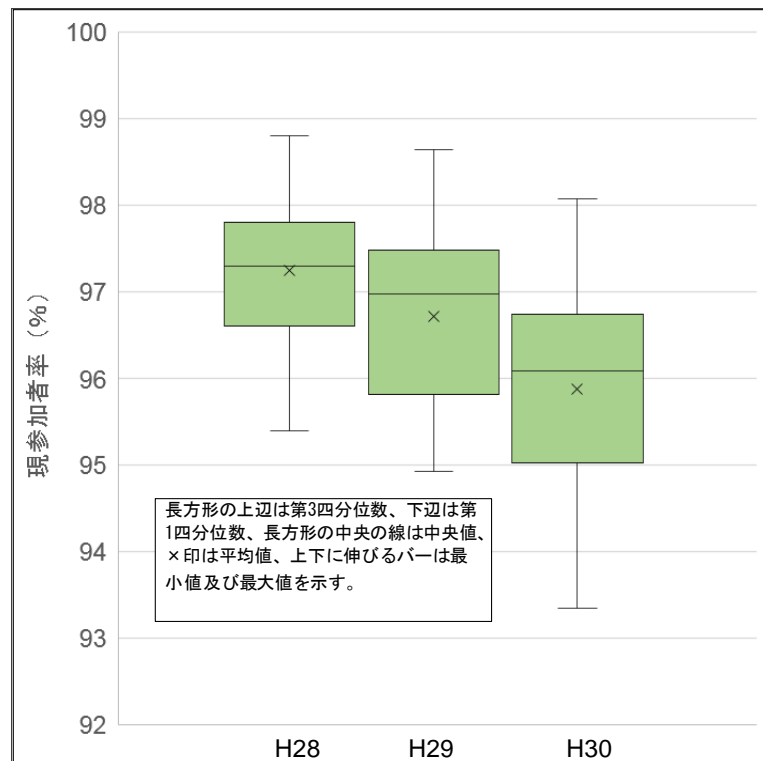


図1 現参加者率のばらつきの推移

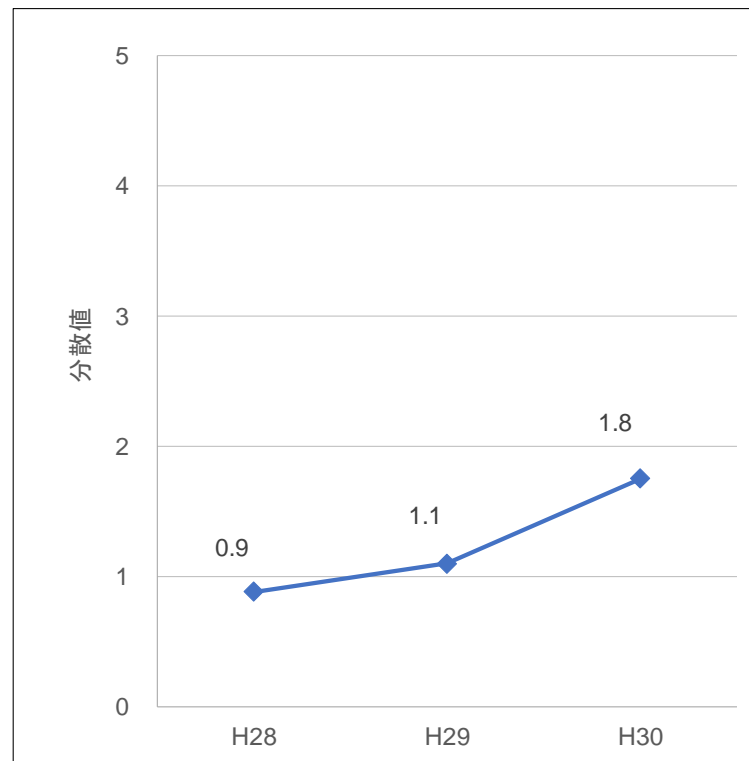


図2 現参加者率 分散値の推移

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均 (%)	97.2	96.7	95.9
分散値	0.9	1.1	1.8
最大値 (%)	98.8	98.6	98.1
最小値 (%)	95.4	94.9	93.3
第1四分位数 (%)	96.7	96.1	95.1
第3四分位数 (%)	97.8	97.5	96.7
範囲	3.4	3.7	4.7

※平成28年度は平成29年2月末時点での集計値

※平成29年度は平成29年9月26日時点での集計値

※平成30年度は平成30年9月28日時点での集計値

表2 質問票回収率 (出生後6ヶ月～6歳までの合計の質問票回収率)【平成30年9月28日時点の累積、6ヶ月後】

※回収率の高い順で表示

ユニットセンター/ サブユニットセンター	C-6m		C-1y		C-1.5y		C-2y		C-2.5y		C-3y		C-3.5y		C-4y		C-4.5y		C-5y		C-5.5y		C-6y		総数		
	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,663	97.4	2,649	96.2	2,643	95.2	2,631	93.6	2,623	92.4	2,609	92.3	2,543	89.8	2,077	89.4	1,658	88.2	1,172	87.2	787	87.5	452	87.4	24,507	92.5	
富山ユニットセンター	5,345	96.7	5,338	93.9	5,327	92.0	5,313	90.8	5,301	89.5	5,283	88.3	5,200	87.2	4,325	85.4	3,484	84.1	2,613	81.7	1,830	83.5	1,024	83.1	50,383	89.3	
京都ユニットセンター	3,868	95.7	3,843	93.5	3,830	91.6	3,836	90.6	3,832	89.7	3,816	88.8	3,716	86.3	3,024	84.9	2,387	84.3	1,605	82.2	984	82.3	399	84.0	35,140	89.2	
宮崎大学サブユニットセンター	1,828	95.8	1,823	94.3	1,814	93.8	1,808	89.2	1,806	86.9	1,798	90.5	1,794	91.3	1,498	85.0	1,217	80.9	916	80.3	677	79.5	393	79.9	17,372	89.0	
鳥取ユニットセンター	3,024	95.2	3,021	93.4	3,016	91.4	3,013	89.0	3,004	88.2	2,988	87.0	2,965	84.5	2,510	83.3	2,049	82.5	1,504	78.7	1,031	80.3	580	79.1	28,705	87.6	
神奈川ユニットセンター	6,362	95.3	6,343	92.9	6,318	90.1	6,301	88.2	6,246	86.4	6,191	85.6	6,096	83.4	5,015	82.5	3,978	81.5	2,801	78.4	1,728	80.3	827	80.3	58,206	87.0	
兵庫ユニットセンター	4,977	95.0	4,967	92.5	4,963	90.8	4,952	88.9	4,942	86.8	4,927	85.4	4,882	83.1	4,284	80.8	3,479	79.2	2,637	75.6	1,806	77.6	875	76.0	47,691	86.1	
九州大学サブユニットセンター	4,543	93.9	4,529	91.1	4,513	89.4	4,500	87.6	4,488	86.5	4,469	85.7	4,413	83.5	3,727	82.6	3,025	80.5	2,305	78.4	1,622	78.8	892	75.8	43,026	86.1	
愛知ユニットセンター	5,522	92.8	5,514	90.9	5,502	88.9	5,482	87.9	5,460	86.8	5,444	86.0	5,356	83.3	4,551	82.0	3,630	80.5	2,580	77.9	1,688	78.0	834	80.0	51,563	86.1	
福島ユニットセンター	12,832	96.9	12,737	94.1	12,692	91.0	12,655	87.7	12,632	85.0	12,607	82.7	12,446	79.2	9,534	77.7	6,370	76.6	3,198	74.5	1,777	76.1	1,020	76.2	110,500	85.9	
北海道ユニットセンター	7,714	94.1	7,673	91.9	7,657	90.3	7,647	88.3	7,646	86.7	7,641	84.0	7,458	81.3	6,115	80.5	4,710	78.5	3,328	75.1	2,145	76.1	1,169	75.1	70,903	85.6	
産業医科大学サブユニットセンター	2,930	94.3	2,917	90.1	2,912	88.2	2,921	86.7	2,923	85.6	2,917	84.8	2,866	82.0	2,410	81.2	1,920	80.2	1,438	77.7	965	80.0	535	83.0	27,654	85.5	
大阪ユニットセンター	7,807	93.1	7,794	90.7	7,782	88.8	7,770	86.5	7,757	85.1	7,734	84.1	7,659	81.4	6,394	80.4	5,003	78.1	3,830	76.4	2,774	78.5	1,620	77.3	73,924	84.8	
千葉ユニットセンター	5,896	91.8	5,883	89.9	5,867	88.4	5,852	86.3	5,814	84.6	5,766	82.5	5,579	79.8	4,753	78.6	3,891	76.0	2,919	73.8	1,879	74.8	923	73.8	55,022	83.6	
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,454	93.2	4,423	87.9	4,405	84.9	4,387	82.6	4,376	81.2	4,364	80.6	4,267	78.0	3,588	77.5	2,905	76.2	2,177	72.9	1,510	75.8	864	76.2	41,720	81.9	
宮城ユニットセンター	8,955	90.3	8,940	86.6	8,923	85.0	8,884	84.0	8,847	82.9	8,797	81.9	8,729	79.5	7,905	77.5	6,535	75.9	4,999	74.2	3,503	75.1	1,816	72.8	86,833	81.9	
高知ユニットセンター	6,887	91.7	6,875	89.1	6,865	86.7	6,837	85.3	6,824	84.5	6,804	80.0	6,656	75.4	5,462	73.8	4,298	69.9	3,114	68.4	2,072	66.9	1,172	65.7	63,866	81.1	
琉球大学サブユニットセンター	859	95.9	854	93.3	853	89.0	851	82.5	849	78.6	844	76.5	834	74.1	711	72.0	561	72.7	398	69.3	279	71.7	161	71.4	8,054	81.0	
熊本大学サブユニットセンター	3,005	91.5	3,000	88.4	2,995	83.2	2,990	82.9	2,980	76.8	2,972	76.4	2,921	72.9	2,478	71.5	2,002	71.7	1,473	69.7	996	70.9	568	75.2	28,380	79.0	
コアセンター	51	92.2	116	93.1	131	93.1	77	87.0	20	85.0																	
合計	99,522	94.1	99,239	91.3	99,008	89.2	98,707	87.2	98,370	85.6	97,971	84.1	96,380	81.4	80,361	80.0	63,102	78.3	45,007	76.0	30,053	77.1	16,124	76.6	923,844	85.2	

※質問票の回収率:

全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。
送付後6か月経過した平成30年9月28日時点での出生後6か月から6歳までの回収数を用いて算出した。

表 2 別紙 質問票回収率の推移

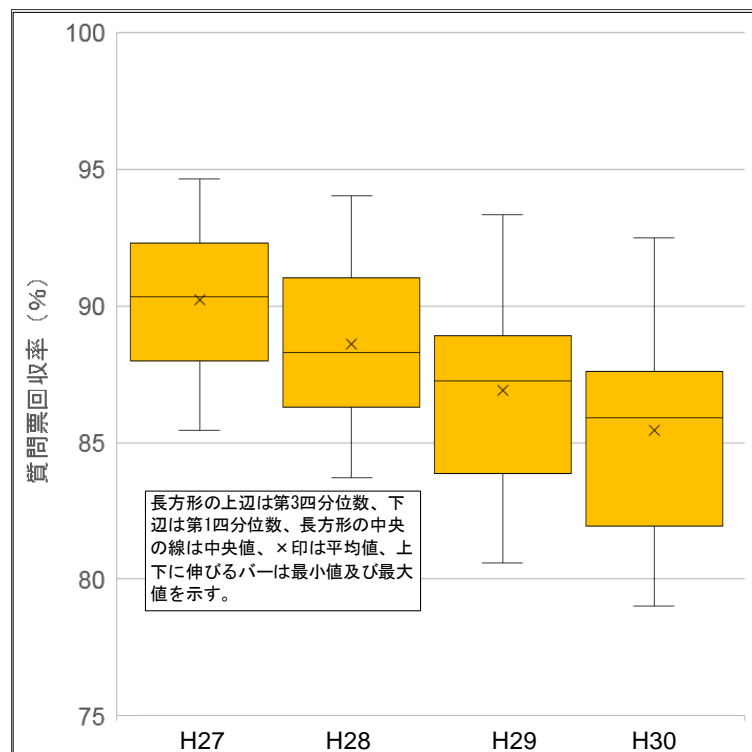


図 1 質問票回収率のばらつき推移

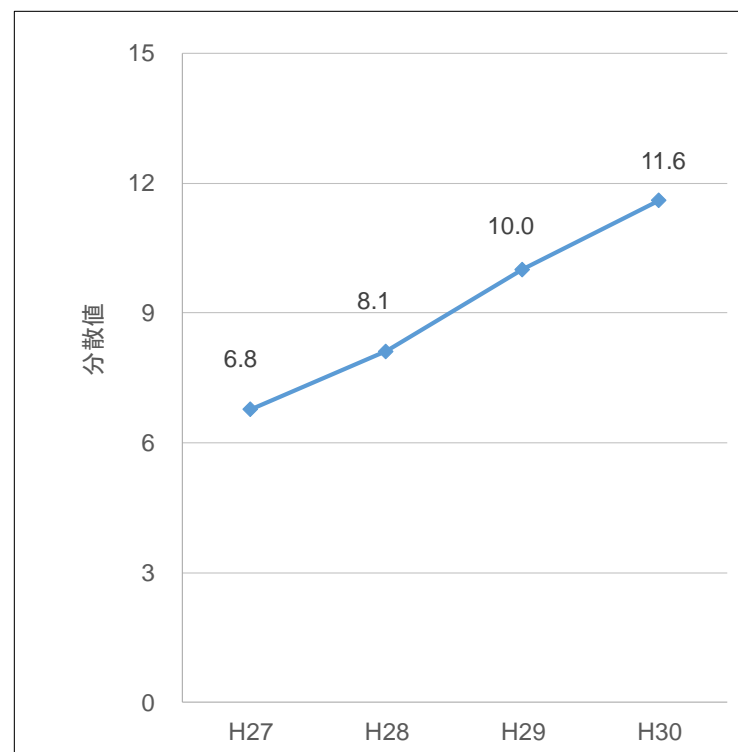


図 2 質問票回収率 分散値の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均 (%)	90.2	88.6	86.9	85.2
分散値	6.8	8.1	10.0	11.6
最大値 (%)	94.6	94.0	93.3	92.5
最小値 (%)	85.5	83.7	80.6	79.0
第 1 四分位数 (%)	88.5	86.7	84.5	82.8
第 3 四分位数 (%)	92.1	90.8	88.7	87.3
範囲	9.2	10.3	12.7	13.5

※ 平成27年度は平成27年10月2日時点の集計値

※ 平成28年度は平成28年9月29日時点の集計値

※ 平成29年度は平成29年9月26日時点の集計値

※ 平成30年度は平成30年9月28日現在の集計値

表3 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と6歳回収率）【平成30年9月28日時点の累積、6ヶ月後】※低減率の低い順に表示

ユニットセンター/ サブユニットセンター	C-6m		C-1y		C-1.5y		C-2y		C-2.5y		C-3y		C-3.5y		C-4y		C-4.5y		C-5y		C-5.5y		C-6y		総数		低減率
	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	6m-6y (回収率%)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,663	97.4	2,649	96.2	2,643	95.2	2,631	93.6	2,623	92.4	2,609	92.3	2,543	89.8	2,077	89.4	1,658	88.2	1,172	87.2	787	87.5	452	87.4	24,507	92.5	10.1
産業医科大学サブユニットセンター	2,930	94.3	2,917	90.1	2,912	88.2	2,921	86.7	2,923	85.6	2,917	84.8	2,866	82.0	2,410	81.2	1,920	80.2	1,438	77.7	965	80.0	535	83.0	27,654	85.5	11.3
京都ユニットセンター	3,868	95.7	3,843	93.5	3,830	91.6	3,836	90.6	3,832	89.7	3,816	88.8	3,716	86.3	3,024	84.9	2,387	84.3	1,605	82.2	984	82.3	399	84.0	35,140	89.2	11.7
愛知ユニットセンター	5,522	92.8	5,514	90.9	5,502	88.9	5,482	87.9	5,460	86.8	5,444	86.0	5,356	83.3	4,551	82.0	3,630	80.5	2,580	77.9	1,688	78.0	834	80.0	51,563	86.1	12.9
富山ユニットセンター	5,345	96.7	5,338	93.9	5,327	92.0	5,313	90.8	5,301	89.5	5,283	88.3	5,200	87.2	4,325	85.4	3,484	84.1	2,613	81.7	1,830	83.5	1,024	83.1	50,383	89.3	13.5
神奈川ユニットセンター	6,362	95.3	6,343	92.9	6,318	90.1	6,301	88.2	6,246	86.4	6,191	85.6	6,096	83.4	5,015	82.5	3,978	81.5	2,801	78.4	1,728	80.3	827	80.3	58,206	87.0	15.0
大阪ユニットセンター	7,807	93.1	7,794	90.7	7,782	88.8	7,770	86.5	7,757	85.1	7,734	84.1	7,659	81.4	6,394	80.4	5,003	78.1	3,830	76.4	2,774	78.5	1,620	77.3	73,924	84.8	15.8
宮崎大学サブユニットセンター	1,828	95.8	1,823	94.3	1,814	93.8	1,808	89.2	1,806	86.9	1,798	90.5	1,794	91.3	1,498	85.0	1,217	80.9	916	80.3	677	79.5	393	79.9	17,372	89.0	15.9
鳥取ユニットセンター	3,024	95.2	3,021	93.4	3,016	91.4	3,013	89.0	3,004	88.2	2,988	87.0	2,965	84.5	2,510	83.3	2,049	82.5	1,504	78.7	1,031	80.3	580	79.1	28,705	87.6	16.1
熊本大学サブユニットセンター	3,005	91.5	3,000	88.4	2,995	83.2	2,990	82.9	2,980	76.8	2,972	76.4	2,921	72.9	2,478	71.5	2,002	71.7	1,473	69.7	996	70.9	568	75.2	28,380	79.0	16.4
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,454	93.2	4,423	87.9	4,405	84.9	4,387	82.6	4,376	81.2	4,364	80.6	4,267	78.0	3,588	77.5	2,905	76.2	2,177	72.9	1,510	75.8	864	76.2	41,720	81.9	17.1
宮城ユニットセンター	8,955	90.3	8,940	86.6	8,923	85.0	8,884	84.0	8,847	82.9	8,797	81.9	8,729	79.5	7,905	77.5	6,535	75.9	4,999	74.2	3,503	75.1	1,816	72.8	86,833	81.9	17.5
千葉ユニットセンター	5,896	91.8	5,883	89.9	5,867	88.4	5,852	86.3	5,814	84.6	5,766	82.5	5,579	79.8	4,753	78.6	3,891	76.0	2,919	73.8	1,879	74.8	923	73.8	55,022	83.6	18.0
九州大学サブユニットセンター	4,543	93.9	4,529	91.1	4,513	89.4	4,500	87.6	4,488	86.5	4,469	85.7	4,413	83.5	3,727	82.6	3,025	80.5	2,305	78.4	1,622	78.8	892	75.8	43,026	86.1	18.1
兵庫ユニットセンター	4,977	95.0	4,967	92.5	4,963	90.8	4,952	88.9	4,942	86.8	4,927	85.4	4,882	83.1	4,284	80.8	3,479	79.2	2,637	75.6	1,806	77.6	875	76.0	47,691	86.1	19.0
北海道ユニットセンター	7,714	94.1	7,673	91.9	7,657	90.3	7,647	88.3	7,646	86.7	7,641	84.0	7,458	81.3	6,115	80.5	4,710	78.5	3,328	75.1	2,145	76.1	1,169	75.1	70,903	85.6	19.0
福島ユニットセンター	12,832	96.9	12,737	94.1	12,692	91.0	12,655	87.7	12,632	85.0	12,607	82.7	12,446	79.2	9,534	77.7	6,370	76.6	3,198	74.5	1,777	76.1	1,020	76.2	110,500	85.9	20.8
琉球大学サブユニットセンター	859	95.9	854	93.3	853	89.0	851	82.5	849	78.6	844	76.5	834	74.1	711	72.0	561	72.7	398	69.3	279	71.7	161	71.4	8,054	81.0	24.5
高知ユニットセンター	6,887	91.7	6,875	89.1	6,865	86.7	6,837	85.3	6,824	84.5	6,804	80.0	6,656	75.4	5,462	73.8	4,298	69.9	3,114	68.4	2,072	66.9	1,172	65.7	63,866	81.1	26.0
コアセンター	51	92.2	116	93.1	131	93.1	77	87.0	20	85.0																	
合計	99,522	94.1	99,239	91.3	99,008	89.2	98,707	87.2	98,370	85.6	97,971	84.1	96,380	81.4	80,361	80.0	63,102	78.3	45,007	76.0	30,053	77.1	16,124	76.6	923,844	85.2	17.5

※質問票の回収率：
 全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。
 送付後6か月経過した平成30年9月28日時点での出生後6か月から6歳までの回収数を用いて算出した。

表4-1 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【平成30年9月28日時点の累積、6ヶ月後】

※差が正に大きい順に表示

ユニットセンター/ サブユニットセンター	H29, H30 の一次直線の傾き 注1)		
	H29 注2)	H30 注3)	差 (H30-H29)
熊本大学サブユニットセンター	-2.6464	-1.7766	0.8698
産業医科大学サブユニットセンター	-1.7784	-1.1781	0.6004
琉球大学サブユニットセンター	-2.9225	-2.3517	0.5708
甲信ユニットセンター(山梨大学)	-1.9195	-1.4889	0.4306
大阪ユニットセンター	-1.9058	-1.5007	0.4051
九州大学サブユニットセンター	-1.8817	-1.5305	0.3512
兵庫ユニットセンター	-2.1638	-1.8144	0.3493
富山ユニットセンター	-1.5995	-1.2655	0.3340
鳥取ユニットセンター	-1.7994	-1.5177	0.2817
千葉ユニットセンター	-2.0370	-1.7764	0.2606
神奈川ユニットセンター	-1.6778	-1.4267	0.2511
京都ユニットセンター	-1.4496	-1.2029	0.2467
宮崎大学サブユニットセンター	-1.8094	-1.5700	0.2395
甲信サブユニットセンター(信州大学)	-1.1322	-0.9886	0.1435
宮城ユニットセンター	-1.6440	-1.5114	0.1326
愛知ユニットセンター	-1.4758	-1.3574	0.1184
福島ユニットセンター	-2.0973	-2.0511	0.0462
北海道ユニットセンター	-1.8881	-1.8468	0.0413
高知ユニットセンター	-2.5146	-2.5431	-0.0285
総計(値は平均値)	-1.9128	-1.6157	0.2971
標準偏差(SD)	0.4178	0.3822	0.2125

注記

1) 質問票の累積回収率(発送後6か月経過後)を用いて、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳、4歳半、5歳、5歳半、6歳時の質問票回収率の低下を、回帰直線の傾きとして評価

2) H29: 平成29年9月26日時点における、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳、4歳半、5歳時を、それぞれXとして1~10を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。(表4-2参照)

3) H30: 平成30年9月28日時点における、生後6か月、1歳、1歳半、2歳、2歳半、3歳、3歳半、4歳、4歳半、5歳、5歳半、6歳時を、それぞれXとして1~12を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。(表4-2参照)

表4-2 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【平成30年9月28日時点の累積、6ヶ月後】

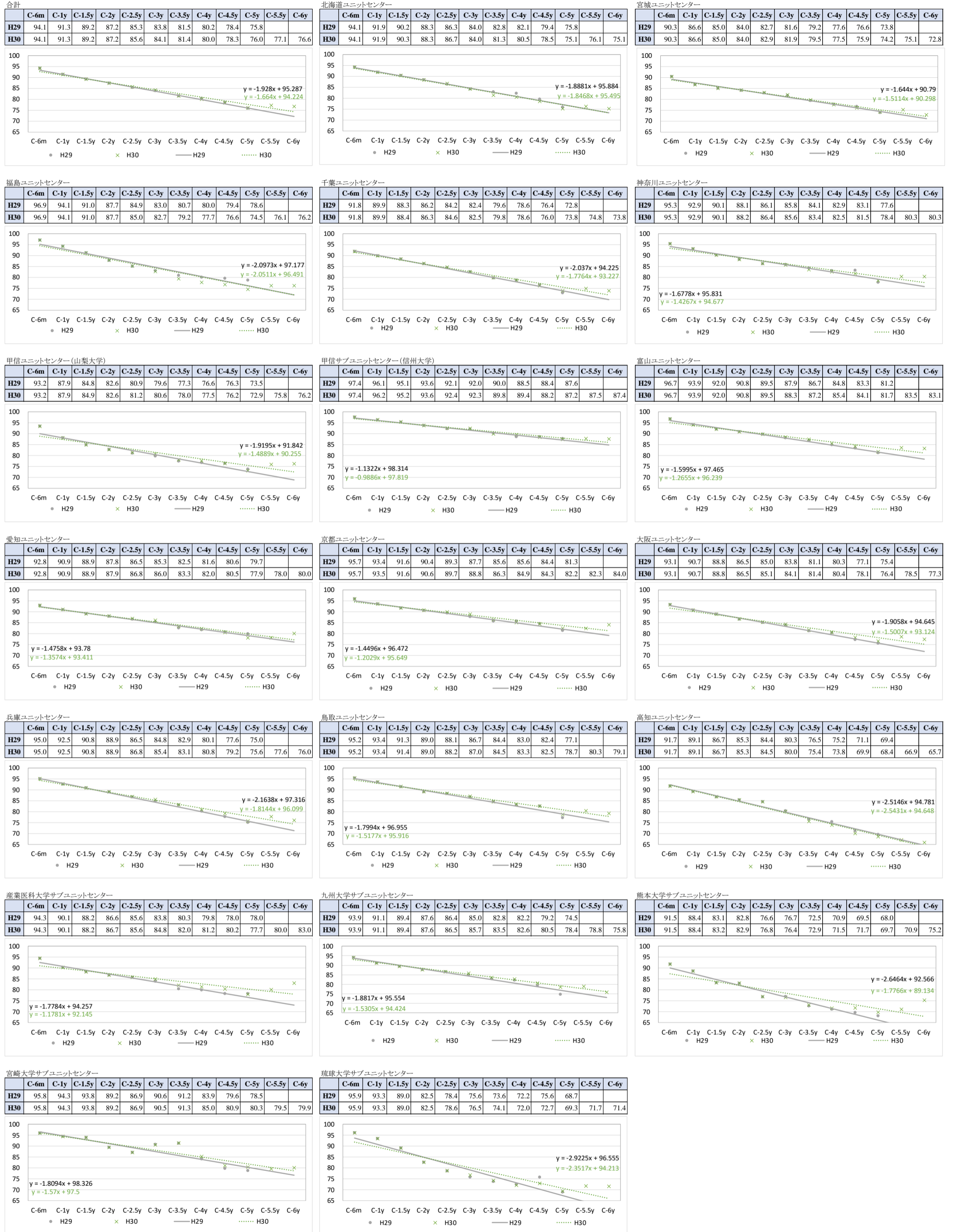


表5 ユニットセンターでの特に優れたフォローアップに係る取組

ユニットセンター/ サブユニットセンタ ー	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセン ター	<p>●エコチル調査参加者及び市民への成果還元として、市民講演会での成果発表や終了後の質疑応答や談話会等、さらに高校生向けの出前講義等で、より広い年齢層へエコチル調査への成果の報告を行っている。</p> <p>●アンケートをもとに、参加者の希望が多いイベント（他地域では実施していない内容のもの）を実施し、参加者の満足度も高い。また学童期の児童が増えることを考慮し、学びの要素を、イベント企画や広報誌に取り入れている。</p> <p>●ほとんどのユニットセンターで落ち込みがみられる5歳質問票の回収をメインに、1回もしくは2回質問票未提出者に焦点を絞って架電を行っているのが良い。まずは、参加意欲の高そうと思われる集団に働きかけることで、取りこぼしを少なくしようというやり方は参考になった。</p>
宮城ユニットセンタ ー	<p>●個別の質問票回収状況を分析しており、個別の対応を行っている点。</p> <p>●「質問票3回提出でアメニティ」キャンペーンの実施と評価。その結果、モノの提供から成果の還元への方向転換。：質問票の回収状況を整理・評価し、「質問票3回提出でアメニティ」キャンペーン実施・分析後、「疫学調査の原点に戻り、成果を還元する」という方針を確認したことが特に良いと思われた。</p>
福島ユニットセンタ ー	<p>●特に評価した内容は、参加意識の維持向上の取組であった。具体的には、保護者向け環境セミナーの開催において、新たな企画参加者の増加への期待とともに、社会に還元する取組として有用と思われた。また、質問票単純集計結果報告書をリーフレットとして作成する試みは、参加者だけではなく関係者への成果や意義の共有として機能するものと思われた。また、転送不要による郵送は、早期での転居情報収集を可能とするため参考にすべき取組と考えた。</p>
甲信ユニットセンタ ー（山梨大学）	<p>●発達に合わせた「子ども用プリント教材」を作成し、参加児へのアプローチが実施されている。また返送された教材にコメントを書き再返送するなど、参加児とのコミュニケーションツールとして活用できる可能性を感じる。</p> <p>●当該ユニットセンターの特徴は、質問票発送作業の試行により、独自の取組が展開されていたことである。またそれにより、返送率の多角的な分析の観察がなされていた。中身が見えるビニール製封筒への変更が、旧封筒使用との比較による回収率向上を促すこと、記入漏れ防止対策としてのチェックボックスが未記入発生数を低下させたこと、発送曜日変更が平均返送数に変化を与えたことなど、取組に対して具体的な効果の検証をされていることは特筆できるものであり参考にできる内容であった。</p>
甲信サブユニットセ ンター（信州大学）	<p>●質問票回収率に関する明確かつ実現可能性の高い目標が掲げられており、効率的かつ工夫されたアプローチによって、目標を達成している点は、評価に値すると考えられた。</p>

ユニットセンター／サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
	<p>●返送依頼対象者を細かく絞りだし、その方々に対して重点的に要請を実施し、効果があるアプローチが出来ていた為。</p>
富山ユニットセンター	<p>●電話による返送依頼方法の際に、時間を決め架電を行うことで、電話がつながる対象者が増え、返送率が2倍に増えていることから、電話を用いた返送依頼の取組は特に良いと感じた。</p> <p>●評価すべき取組は、質問票返送率とイベント参加との関連に着目し、イベント参加経験のない人のニーズを掘り起こし、質問票返送増加に結びつけた点にある。イベント参加経験のない人に対するアンケートにより、運動・手作り体験・自然体験といったキーワードを抽出し、「親子でできる運動遊び」「スポーツフェスタ」を新たな企画として実施され、約20%の参加者増加の結果を得られていた。また記入の不備を減らす対策として、メモっとカレンダー作成のアイデアも秀逸であった。</p>
鳥取ユニットセンター	<p>●これからの学童期検査に向けて、必要になる情報である身長・体重・欠席の記録を残しておくことができる「和暦表付きの身長・体重・欠席記録ノート」を配布している。類似の取組は他のユニットセンターでもあったが、和暦がついている点、欠席の記録も含む点が優れている。</p> <p>●「3歳と3歳半質問票未提出者への質問票の再送付」について、ポイントを絞って、プレゼントキャンペーンと質問票の再送付を実施したことにより、効果があつた点。</p> <p>●イベントの企画や運営を外部委託せず、センターのスタッフのみで行ったことで経費削減を実現した。また地元のプロサッカーチームの選手を招待することで、イベント参加率を高めるとともに、エコチル調査が地域に根づいたものであると参加者が実感できる効果をあげている。</p>
高知ユニットセンター	<p>●どのユニットセンターでも質問票回収率の低減率抑制の取組はされているが、特に「フォローアップ対策チーム」を立ち上げ、謝礼方法の変更など重点的に取り組んでいる点が評価される。</p> <p>●アンケート調査による参加者の意見を収集しつつ、質問票の回収率の傾向を考慮して謝礼の方法を変更し、実際に質問票の回収率が改善している。調査結果を地域に還元するための取組や広報活動を積極的に行った結果、参加者以外のエコチル調査の認知度が向上している。</p>
産業医科大学サブユニットセンター	<p>●「新小学1年生への鉛筆・チラシ配布」について、地域の教育委員会や校長会と連携し、全ての新1年生にエコチル調査の情報を提供し、小学校にポスター展示をするなど、参加児の成長とともに教育現場との連携強化が図られている点。</p> <p>●今までイベントに参加していない希望者を中心に抽選することで、イベントの新規参加者が20%増え、さらに調査継続意欲の向上につながっている。</p> <p>●発達障害のある子どもへの対応のために、小児科医及び臨床心理士による発達障害についての定期的な勉強会を開いており、それを実際にイベント等で実践している。</p>
熊本大学サブユニッ	<p>●小学1年質問票の事前案内に、オリジナルの成長記録帳や目に付く</p>

ユニットセンター／サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
トセンター	<p>ところで活用できるマグネットを同封するなど、随所に工夫がみられる。</p> <p>●参加者の子どもをモデルとしたオリジナルポスター作製は、認知度アップにつながるだけでなく、参加者の当事者意識のアップにもなる。</p> <p>●ゲーム感覚を上手に取り入れた質問票スタンプラリー企画は、モチベーションが途切れないような工夫（リーチ案内など）もよく考えられており、親子が一緒に頑張れる取組がされている。</p> <p>●回収率が低い地域に対し、集中して取組を行っている。</p>

【北海道ユニットセンター】

ア 参加者へのモチベーションの維持に対する取組

参加者満足度の高いイベントの実施

毎回イベント後に実施するアンケートをもとに、実施曜日や内容など参加者の満足度が高く、ニーズに沿ったイベントを企画した。特に希望者が多いイベントの実施回数や開催地区を増やした。子供の成長に合わせて、社会科見学や親子セミナーなど、学習の要素を取り入れた新たなイベントを企画した。

参加者向けイベントとして、料理教室を5回（札幌3回、旭川、北見各1回）、写真撮影会を3回（札幌、旭川、北見各1回）、フルーツ狩りを2回（札幌）、親子遠足を2回（旭川、北見各1回）、防災食セミナーを1回（札幌）開催した。旭川では、独自に親子ダンス教室を開催した。北見では独自にエコチルママの会（親子ビクスやいきもの教室）を3回開催した。

イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

5歳以降質問票の回収率上昇に向けた分析と対策

① 通常の返送依頼に加えた「電話による返送依頼」の実施

2018年8月28日時点での北海道ユニットセンターの5歳質問票以降の回収率（75.2%）は全国平均（76.0%）より低かった。質問票回収率低下の理由を分析したところ3年間のリクルート期間で2年目、3年目に登録した参加者からの回収率低下が認められた。5歳質問票が未提出の参加者のうち、4.5歳までは全ての質問票を提出していたが、5歳未提出の参加者が145名（4.5%）、5歳とその他1回の質問票が未提出（2回未提出）の参加者が108名（3.4%）いた。これらの参加者は、調査への参加意欲が高い集団と思われるため、電話にて積極的に返送依頼を行った。

② 返送依頼ハガキの変更

北海道ユニットセンターでは質問票未提出者へ、返送依頼をカラー印刷した通常の郵便ハガキで行っている。数年、同じハガキを送付しているのに、受け取った参加者に「返送依頼に対する慣れ」が生じていると考えられたので、北海道ユニットセンターキャラクター「エゾチルくん」の型抜きハガキを送付して返送依頼を行い、手に取りやすく目立つことで返送効果が向上するようにした。

ウ コミュニケーション活動に対する取組

広報誌「エゾチル通信」の配布とホームページ（HP）の充実

これまでと同様に、半年に1回、広報誌の発行を企画した。子育てや子どもの成長に関する情報提供に加え、事前のアンケートからエコチル調査でわかったことを知りたいという要望が多く寄せられたため、調査結果の報告ページのさらなる充実に注力した。また、学童期の児が増えるため、親子で楽しめる絵本紹介コーナーを新設、毎号同梱する付録も、新たに学びの要素も含んだ内容（動物の足跡クイズや迷路など親子で楽しむ小冊子）を企画した。

小学生になる時期に合わせて、北海道ユニットセンターのマスコットキャラクターの友達を増やす企画をし、広報誌を通してその企画を発表、キャラクターの名前を参加者から公募した。また、参加者がぬりえなどの作品や子どもの写真投稿、クイズの答えの発表などをWeb上で行うことで、HPに誘導すると共に、参加者コミュニケーションの場として積極的に活用した。旭川地区では、地域に密着した情報提供を行うため独自の広報誌を新たに発刊した。北見地区では独自の広報誌の作成を継続した。広報誌「エゾチル通信」第12号には楽器の工作キット、13号には、子ども向け小冊子「エゾチル通信ミニ」を同梱した。旭川では、H30年6月に地域に密着した独自の広報誌「エコチル旭川だより ぽっけ」を創刊した。北見ではH30年6月に、独自の広報誌「すまいる！エコチル」第3号を、12月に第4号を発行する。

エコチル調査参加者および市民への成果還元

市民講演会では必ずエコチル調査による成果発表の時間を設けた。質疑応答や終

(P) 計画
(D) 実施

了後の談話を通して、研究者と参加者が近い距離で交流することで、調査をより身近に感じてもらうことができた。さらに、高校生向けの出前講義で、エコチル調査の成果を報告し、より広い年齢層にエコチル調査について知ってもらう機会を設けた。

ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組

参加者満足度の高いイベントの実施

イベント実施後に行ったアンケートの集計結果から、ほぼすべての参加者がいずれのイベントも「大変満足」「満足」と評価し、全員が「また是非参加したい」と回答している。また、アンケートでは質問票の返送状況も聞いているが、ほぼすべての参加者が「毎回返送している」と回答した。イベント応募者の過去の質問票の返送状況を調べると、返送率は大変高く、イベント参加者および応募者は、調査参加意欲の高い集団であることが明らかになった。参加者の中には、イベント参加の様子を自身の SNS にアップしたり、北海道ユニットセンターの HP に写真投稿する人もいる。また、質問票と一緒に、イベントに参加できた感謝の言葉がメモで寄せられるなど、参加者は楽しい経験をすることができたと考えられる。過去の応募状況を考慮した当選者の決定方法を継続していることから、参加者の偏りなく、より多くの調査参加者にリーチアウトすることができた。

イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

5歳以降質問票の回収率上昇に向けた分析と対策

5歳のみ未提出、または5歳とその他1回の質問票が未提出(2回未提出)の参加者253名のうち、返送依頼開始時に未だ提出がみられなかった245名を架電対象者とした。

架電数	通話数	提出同意	提出不同意	協力 取り止め	保留	架電時に 提出済	不通 (ハガキ送付)
245	156 (63.7%)	144 (58.8%)	3 (1.2%)	4 (1.6%)	3 (1.2%)	2 (0.8%)	89 (36.3%)

(C) 評価

電話がつながった156名(63.7%)のうち、質問票の提出の意思を示したもの(質問票の再送希望を含む)が144名(58.8%)で、好意的な反応が得られた。実際に参加者と話すことで、質問票未提出の理由では「すでに提出したと思った」という参加者の勘違いに加え、「忙しくて忘れていた」や、「下の子の妊娠」「転居」「近所にポストがなくなった」など、参加者の環境の変化が未提出につながるということがわかった。また、2015年度から北海道ユニットセンターでは謝礼をQuoカードからnanacoポイントに変更したが、参加者の中には謝礼がnanacoポイントに変わったことを知らず、「もう質問票を出しても謝礼がないと思っていた」という参加者もいた。電話による返送依頼が協力取り止め増加につながる恐れもあったが、一旦調査をお休みする「保留」を提案することで、保留が3名(1.2%)となり、一方で、協力取り止めは4名(1.6%)で通常の電話時よりも協力取り止めの割合は少なかった。架電対象者の5歳質問票の回収数は架電終了後2週間で46件であり、架電対象者抽出時点での5歳質問票回収率は76.6%と1.4%の増加がみられ、全国平均76.0%を上回り、今後もさらなる回収が見込まれる。3回電話してもつながらなかった参加者(不通)89名へは、別途返送依頼のハガキを送付した。

ウ コミュニケーション活動に対する取組

広報誌「エコチル通信」の配布とホームページ(HP)の充実

北海道ユニットセンター独自の調査結果を記事にすることで、質問票への回答がどのように生かされるのかを具体的に参加者へ示すことができた。専門家によるコラムは、他のユニットセンターから参加者に記事を紹介したいとの要望があり、意義ある情報提供になったと考えられる。また広報誌の工作の付録も、完成した写真の投稿が多数あったことから、参加者が楽しんで活用している様子が見えた。イベント実施時に行ったアンケートから、広報誌への満足度は高いものの、ホーム

	ページへのアクセス頻度があまり伸びていないことがわかった。
(A) 改善	<p>ア 参加者へのモチベーションの維持に対する取組 <u>参加者満足度の高いイベントの実施</u> イベントは、調査継続意欲の高い参加者に対してより調査への積極的参加を促すことができるため、引き続き継続する。とりわけ、フルーツ狩りなどアウトドアで楽しむ季節のイベントは大変反響が大きかったため、引き続き実施の方向であるが、天候に左右されるため、雨天時にも実施できる施設や内容を考える必要がある。また、社会科見学的なイベントの要望も多く、実施に向けては充実した体験を提供する施設の選定が重要になるため、細かな情報収集に努めたい。開催案内は、HP とハガキで行っているが、郵送費を抑えるために、複数のイベントを1枚のハガキでお知らせして、参加したいイベントを選択してもらう方法を増やす予定である。また、HP から簡単に応募できるような工夫が必要と考えられる。当選者の決定は、参加者の過去の応募状況を調べて偏りのないよう行っているが、イベント回数の増加にともない調べる作業量も増大する。次年度に向けて、過去の全イベントの応募者のデータベースを作成し、効率的に応募履歴を把握するよう準備している。</p> <p>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 <u>5歳以降質問票の回収率上昇に向けた分析と対策</u> これまでの協力状況が良好な参加者へは、積極的に電話による返送依頼を実施していく。同時に、参加者の調査や謝礼に対して困っていることを拾い上げることで、参加者がより調査に参加しやすい環境をつくることができると考える。希望する参加者には Quo カードでの謝礼支払いを行う。協力状況が良好であるが故に、未提出であるにも関わらず「提出したと思っていた」参加者が多くいたので、全参加者へ向けて質問票提出状況が一目でわかるようなもの(冷蔵庫に貼れる提出カレンダー、シール帳など)を作成して配布することを予定している。今後、未回収数が多い参加者へも通常返送依頼に加えた電話返送依頼を実施して、効果を検証する。</p> <p>ウ コミュニケーション活動に対する取組 <u>広報誌「エコチル通信」の配布とホームページ (HP) の充実</u> 参加者のインタビューと写真撮影は、好評であることから今後も3地区で継続し、参加者コミュニケーションに役立てる。参加者の要望に応じて、エコチル調査からわかった成果の報告をさらに充実させる。ホームページの活用については、イベント案内と実施報告をはじめとする様々な情報発信のツールとして、内容の充実を図るとともに更新回数をできるだけ増やすことで、閲覧数の増加を目標とする。</p>

【宮城ユニットセンター】

- ア 参加者へのモチベーションの維持に対する取組
- イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

質問票回収率で全国平均との間に差が存在する。例えば 4 歳調査票では宮城を除く全国平均は 80.2%であるのに対し、宮城は 77.5%であり、2.7%低い（表 1 2018 年 9 月末集計）。回収率の改善が求められている。

回収率改善を意図し、2017 年度まで質問票送付時にアメニティの事前発送を実施し、エコチル調査に対する関心を高めることで質問票返送を促す活動を行ってきたが、参加者がアメニティの受け取りに慣れてしまい、アメニティ送付の効果が薄れてきたと推測された。このため別の方策が必要と考えられた。

表 1 4 歳質問票の回収率の比較（2018 年 9 月末集計）

項目	宮城	全国（宮城を除く）
発送者	7,905	72,456
返送者	6,123	58,145
回収率	77.5%	80.2%

ところで、4 歳の未返送者に着目し、2 歳半～3 歳半の提出状況を整理し分類すると表 2 となった。（2017 年 6 月時点での未返送者 1,326 名の内訳）

(P) 計画

表 2 4 歳質問票の未返送者の過去提出状況（2017 年 3 月末）

質問票回収状況				人数
2 歳半	3 歳	3 歳半	4 歳	
○	○	○	×	222
×	○	○	×	27
○	×	○	×	28
×	×	○	×	25
○or×	○or×	×	×	1,024

特徴として、4 歳質問票と 3 歳半質問票を続けて未提出の方が 1,024 名観察されるものの、3 歳半は提出している方が 302 名であり、そのうち 2 歳半～3 歳半全てを提出している方は 222 名であった。すなわち「今まで返送していたが、今回だけ何かの事情で直近の返送を行わなかった参加者」が少なくないことが示された（302 名は 4 歳質問票発送数=7,905 に対して 3.8%に相当）。仮に、2 歳半～3 歳半を全て返送している 222 名の参加者が質問票を提出したとするならば、回収率は 2.8%改善し、全国平均との差も解消すると期待される。

質問票が繰り返し未提出な方へのアプローチは重要だが非常に難しい側面がある。一方で、上記の「4 歳質問票だけ未提出」の者はエコチル調査に積極的に参加しているものの、多忙やうっかり出し忘れなどの事情で未提出となった可能性が大きい。そこで毎回返送している方の「投函する」モチベーション維持を意図したプロジェクトとして、「3 回調査票を提出してくれた方へのアメニティ提供」の効果を検証することとした。

<p>(D) 実施</p>	<p>質問票を3回提出した方にアメニティを提供するキャンペーンを企画した。アメニティは、エコチル調査側で一方的に1種類に定めず、幅広い選択肢の中から自由に決めることができる方法とし、「辞退」も選択肢に加えることで、自由に選べる工夫を行なった。</p> <p>【対象となる質問票】 2017年7月以降に配布された質問票</p> <p>【周知方法】 2018年1月より、発送される質問票にキャンペーンの告知チラシを同梱した。一巡した2018年7月より発送される質問票には、実際のアメニティを掲載した告知チラシを同梱した。</p> <p>【残りの質問票数を通知する方法】 謝礼の返送時に、参加者が必ず見るクオカードのケースにアメニティをもらえる残りの質問票の数を知らせるシールを貼付した。また、前回の質問票が未提出の方には、通知シールに対象となる質問票の種類を明記し、提出を促した。3回質問票を返送した方には、謝礼のクオカードとともにアメニティのカタログと応募ハガキを同封した。</p> <p>【アメニティの選択と発送について】 事前にアメニティを11種類準備し、参加者はその中から自由に選択できる方法とした。選択肢には「辞退」も追加した。アメニティの準備では、教育文具や小学校で使える教材などを選択した。参加者から届いた応募ハガキに基づき、希望のアメニティを郵便にて1ヶ月以内に発送を行った。</p>																												
<p>(C) 評価</p>	<p>キャンペーンの主要評価項目を回収率とし、副次的評価項目として質問票到着までの所要日数として、キャンペーンの告知チラシを同梱する前と後で比較を行った。回収のデータ固定は、「質問票を発送し、3ヶ月以上経過した回収」とした。</p> <p>表3 各年齢の質問票の回収率の比較</p> <table border="1" data-bbox="454 1173 1019 1473"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>同梱前</th> <th>同梱後</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3歳半</td> <td>80.2%</td> <td>79.9%</td> <td>-0.3%</td> </tr> <tr> <td>4歳</td> <td>76.3%</td> <td>76.8%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>4歳半</td> <td>75.0%</td> <td>74.4%</td> <td>-0.6%</td> </tr> <tr> <td>5歳</td> <td>74.1%</td> <td>70.8%</td> <td>-3.3%</td> </tr> <tr> <td>5歳半</td> <td>74.8%</td> <td>76.7%</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>6歳</td> <td>72.9%</td> <td>72.1%</td> <td>-0.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>質問票回収率では、実施年齢ごとに異なるパターンが観察されたが、全体として回収率改善の効果はないと判断された。回収率には季節的変動があること、また2018年7月後半から質問票発送が宮城に変更となっていることから、季節や発送時期を調整して比較も行なったが、回収率改善は観察されなかった。</p> <p>次に、副次的評価として、質問票発送から返送までの所要日数の中央値を比較したところ、5歳質問票では、キャンペーン前は質問票を発送してから25日目に返送があったことに対してキャンペーン後は22日、5歳半では23日に対して19日、6歳では23日に対して19日であり、キャンペーン開始後に返送が早くなる傾向が確認された（質問票発送が宮城に切り替えた時期を除外しても同様な結果）。このことからキャンペーン自体には「返送へのモチベーションを高める効果」はあったものの、回収率そのものの改善を引き出すほどのものではないことが示された。</p> <p>なお、評価項目ではないものの、参加者が選択したアメニティは、①日本地図</p>	種類	同梱前	同梱後	増減	3歳半	80.2%	79.9%	-0.3%	4歳	76.3%	76.8%	0.5%	4歳半	75.0%	74.4%	-0.6%	5歳	74.1%	70.8%	-3.3%	5歳半	74.8%	76.7%	1.8%	6歳	72.9%	72.1%	-0.8%
種類	同梱前	同梱後	増減																										
3歳半	80.2%	79.9%	-0.3%																										
4歳	76.3%	76.8%	0.5%																										
4歳半	75.0%	74.4%	-0.6%																										
5歳	74.1%	70.8%	-3.3%																										
5歳半	74.8%	76.7%	1.8%																										
6歳	72.9%	72.1%	-0.8%																										

	<p>の puzzles (29.0%)、②腕時計 (17.7%)、③クーパー (13.0%) などであり、教育的なアメニティや、子ども自身が選択する機会を提供するなどの意義があったものと期待された (10 月末集計で、応募ハガキ発行数 2,004 枚に対し、返送数 1,435 枚)。また、辞退の意思表示が 1 件あった (アメニティ交換希望の未返送者がいることから、事実上の辞退者はもう少しいると推測された)。</p>
(A) 改善	<p>質問票未提出に対して、アメニティなどの「モノ」で提出を促す手法に対して限界が示されたものと考えられた。言い換えれば、質問票を提出してくれる方は、付加的な景品がなくても協力してくれることを示唆している。景品で行動を変える方がいたとしても、僅かな割合ではないかと結論された。実際、アメニティの受け取りを辞退する方も散見された。従って、今後は疫学調査の原点に戻って、成果を還元することにより回収率の維持・改善に重点を置くべきと考えられた。今後、その具体的なコンテンツについて検討し、情報提供する方法の改善を考えたい。</p> <p>次に、キャンペーンの有効性が限定的であった点として、キャンペーン対象の質問票の種類が個人によって異なるなど、周知する上でもやや複雑であり、周知手段も質問票送付時に告知チラシを入れるだけにとどめてしまい、キャンペーンの説明が不十分であったことが考えられた。チラシを入れるだけでは、伝わらないことが多く、様々な媒体を介して周知を行っていくことが重要であると考えられる。この点では、ニュースレターなどを作成する上でも普遍的な教訓と考えられた。</p> <p>なお、3 回キャンペーンは現在も継続中であり (2019 年末まで継続)、しっかりとシステム設計を行いたい。さらに、キャンペーンにより「次の調査票提出へのモチベーション」が維持されることも期待される。キャンペーン効果については次年度も総括を行う計画である。</p>

【福島ユニットセンター】

<p>(P) 計画</p>	<p>指標：「現参加者の減少率を年1%以内にとどめるとともに、質問票の年間回収率（発送後6か月時点）を80%以上に維持する。」 指標達成のため、次の項目に取り組む。</p> <p>1 参加意識の維持向上</p> <p>(1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施</p> <p>① エコチルふれあい会の開催 参加者と直接顔の見えるコミュニケーションのとれる貴重な機会であり、県内6地域で計16回開催する。これまでの親子及び保護者対象の企画に加え、今年度は新たに学童期を対象に制作ワークショップを取り入れた内容で企画し実施する。</p> <p>② 環境セミナーの開催 環境については関心が高いことから、保護者を対象とした講演会を開催する。</p> <p>(2) 質問票単純集計結果報告書（リーフレット）の作成 学童期検査開始など転換期を迎え、参加者および関係者と調査の意義や成果を共有するため、質問票単純集計結果報告書（リーフレット）を作成する。</p> <p>2 詳細調査の利便性の向上 2歳時に比べ、4歳詳細調査の欠測数が大幅に増加している。その理由として仕事の都合や検査曜日時間に都合がつかないなど日程が合わないことが大半を占めており、ユニットセンターの検査設定により欠測を防げる可能性があることが判明したことから、参加者が検査を受けやすい環境を整備する。</p> <p>3 ニュースレター「転送不要」の実施（現住所への確実な質問票の送付を目的とし、ユニットセンターが発行するニュースレターの送付を「転送不要」扱いとする）（新規） あて先不明で返戻された時には、参加者へ速やかに連絡し転居先を確認する。それでも確認できない場合、リクルート時の同意に基づき自治体へ住所照会を実施している。（継続） 平成29年度末までに住所照会により住所が判明した事例の多くは、照会日より1年以上前に転居している。あて先不明となるまでの期間との差が生じる一つの理由に、参加者の郵便物の転送サービス利用が考えられる。実際の転居から照会日までの間に、さらに転居したため追跡不能となり、住所が判明しなかった事例もある。 このため、住所変更に対応し、質問票等を確実に届けるため、全参加者に対し「転送不要」扱いで、次のとおりニュースレターを郵送する。</p> <table border="1" data-bbox="300 1473 1487 1619"> <thead> <tr> <th>ニュースレター発行時期</th> <th>福島本部事務所</th> <th>郡山事務所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年6月末</td> <td>次号から「転送不要」とする案内</td> <td>準備</td> </tr> <tr> <td>平成30年9月末</td> <td>「転送不要」扱い開始</td> <td>次号から「転送不要」とする案内</td> </tr> <tr> <td>平成30年12月末</td> <td>継続</td> <td>「転送不要」扱い開始</td> </tr> </tbody> </table> <p>現在、2週間ごとの質問票発送に関連した住所確認作業は年間約130件あるため、「転送不要」扱いによる早期の住所確認は、ユニットセンター質問票発送作業移管後の関連業務の効率化につながることを期待される。</p> <p>4 質問票回収状況の分析と対策（継続） 福島本部事務所および郡山事務所全体調査担当者が定期的にミーティングを開催し、質問票の回収率維持についてデータを基に対策を検討する。</p>	ニュースレター発行時期	福島本部事務所	郡山事務所	平成30年6月末	次号から「転送不要」とする案内	準備	平成30年9月末	「転送不要」扱い開始	次号から「転送不要」とする案内	平成30年12月末	継続	「転送不要」扱い開始
ニュースレター発行時期	福島本部事務所	郡山事務所											
平成30年6月末	次号から「転送不要」とする案内	準備											
平成30年9月末	「転送不要」扱い開始	次号から「転送不要」とする案内											
平成30年12月末	継続	「転送不要」扱い開始											
<p>(D) 実施</p>	<p>1 参加意識の維持向上</p> <p>(1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施</p> <p>① エコチルふれあい会の開催 計画した16回のうち、10月末までに10回開催し252人の親子交流し、リズムミック、キッズダンス、笑いヨガ等で楽しんだ。 このうち今年度新たに企画した学童期を対象としたふれあい会（制作ワーク</p>												

	<p>ショップ) を 27 名の参加を得て計画どおり 7 月 31 日に実施した。 また、参加者を対象に事業評価のためのアンケート調査を実施した。</p> <p>② 環境セミナーの開催 平成 31 年 2 月の実施に向けて、テーマ及び講師を決定し、準備を進めている。</p> <p>(2) 質問票単純集計結果報告書 (リーフレット) の作成 妊娠中から 4 歳 6 ヶ月までの子育てに関する質問事項のうち約 30 項目の結果をまとめたリーフレットを作成した。 編集に当たっては、ご覧になられた方にとってわかりやすい表現になるよう努めた。また、環境省のエコチル調査ホームページに掲載されている全国データを用いた成果発表一覧を案内する等、広く調査結果を伝えられるように内容を工夫した。 なお、作成したリーフレットは、今年度中に参加者や関係者に配付する予定である。</p> <p>2 詳細調査 (医学的検査) の利便性の向上 参加者が検査を受けやすい環境を整備するため、次のとおり実施した。 ア 詳細調査参加者 614 名を対象に、6 歳詳細調査日程調整に関する意向調査を 6 月から 7 月にかけて実施した。 なお、回答は 540 件で回収率は 87.7%であった。 イ 意向調査の結果に基づき、6 歳詳細調査の曜日や時間帯などの利便性の向上を図るため、県内各地域の個人医院に協力をいただくよう準備を進めている。</p> <p>3 ニュースレター「転送不要」の実施 福島本部事務所で、平成 30 年 9 月末に「転送不要」扱いでニュースレターを 5,032 部郵送した結果、171 件 (3.4%、平成 30 年 10 月 31 日現在) があて先不明で返戻された。現在、電話又はショートメールで参加者への転居確認作業を行い、確認済は 132 件である。 郡山事務所では、次号発送分から「転送不要」扱いにする旨を 9 月末に参加者に案内し、予定どおり 12 月末の発送分より実施する予定である。</p> <p>4 質問票回収状況の分析と対策 福島本部事務所及び郡山事務所の質問票調査担当者が、毎月同じ指標で回収状況を含む全体調査の進捗状況を報告するようにし、これにより得られたデータを基に、質問票の回収率維持について対策を検討するため、両事務所の全体調査担当者による定期的なミーティングを開催した。</p>
(C) 評価	<p>1 参加意識の維持向上</p> <p>(1) 子どもの成長や子育て環境に応じたイベントの実施</p> <p>① エコチルふれあい会 ふれあい会の参加者を対象に事業評価のためのアンケート調査を実施したところ、回収率は 98.4%であり、「満足」及び「まあまあ満足」との回答は 96.0%であった。 また、今年度新たに企画した学童期を対象としたふれあい会には親子 27 名が参加したが、その満足度は 100%で高かった。この学童期対象の参加者は、これまでふれあい会に参加していない人の割合が 50%で、子ども及び保護者対象とした企画での割合 34.4%に比べて高かったことから、新たなイベント参加者を生み出すことができたものと考えている。</p> <p>② 環境セミナーの開催 平成 31 年 2 月に開催する環境セミナーにおいても、新たな参加者の増加に期待しており、アンケートを実施し、評価する予定である。</p> <p>(2) 質問票単純集計結果報告書 (リーフレット) の作成 配付後の活用状況等については、今後アンケート調査を行うなどして評価する</p>

予定である。

2 詳細調査（医学的検査）の利便性の向上

参加者へ検査協力の都合をつけやすい条件についての質問項目の集計により、現在実施している平日午前から午後3時ごろまでの設定で、6歳医学的検査において都合をつけやすいと回答した方は、およそ40%にとどまった。

この結果から、利便性の拡大が必要であると判断し、県内2次医療機関および個人医院に協力を依頼した。その結果、4歳医学的検査実施機関は10施設であったが、6歳医学的検査は、新たに21施設の協力を得て計31施設に増やし、また土曜日や夕方の時間帯など対応時間を拡大し実施する予定である。こうした取組により、多忙な参加者から協力を得るための利便性を向上させることができると考えられる。

3 ニュースレター「転送不要」の実施

福島本部事務所では、1回のニュースレター発送で、従来約20件程度が返戻されていた。「転送不要」扱いとすることで、約8倍のあて先不明件数となった。確認作業開始から約1か月間で132件(77.2%)の転居先等を確認し、残り39件(22.8%)の参加者の状況が未確認である。また、10月中にコアセンターから発送された質問票の返戻件数は3件で、上半期の件数との差はみられなかった。これは確認作業中であったためと考えられ、11月以降の返戻件数は減少し、効率よく質問票が参加者に届けることができると期待している。

これらの取組により、質問票が参加者へ確実に郵送できる可能性が高まったと考えられ、今後郡山事務所においても同様に実施する予定である。

4 質問票回収状況の分析と対策

平成30年9月末現在、当ユニットセンターの質問票総発送数110,500件に対し発送後6ヶ月時点での回収数は94,908件であり、回収率は85.9%である。質問票の回収率(発送後6ヶ月時点)を80%以上に維持するという指標は現時点で達成できている。

しかし、他ユニットセンター平均回収率と同様に年齢が上がるとともに回収率が低下する傾向であるとともに、2歳半質問票以降ユニットセンターの質問票回収率について、平成29年9月末時点(第86回実務担当者WEB会議資料)と平成30年9月末時点(第98回実務担当者WEB会議資料)の回収率および他ユニットセンターとの平均の差を比較すると、質問票の発送スケジュールが進むにつれ他ユニットセンター平均回収率より若干下回る傾向がみられるものの、全ユニットセンターとほぼ同様の水準を維持している(表1)。

表1 福島ユニットセンターと他ユニットセンター平均回収率推移とその差

検討時期	回収率	6か月	1歳	1歳半	2歳	2歳半	3歳	3歳半	4歳	4歳半	5歳	5歳半	6歳
平成29年9月末現在	福島UCの回収率(a)	96.9%	94.1%	91.0%	87.7%	84.9%	83.0%	80.7%	80.0%	79.4%	78.6%	77.2%	発送後6か月未満
	福島UCを除くUC平均回収率(b)	93.6%	90.9%	88.9%	87.1%	85.4%	83.9%	81.6%	80.2%	78.4%	75.6%	75.7%	
	回収率の差(a-b)	3.3%	3.2%	2.2%	0.5%	-0.5%	-1.0%	-0.9%	-0.2%	1.1%	3.0%	1.4%	
平成30年9月末現在	福島UCの回収率(a)	96.9%	94.1%	91.0%	87.7%	85.0%	82.7%	79.2%	77.7%	76.6%	74.5%	76.1%	76.2%
	福島UCを除くUC平均回収率(b)	93.6%	90.9%	88.9%	87.2%	85.6%	84.3%	81.7%	80.3%	78.5%	76.1%	77.2%	76.6%
	回収率の差(a-b)	3.3%	3.2%	2.1%	0.5%	-0.6%	-1.6%	-2.5%	-2.6%	-1.9%	-1.6%	-1.1%	-0.5%

*グレー：現在も発送中の質問票、**発送後6か月以上のデータを使用

当ユニットセンターの特殊性を把握するために、現在実施している4歳、5歳、6歳質問票の出生年及び事務所毎の回収率を比較した(表2)。この結果、出生年次を追うごと回収率が低下傾向にあること(両事務所共通)や、郡山事務所独自の取組としてお礼のショートメールを送っているものの、福島本部事務所より低い傾向にあることがわかった。

このため、回収率の維持向上を図るためには、参加者全員への取組はもちろんであるが、平成24年以降の出生、及び郡山事務所管轄の参加者の参加意欲の向上につながるような効果的な対応策を検討していく必要がある。

表2 出生年、事務所ごとの質問票回収率

		4歳	5歳	6歳
福島本部	H23年出生	82.2%	80.3%	77.1%
郡山	H23年出生	89.0%	80.9%	78.7%
福島本部	H24年出生	80.2%	74.6%	74.9%
郡山	H24年出生	76.2%	70.2%	77.5%
福島本部	H25年出生	77.1%	73.5%	未実施
郡	H25年出生	75.3%	68.3%	未実施
福島本部	H26年出生	76.0%	未実施	未実施
郡山	H26年出生	72.7%	未実施	未実施

*グレー：現在も発送中の質問票、** 発送後6か月以上のデータを使用

表3 現参加率の推移

	出生件数	転出	転入	打ち切り	うち死亡	現参加者数	現参加率 [※]
平成29年9月29日時点	12,867	38	104	355	23	12,543	97.5%
平成30年9月28日時点		71	116	453	23	12,459	96.8%

※現参加率は、平成29年度年次評価表1に基づき算出。転出入を考慮した現参加率は、平成29年9月29日時点97.0%、平成30年9月28日時点96.5%であり、マイナス0.5ポイントであった。

【総合評価：指標に対する評価】

上記の取組との直接的な因果関係は分析していないが、過去1年間の転出入件数を調整していない協力取りやめ、同意撤回などによる子ども現参加率の減少は、マイナス0.7ポイントであり、現参加者の減少率を1%以内にとどめることができた。

(表3)

また、既述のとおり質問票の回収率についても80%以上を維持している。

以上により、指標は達成できている。

(A) 改善

1 参加意識の維持向上

今年度、新たに取り組んだ「環境セミナーの開催」や「リーフレットの作成」については、今後アンケート調査を行うなどして評価を行うこととしており、その評価結果を踏まえて必要な改善を図っていく。

2 詳細調査（医学的検査）の利便性の向上

6歳医学的検査の実施に当たり、協力医療機関の増加や実施する曜日及び時間帯の拡大が、参加者にとって利便性の向上につながったか、また職員にとって日程調整の負担が軽減されたかなど、検討していきたい。

3 ニュースレター「転送不要」の実施

郡山事務所で、計画どおりニュースレターの12月末の発送分から、「転送不要」扱いを実施し、年度内に返戻郵送物のあて先確認作業を行う。

また、両事務所で確認作業後の質問票発送後返戻件数の推移をモニタリングし、この計画が、質問票発送作業の効率化に関連しているか検討する。

4 質問票回収状況の分析と対策：全体調査担当者会議の機能強化等

回収率の低下など全体調査に関する課題を解決するため、担当者会議を定期的で開催し対応を検討してきたが、評価の結果を踏まえ、課題に対して、計画、実施、評価、改善までのアクションがスムーズに行われるよう当該会議の機能強化を図っていく。

特に、下半期では今後質問票回収率が全国平均と比較してマイナス1ポイントを下回らないことを目標とし、事務所（地域）ごとの現状の分析を進めさらなる対応策を検討する。

【甲信ユニットセンター】

<p>(P) 計画</p>	<p>コアセンターが行っているエコチル調査の質問票の発送作業を、各ユニットセンターに移すための試行が 2018 年度からスタートし、甲信ユニットセンターも試行ユニットセンターの 1 つになった。甲信ユニットセンターでは、質問票の発送機会を参加者コミュニケーション活動の契機ととらえ、質問票に同梱する広報物や発送方法などについて、新たに独自の取組を展開する。</p> <p>この取組は、それによって質問票の返送数や返送率が向上することも視野に入れた内容にすることとし、その効果を検証するため、ユニットから発送した質問票の返送状況を多角的に分析し、返送率などの変化を観察する。</p>
<p>(D) 実施</p>	<p>6 月 25 日発送分より甲信ユニットセンターへ作業が移行され、独自の取組として、以下の 4 点を新たに取り入れた。</p> <p>① オリジナル発送用封筒の作成 質問票一式を送付する封筒について、質問票が封入されていることが開けなくても分かるよう、新たに半透明のビニール製封筒を作成した。</p> <p>② 子ども用プリント教材の作成 バースデーカードが同梱されない 4 歳半、5 歳半、1 年生の質問票には、ユニットセンターのオリジナルキャラクターを使って、子ども用のプリント教材（4 歳半→点つなぎ、5 歳半→まちがいさがし、1 年生→めいろ）を作成して同梱し、子どもたちにも楽しんでもらえるように工夫した（別添）。</p> <p>③ 返信用封筒への記入漏れ防止策 質問票の記入漏れ防止策として、返信用封筒の裏面に以下の内容のチェックボックスを印刷したシールを貼付した。</p> <p>④ 発送曜日の変更 コアセンターの発送日は、毎回基本的に月曜日に設定されていたが、質問票が週末に参加者宅に届くよう、発送日を木曜日に設定した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>忘れずにご記入ください</p> <p><input type="checkbox"/> 質問票記入日</p> <p><input type="checkbox"/> お名前</p> <p><input type="checkbox"/> 身長・体重・測定日</p> </div>
<p>(C) 評価</p>	<p>① オリジナル発送用封筒の作成について 甲信ユニットセンターでは、質問票を発送してから 6 週間後に未返送の参加者に対し、ショートメールで返送依頼を行っている。本年 4 月以降、質問票を発送した参加者のうち、ショートメールを送信した人の割合について、質問票をコアセンターから発送した群と、新たな封筒を使ってユニットセンターから発送した群とで比較してみた。</p> <p>その結果、4 歳ではショートメール送信率が 0.8 ポイント増えたものの、4 歳半、5 歳、5 歳半、6 歳の 4 段階ではすべて送信率が低下しており、中でも 6 歳では 7.9 ポイントの低下がみられた（表 1 参照）。</p> <p>これは質問票が届いてから約 1 か月半の間に、自発的に返送した参加者が増えたことを表しており、その理由として、質問票をビニール製の封筒で送付したことにより、参加者が封入されている質問票に気づきやすくなり、早期記入、早期返送につながった可能性があり、回収率の向上に寄与する可能性が示唆された。</p> <p>一方で、ショートメール送信からさらに 4 週間後に未返送の参加者に対して行っている電話による返送依頼の際、「質問票が入っていると思わずに捨ててしまった」という参加者が数名存在した。今までとは異なる封筒で届いたことにより、質問票だと気が付かないケースがあることも分かった。</p> <p>■表 1 質問票をコアセンターから発送した群とユニットセンターから発送した群のショートメールによる返送依頼率の比較</p>

		4歳	4歳半	5歳	5歳半	6歳
コアセンター から発送 4/16～6/11	質問票発送数	275	309	292	280	272
	ショートメール送信数	114	155	158	135	122
	送信率	41.5%	50.2%	54.1%	48.2%	44.9%
ユニットセンター から発送 6/25～9/3	質問票発送数	324	298	339	309	316
	ショートメール送信数	137	138	171	143	117
	送信率	42.3%	46.3%	50.4%	46.3%	37.0%
送信率の増減		0.8	-3.9	-3.7	-1.9	-7.9

② 子ども用プリント教材の作成について

子ども用のプリント教材の効果を数的に評価することは難しいが、実際に子どもが取り組んだプリントが、質問票とともにユニットセンターに返送されてきたケースが、これまでに13件（点つなぎ6、まちがいさがし3、めいろ4）あった。

その場合は、リサーチコーディネーターが「上手だね」「よくできました」などのコメントを書き、母親へのお礼状とともに再度返送しており、子どもと直接コミュニケーションが取れるツールとして役立っており、今後さらに展開したい。

③ 返信用封筒への記入漏れ防止策について

甲信ユニットセンターでは、返送された質問票の数を毎日記録しているが、その際、「身長・体重」の未記入数も併せて確認している。それによると、返信用封筒の裏面に、記入漏れ防止のためのチェックボックスシールを貼付し始めた6月以降、身長・体重が未記入となっている質問票が減少したことが分かった（表2参照）。

また、参加者の名前の記入漏れも6月以降、1件も発生しておらず、チェックボックスの効果が確認できた。

■表2 質問票の返送数と「身長・体重」の未記入率の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
質問票返送数	435	438	470	409	486	482	517
うち身長・体重未記入数	13	11	4	4	6	4	3
未記入率	3.0%	2.5%	0.9%	1.0%	1.2%	0.8%	0.6%

④ 発送曜日の変更について

質問票の発送曜日を、月曜から木曜に変更したことによる効果については、週明けの月曜日にユニットセンターに届く質問票の数で検証した。それによると、4月～6月の月曜（祝日の場合は火曜含む13回）に届いた質問票は合わせて539冊で、平均数は41.5冊だったのに対し、7月～10月22日までの月曜（17回）に届いた質問票は計766冊で平均数45.1冊となり、木曜発送に変更後、月曜日の平均返送数が増えていることが分かった。

木曜に発送した質問票のほとんどは、翌日金曜には参加者宅に届くため、その週末を使って質問票に記入する参加者がわずかながら増えている可能性が感じられた。

(A) 改善

質問票の到着を参加者に気づいてもらいやすくすることを目的に、中身が透けて見えるビニール製の封筒を作成したが、これまでの封筒に慣れている参加者の中には、見慣れない封筒だったために中身をよく確認しないまま廃棄してしまったと思われるケースが確認できた。このため、参加者全員に配布しているニューズレターで、質問票を発送する封筒が新しくなったことを写真入りで告知し、注意喚起を行

った。

また、ユニットセンターが質問票の発送を始めてからまだ4か月しか経過していないため、今回は質問票返送率への影響に関する検証まではできなかったが、今後はさらに、質問票をコアセンターから発送した群と、ユニットセンターから発送した群の発送半年後の返送率などについても比較検証する予定である。



いつもエコチル調査にご協力いただき、ありがとうございます。お子さんと一緒に楽しみください。

てんつなぎ

おともだちと うみに きたよ。1から じゆんに 10までの ●を せんで つなごう。
なにに のって いるかな。



エコチル やまなし

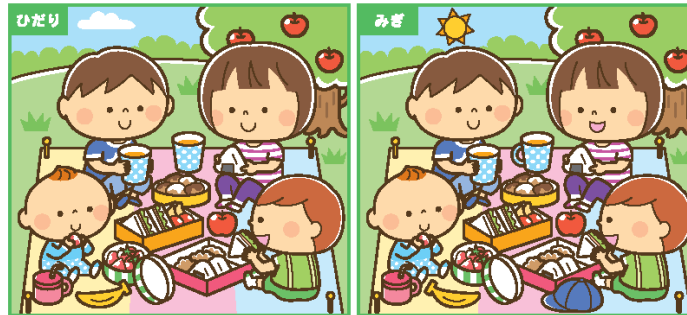
おなまえ



いつもエコチル調査にご協力いただき、ありがとうございます。お子さんと一緒に楽しみください。

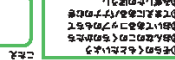
まちがいさがし

おともだちと えんそくに きたよ。 ひだりのえと みぎのえには ぜんぶで 5つ
ちがうところがあるよ。 どころが ちがうか みつけて みぎの えに まるをつけてね。



エコチル やまなし

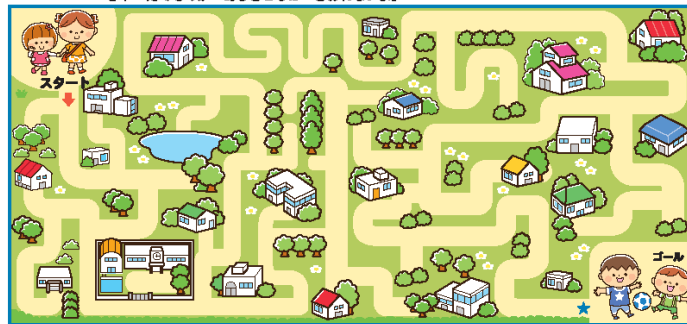
おなまえ



いつもエコチル調査にご協力いただき、ありがとうございます。お子さんと一緒に楽しみください。

めいろ

★の スタートから ☆の ゴールまで すずもう。おともだちの ところまで いけるかな。
きや たてものが あるところは とおれないよ。



エコチル やまなし

おなまえ



別添

【甲信サブユニットセンター】

<p>(P) 計画</p>	<p>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 6ヶ月から3歳までの質問票と比較し返送率が悪く、伸び悩んでいた3歳半質問票について、重点的にアプローチを行い2018年4月時点で85.3%だった返送率を、3歳半質問票発送終了後6ヶ月経過時点で90%台に乗せることを目標として設定した。 実際に、2017年10月～2018年4月の6ヶ月間での返送率の伸びを見ると、全国平均が1.7%であるのに対し当サブユニットセンターは1.0%（2017年10月84.3%→2018年4月85.3%）と低い水準だった。 （根拠となる数字はすべて実務担当者Web会議の資料を基に記載）</p>
<p>(D) 実施</p>	<p>返送依頼を行うにあたり、<u>発送から6ヶ月の間に返送していただけるような効率的なスケジュール・アプローチの方法、ハガキの内容について検討した。</u></p> <p>① <u>質問票発送から6ヶ月の時点で1回目の電話。</u> 電話については他の質問票と同じタイミングで、普段行っている返送依頼の流れに沿って実施。</p> <p>② <u>そこから1ヶ月経過した時点で1通目のハガキを発送。</u> 当センターのキャラクターをメインに、「3歳6か月の質問票書き終わりましたか？」というメッセージを入れ、冷蔵庫等に貼っても目に留まるリマインダーとしての効果も狙い、カラフルでキャッチーなデザインのもの新しく作成。</p> <p>③ <u>ハガキを発送してから1ヶ月半経っても未返送の場合は2回目の電話。</u></p> <p>④ <u>2週間経過しても返送がない場合、「返送の確認ができておりませんので、念のため再送します」という内容の手書きのメッセージを添えて、質問票を再送。</u></p> <p>⑤ <u>1ヶ月経過しても返送がなければ、2通目のハガキを発送。</u> インパクトがある黄色のハガキで、3歳半の質問票についての返送依頼だということが分かるようなシンプルでインパクトがあるデザインのものを送付。 ここまでで発送から5ヶ月半が経過。</p> <p>⑥ <u>最後に、次の質問票発送までの間に事務局長が3回目の電話をした。</u></p>
<p>(C) 評価</p>	<p>2018年4月から10月の6ヶ月で返送依頼対象者は170人。 そのうち74.7%にあたる127人から返送があった。</p> <p>内訳は下記の通り。</p> <p>①1回目の電話：86人→返送：42人（48.8%） ②1通目のハガキ発送：66人→返送：22人（33.3%） ③2回目の電話：47人→返送：14人（29.7%） ④質問票の再送：63人→返送：27人（42.8%） ⑤2通目のハガキ発送：38人→返送：15人（39.4%） ⑥3回目の電話：16人→返送：7人（43.7%） ※それぞれの電話・ハガキは、それまで順調である、詳細調査の参加者である等、個別の理由から架電や発送を見送る方がいるため人数に変動がある。</p> <p>以上の通り、返送率の伸び悩みに対し重点的にアプローチを行った結果、<u>2018年4月から10月の6ヶ月間で、返送率が85.3%から90.0%まで4.7%上昇し、全国平均の2.5%と比較し非常に高い数字となり、目標であった90%に到達することができた。</u></p> <p>また、2017年10月から2018年4月の6ヶ月間の伸びと2018年4月と2018年10月の6ヶ月間での伸びを比較し、直近の6ヶ月間でどれだけ伸ばしたかを算出した結果、信州サブユニットセンターでは3.7%上昇していた。</p>

他のユニットセンターの平均が 0.9%であることを考えると、効果が高いアプローチが出来ていたことが分かる。

2018.10	C-3.5y			①半年間 (2018.4-2018.10) での伸び	2018.4	C-3.5y			②半年 (2017.10-2018.4) での伸び	2017.10	C-3.5y			直近半年で どれだけ 伸ばしたか
	発送	完了	%			発送	完了	%			発送	完了	%	
a	7,609	6,184	81.3%	2.2%	a	7,458	5,899	79.1%	0.4%	a	6,422	5,053	78.7%	1.8%
b	8,755	6,974	79.7%	1.1%	b	8,729	6,856	78.5%	1.5%	b	8,212	6,326	77.0%	-0.4%
c	12,570	9,959	79.2%	3.3%	c	12,446	9,450	75.9%	2.6%	c	10,279	7,538	73.3%	0.7%
d	5,725	4,572	79.9%	2.5%	d	5,579	4,317	77.4%	1.3%	d	4,971	3,783	76.1%	1.2%
e	6,161	5,143	83.5%	2.5%	e	6,096	4,935	81.0%	1.6%	e	5,345	4,241	79.3%	0.9%
f	4,323	3,380	78.2%	3.3%	f	4,267	3,194	74.9%	1.2%	f	3,767	2,774	73.6%	2.1%
信州	2,591	2,331	90.0%	4.7%	信州	2,543	2,168	85.3%	1.0%	信州	2,181	1,838	84.3%	3.7%
g	5,256	4,583	87.2%	2.2%	g	5,200	4,420	85.0%	1.3%	g	4,533	3,793	83.7%	0.9%
h	5,413	4,517	83.4%	2.0%	h	5,356	4,364	81.5%	1.9%	h	4,744	3,774	79.6%	0.0%
i	3,801	3,284	86.4%	4.1%	i	3,715	3,057	82.3%	2.5%	i	3,207	2,560	79.8%	1.6%
j	7,712	6,281	81.4%	2.3%	j	7,659	6,059	79.1%	2.0%	j	6,732	5,188	77.1%	0.3%
k	4,908	4,078	83.1%	1.8%	k	4,882	3,970	81.3%	2.3%	k	4,447	3,514	79.0%	-0.5%
l	2,975	2,517	84.6%	2.2%	l	2,965	2,444	82.4%	1.8%	l	2,627	2,117	80.6%	0.3%
m	6,765	5,104	75.4%	3.2%	m	6,656	4,807	72.2%	0.9%	m	5,745	4,097	71.3%	2.3%
n	2,912	2,389	82.0%	2.9%	n	2,866	2,268	79.1%	2.6%	n	2,530	1,936	76.5%	0.3%
o	4,451	3,717	83.5%	2.3%	o	4,413	3,583	81.2%	1.9%	o	3,893	3,087	79.3%	0.4%
p	2,958	2,161	73.1%	2.0%	p	2,921	2,075	71.0%	1.8%	p	2,598	1,800	69.3%	0.3%
q	1,794	1,638	91.3%	2.4%	q	1,794	1,595	88.9%	1.5%	q	1,562	1,366	87.5%	0.9%
r	837	622	74.3%	1.2%	r	834	610	73.1%	1.8%	r	744	531	71.4%	-0.6%
総計	97,516	79,434	81.5%	2.5%	総計	96,379	76,071	78.9%	1.7%	総計	84,539	65,316	77.3%	0.9%

(A) 改善

実現可能な計画を立て、検討を重ね予定通りに目標を達成できたことから、特段改善の必要はないと考える。
 しかし、より返送依頼効果の高いハガキのデザインや、電話での会話の内容等、さらに工夫の余地はある。今後も電話・ハガキを中心にアプローチを行い、同じ手段でもその中でバリエーションを増やし、参加者1人1人に合わせたフォローアップを行っていく必要がある。
 それが出来るように、些細な情報でもすべて独自に作成している進行管理ファイルに集約し、現在の返送率を維持する努力を継続していく。

質問票返送率と参加者モチベーションの維持・向上を目的に、以下の取組を行った。

① 発送後 12 週時点の電話による質問票の返送依頼

これまで質問票の返送率は高めの水準を維持しており、今後もこの返送率を維持するため、返送依頼方法は大きな変更を行わず実施した。

「発送後 12 週時点の電話による質問票の返送依頼」については、これまでは 5 歳、5 歳半質問票の返送率アップのために実施していたが、効果があったことから今年度は 4 歳～6 歳質問票での実施を計画し、電話がつながりやすいと期待された午前 11 時 50 分～午後 1 時頃に集中的に取り組んだ。

電話がつながった人には、「質問票が届いているか」をまず尋ね、返送の依頼よりは現状を傾聴する形に力を置いている。また、「仕事や育児が忙しい」や「記入が大変」等の話を聞いた場合、質問票を 1 回休んでもよいということや、答えにくい質問には×をつけて返送していただいてもよい等の返答をし、調査を継続していただけるよう働きかけをしている。

② 質問票発送用封筒への歯ブラシ同封（5 歳・小学 1 年生質問票の返送率）

質問票発送用の封筒にグッズを同封することで、開封を促すための企画を 4 歳～5 歳質問票で実施していたが、5 歳質問票の返送率が低かった。一方、5 歳半時は同封物が歯ブラシとしたせいか返送率は高い傾向があった。これは、4 歳～5 歳は 3 回連続で同じものが続いたことへの「飽き」があった可能性があったため、5 歳の同封物を歯ブラシに変更した。また、同封できる重量に余裕がある小学 1 年生質問票にも歯ブラシを同封した。

(P) 計画
(D) 実施

表：平成 30 年 3 月末の返送率と質問票に同封したグッズ

ステージ	返送率	平成29年度配布物	平成30年度配布物
4歳時	85.1%	ポケットティッシュ	ポケットティッシュ
4歳半時	83.7%	ポケットティッシュ	ポケットティッシュ
5歳時	81.5%	ポケットティッシュ	歯ブラシ
5歳半時	83.7%	歯ブラシ	歯ブラシ
6歳時	84.5%	重量超過のため同封なし	
7歳時	-	重量超過のため同封なし	
小学1年生時	-	-	歯ブラシ

③ 小学生質問票身体測定記録欠測を防ぐ「メモっとかれンダー」

小学 1 年生質問票は、学校から得られる身体測定記録を転記する必要がある。このことを周知し、身体測定記録の欠測が減ることを目的とした、記録の転記欄がある卓上カレンダー「メモっとかれンダー」を企画した（「メモっとかれ」＝富山弁で「メモしてね」の意）。卓上カレンダーを選択した理由は、もらって不快ではなく、目に留まり、1 年間使用するものであり、なくしやすいものではない…というスタッフの意見からの採



用であった。記録の転記欄はシールタイプとなっており、1年生の記録を2年生に持ち越せる構造になっている。小学1年生質問票にカレンダーの感想・使用の有無を尋ねるアンケートを同封し使用率を評価、また小学1年生質問票の身体測定記録の欠測率を検討した。

④新規参加者を増やすためのイベントの企画

富山ユニットセンターではこれまでイベント参加者の返送率が高く、脱落率が低いことを報告してきた。そして、イベント開催は「参加したからこそ調査そのものに熱心になる」方を増やすチャンスととらえ、新規のイベント参加者を増やすことを目標に掲げている。また、イベント参加経験がない人のニーズを把握するアンケートを実施したところ、潜在的にイベントに参加したいと考えている人が8割近くであり、参加したい企画は、運動・手作り体験・自然体験が上位を占めていることが明らかとなった（第76回日本公衆衛生学会総会；25, October；郡山 2018.にて報告）。そこで今年度は新たに、運動をメインとした全参加者対象のイベントを企画・実施した。幼児体育専門の先生を講師に迎えて行ってきた「親子でできる運動遊び」を発展させ、発育面の科学的な根拠に基づき、走る・投げる・跳ぶといった運動能力を測定する「スポーツフェスタ」を開催し、満足度と新規参加率を評価した。

①発送後12週時点の電話による質問票の返送依頼

平成30年4月～10月に電話対象となった人の4歳～6歳質問票の回収率を算出して評価を行った結果、電話がつながった人で質問票の返送があった人は194名中51名（26.3%）、電話がつながらなかった人で質問票の返送があった人は221名中32名（14.5%）であった（平成30年10月末時点）。返送率を比較すると、電話がつながった人の方がつながらなかった人より、約2倍返送率が高かった。

なお、電話がつながらなかった人に対しては、ショートメールやハガキで返送依頼を行った。

表：平成30年4月～10月に返送依頼の対象となった人の4歳～6歳質問票の返送率

調査時期	依頼対象者数	電話がつながった			電話がつながらなかった			
		計	返送なし	返送あり	計	返送なし	返送あり	
4歳時	73	41	32	9	32	27	5	15.6%
4歳半時	89	40	27	13	49	41	8	16.3%
5歳時	93	45	36	9	48	42	6	12.5%
5歳半時	110	49	33	16	61	51	10	16.4%
6歳時	50	19	15	4	31	28	3	9.7%
合計	415	194	143	51	221	189	32	14.5%

(C) 評価

②質問票発送用封筒への歯ブラシ同封（5歳・小学1年生質問票の返送率）

現在、5歳は発送から2週後に型抜きハガキの返送依頼を実施している。この対象にならずに質問票を返送した人を、型抜きハガキの取組期間中の参加者で比較したところ、歯ブラシ同封群の返送率がやや高かった。

ポケットティッシュ（平成29年5月～平成30年3月発送：1,415名）…… 33.8%
 歯ブラシ（平成30年4月～平成30年10月発送：861名）…………… 34.8%
 小学1年生質問票発送者984名の2週未満返送率を算出したところ、49.2%であった。これは、7歳質問票468名の2週未満返送率31.6%より高かった。

5歳の取組は6ヶ月経過後で検討できる人数が少ないので、今後も引き続き評価をする。

	<p>③小学生質問票身体測定記録欠測を防ぐ「メモっとカレンダー」 アンケートから 50%が使用したこと、そのうち 91.2%が使ってよかったと感じていることがわかった。測定日・身長・体重すべての的確に記入していたのは、1 学期 47.2%、2 学期 40.4%であった。的確に数値が埋まっている割合が、カレンダーの使用率に近い値であったことから、本グッズを活用して回答したことが推察された。このことから本グッズの配布は一定の効果があったことが確認できた。 また、小学 1 年生質問票の身体測定記録欄で問い合わせが必要だった質問票の割合は 7.4%であった。</p> <p>④新規参加者を増やすためのイベントの企画 「親子でできる運動遊び」「スポーツフェスタ」の実施後アンケート結果から、9 割以上の参加者が内容に満足と回答。“成長に合わせた運動方法・アドバイスが参考になった” “来年もまた開催してほしい” “運動の企画を続けてほしい” と期待する回答が多く見られた。 新規参加者の割合は、「親子でできる運動遊び」 43.9%、「スポーツフェスタ」 34.3%であった。全対象者のイベントへの新規参加割合が 20.7%であることと比較すると、新たな参加者の割合が高かった。アンケートの結果から参加者のニーズに合ったイベントを実施したことが新たな参加者の増加につながった。</p>
(A) 改善	<p>①発送後 12 週時点の電話による質問票の返送依頼 通話ができただけの場合 2 倍の返送を得たことから有効な取組であった。また、参加者の現状を知るうえでも有効だと考えられるため今後も継続していく。しかし平日のお昼頃の通話率は 50%程度なので、今後はつながりやすい時間帯の検討が課題である。来年度は学童期検査を行うことから、検査参加時のやりとり等で各参加者の通話可能時間帯を尋ねるなどし、情報収集を行い通話率の向上を目指す。</p> <p>②質問票発送用封筒への歯ブラシ同封（5 歳・小学 1 年生質問票の返送率） 今年度の検討では歯ブラシ同封による明瞭な返送率増加は認められなかったが、小学 1 年生質問票に同封したグッズ評価アンケートから、歯ブラシがよかったという回答は 86.2%と高かった。このことから、次年度も継続して歯ブラシを同封し、返送率への効果についても継続して確認していきたいと考えている。</p> <p>③小学生質問票身体測定記録欠測を防ぐ「メモっとカレンダー」 次年度は 1 年生向け、2 年生向けのデザインを作成し対象の学年に配布する。使用した人の 9 割以上がよかったと感じ、かつ、回答に活用したことが示唆されるグッズだったので、さらに使用者が増えるようデザインを工夫する。また、小学 2 年生質問票で 1 年生の記録が的確に埋まるか検討し、問合せが低下することを目指す。</p> <p>④新規参加者を増やすためのイベントの企画 新たな参加者が増える内容のイベント企画を今後も模索し、参加者と円滑にコミュニケーションを図れる場として活用していく。さらに参加者のモチベーションを維持するためにもアンケートから得た意見・要望を今後も検討したい。</p>

【鳥取ユニットセンター】

<p>(P) 計画 (D) 実行</p>	<p>エコチル調査への参加意識を向上させることで質問票の返送率を維持・向上するための取組</p> <p>(1) イベントの開催</p> <p>○大イベントでは、昨年イベント参加者へのアンケート結果から、科学に関することへの要望が多かったため、環境パフォーマーのらんま先生をお招きしてサイエンスショーを開催した。</p> <p>イベント当日は313名(95組)の参加があり、そのうちイベントに初めて参加された方が75名(24組)であった。</p> <p>当日は、3名の方が質問票を持参してくださり、また、イベント参加者で質問票未提出者の4名の方に質問票を直接手渡し、返送依頼することができた。</p> <p>○小イベントでは、地元のプロサッカーチームの選手をお招きして、要望の多かった体を動かすイベントを開催した。定員に対し、多くの参加申込があったため、定員を増やした。</p> <p>第1回・第2回合計で158名(50組)の参加があり、そのうちイベントに初めて参加された方が57名(18組)であった。初めてのイベント参加者が多く、みなさん興味のあるイベントであった。</p> <p>イベント当日、4名の方が質問票を持参してくださった。イベント参加者で質問票未提出者の4名の方に質問票を直接手渡し、返送依頼したところ、その後、3名の方から5冊の返送があった。</p> <p>平成30年10月31日現在では、子どもの現参加率96.7%と平成30年3月末時点より7か月で0.3%減にとどめていることから、今年度の鳥取ユニットセンターの指標である「子どもの現参加率の減少を1%以内にする」については達成する見込みである。</p> <p>・参考)子どもの現参加率 平成28年度98.2%(平成29年3月末時点)→平成29年度97.0%(平成30年3月末時点)1.2%減</p> <p>(2) ニュースレター「がいなだより」の発行・掲載によるプレゼントキャンペーンの再周知</p> <p>ニュースレターを年3回発行し、調査結果やイベント報告等と併せ、プレゼントキャンペーン(3歳、3歳半質問票を両方提出して頂くと「クーピー&スケッチブック」、5歳半、6歳質問票を両方提出して頂くと「じゅんぴボード」をプレゼント)の再周知をした。</p> <p>(3) 3歳、3歳半質問票未提出者への質問票の再送付</p> <p>3歳、3歳半質問票のどちらか一方を提出していない方へプレゼントキャンペーンの周知文と共に質問票を再送付することとし、計画通り実施した。</p> <p>該当者をリストアップし57名の方へ60冊送付したところ、18名の方から19冊の返送があり、返送率は<u>31.7%</u>と高い数字であった。</p> <p>(4) ノベルティの配布</p> <p>○参加者のモチベーションアップのため、小学1年生の参加者全員に入学のお祝いとして鉛筆と消しゴムを配布することとし、計画通り実施した。</p> <p>○学年質問票を記入する参加者の負担を減らすため、和暦表付きの身長・体重、欠席記録ノートを作成し、小学1年質問票に同封した。</p> <p>○これまでと同様に3歳、3歳半質問票を両方提出して頂くと「クーピー&スケッ</p>
--------------------------	--

	<p>チブック」、5歳半・6歳質問票を両方提出して頂くと「じゅんぴボード」をプレゼントするキャンペーンを実施する。</p> <p>(5)プレゼント企画付きクリスマスカードの発送 毎年クリスマスの時期に、プレゼントが当たるクリスマスカードを全参加者へ発送している。県外在住の参加者は、イベントには遠方で参加できないが、この企画は誰でも参加することができ、満足してもらえるため、今年も実施する予定である。</p> <p>また、メール等での応募の際、イベントに参加していない又は参加できない人の声もたくさん聞くことができ、参加者とのコミュニケーションを図る上で有効な企画となっている。</p> <p>参考)平成29年度クリスマスキャンペーン実施時における応募メールでの参加者の意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを記入することで、我が子の成長を振り返り、また大切な事を再認識できるので、只々過ぎていく毎日を立ち止まる機会を頂いています。 ・エコチル調査を通して、環境を意識するようになりました。これからも続けていきたいです。
(C) 評価	<p>(1)イベントの開催</p> <p>○大イベントの費用は参加者一人あたり、平成28年度1,256円(参加人数172人)、平成29年度1,074円(参加人数481人)、平成30年度639円(参加人数313人)と年々費用を抑えることができた。これまでイベント会社に企画・運営を委託してきたが、平成28年度より経費を削減するため、センターのスタッフのみで企画・運営を行うことにより、経費を抑えることが可能となった。</p> <p>また、イベント後のアンケートでは、「イベント満足度」は99%であり、「エコチル調査に参加して良かった」と回答した方は96%、「今後もエコチル調査を続けたい」と回答した方は98%であった。</p> <p>○小イベントの費用においても参加者一人あたり、平成28年度514円(参加人数132人)、平成29年度432円(参加人数72人)、平成30年度234円(参加人数128人)と年々費用を抑えることができた。</p> <p>また、イベント後のアンケートでは、「イベント満足度」は98%、「エコチル調査に参加して良かった」と回答した方は98%、「今後もエコチル調査を続けたい」と回答した方は98%であった。</p> <p>今年度のイベントでは初めて参加してくださった方が多かった。イベント参加者は質問票の返送率が高いため、イベントへの新規参加者を増やすことで、今後の質問票返送率上昇につながることを期待される。</p> <p>大・小イベント共に、費用を抑えることができ、アンケート結果より参加者の満足度も非常に高い数字であったことから、費用対効果が大きいことが分かった。</p> <p>また、イベントでは質問票未提出の参加者に対し、質問票を直接手渡し、返送依頼ができる場でもあり、今後もイベントの開催を続けていきたい。</p> <p>(2)ニューズレター「がいなだより」の発行・掲載によるプレゼントキャンペーンの再周知</p> <p>ニューズレターを発行し、誌上でプレゼントキャンペーンを実施していることを広く知ってもらうことにより、3歳、3歳半プレゼントキャンペーンの認知度が上がった。昨年の大イベント後のアンケートでは、3歳、3歳半プレゼントキャンペーンの認知度が62.5%であったが、今年の大イベント後のアンケートでは、<u>16.5%増</u>の79%へ認知度が上がった。プレゼントキャンペーンの認知度が上がることで、質問票の回収にもつながるため、今後もプレゼントキャンペーンの再周知を続けていきたい。</p>

	<p>(3) 3歳、3歳半質問票未提出者への質問票の再送付 「記入できなかった」、「プレゼントキャンペーンを知らなかった」等の理由により、質問票の提出ができなかった参加者に対し、質問票を再送付することで新たに質問票を回収でき、高い返送率であったため、今後、5歳半、6歳プレゼントキャンペーンでも同様に、どちらか一方を提出していない方への質問票の再送付を実施する。</p> <p>(4) ノベルティの配布 ○当ユニットセンターで作成した和暦表付きの身長・体重、欠席記録ノートを活用し、今後、学年単位の質問票を記入しやすくすることで、高い返送率が見込まれる。 ○今年の大イベント後のアンケートで、「まだプレゼントをお届けしていない方へ、今後質問票を返送したいですか（このプレゼントキャンペーンを認識した上で）」という質問に対し、返送したいと回答した方が98%であった。このことにより、プレゼントキャンペーンを実施・周知することで質問票返送率がアップすると考えられる。</p>
(A) 改善	<p>(1) イベントの開催、(2) ニュースレターの「がいなだより」発行・掲載によるプレゼントキャンペーンの再周知、(3) 5歳半、6歳プレゼントキャンペーン実施に伴うどちらか一方の質問票を提出していない方へプレゼントキャンペーンの周知文と共に質問票を再送付、(4) ノベルティ配布については高い質問票の返送率につながるため、今後も継続していき、さらに効果について分析を進めていくこととする。</p> <p>子どもの現参加率の維持のため、以下の取組を新たに実施していきたい。 ○プレゼントキャンペーンを実施、周知することで返送率を上げることができたため、今後、8歳質問票、小学2年質問票についても同様に両方の質問票提出者へのプレゼントキャンペーンを実施する予定である。 ○平成31年4月から、鳥取ユニットセンターにて質問票発送業務が始まるため、質問票返送率を上げる目的として、質問票にプレゼントキャンペーンチラシなどを同封する計画である。 ・8歳学童期検査の際、質問票未提出者に対し、質問票が記入できる場所を設ける予定である。</p>

【高知ユニットセンター】

<p>(P) 計画</p> <p>(D) 実施</p>	<p>観点1： 質問票回収率を維持・向上させるための取組 設定した指標： 質問票回収率の低減率抑制</p> <p>1) プレゼントキャンペーン (平成 28 年度より継続中) 質問票回収率向上のため、平成 28 年度より 5 歳質問票返送者に対して粗品贈呈のキャンペーンを継続中。5 歳質問票にチラシを同封するほか、質問票返送依頼時と年 2 回発行の広報誌にて告知。</p> <p>2) 質問票返送依頼回数の増加・内容・時期の変更 (平成 30 年 4 月～) ＜質問票発送後＞ 2 週間：オリジナルキャラクターの型抜きハガキを全員に送付 1 ヶ月：○歳質問票→電話。○歳半質問票→ショートメール 1 ヶ月半：ハガキ</p> <p>3) 対策チーム発足 平成 29 年度末に発足したフォローアップ対策チーム主導で、参加者へのハガキアンケートを実施 (6241 名中 2661 名回答。回答率 42.6%)。謝礼方法についての質問では、「金券やギフトカード」52%、「現状 (電子マネー) のままでよい」40%、「その他電子マネー」9%となり、電子マネーに移行してから 2 回目の質問票である 3 歳質問票以降からの回収率逡減 (例: 2 歳半→3 歳質問票で 84.5%→79.7%と 4.8%減、3 歳→3 歳半で 79.7%→72.2%と 7.5%減) が顕著であることも鑑み、平成 31 年 1 月から謝礼方法を金券に変更することを決定。平成 31 年 11 月告知開始を目指し、金券の種類・告知方法等詳細を詰めていった。</p>
-----------------------------	---

(C) 評価	<p>4～10月進行中の全質問票（3歳半～6歳）において、平成30年3月末と10月末の回収率を比較すると、下記の通り改善傾向が見られた。</p> <p>3歳半 72.2%→75.4% (+3.2%) 5歳 61.5→63.1% (+1.6%) 4歳 70.2%→72.2% (+2.0%) 5歳半 59.3%→62.5% (+3.3%) 4歳半 64.7%→66.3% (+1.6%) 6歳 56.3%→61.7% (+5.4%)</p> <p>また、平成30年3月末迄と4月1日以降発送の質問票について、発送後90日以内の回収率を比較したところ、どの年齢の質問票も下記の通り改善傾向が見られた。</p>			
		発送期間	発送後90日以内の回収率	返送依頼変更前 vs 後
	3歳半	～平成30年3月	65.7%	8.6% ↑
		平成30年4～5月	74.3%	
	4歳	～平成30年3月	64.4%	3.9% ↑
		平成30年4～5月	68.3%	
	4歳半	～平成30年3月	62.6%	2.3% ↑
		平成30年4～5月	64.9%	
	5歳	～平成30年3月	58.8%	3.2% ↑
		平成30年4～5月	61.9%	
4歳半	～平成30年3月	61.2%	4.9% ↑	
	平成30年4～5月	66.0%		
5歳	～平成30年3月	59.8%	7.7% ↑	
	平成30年4～5月	67.5%		
<p>しかし、全国の回収率と比較すると、質問票返送依頼の改善に加え、更なる策が必要と判断した。</p>				
(A) 改善	<p>1) 謝礼方法の変更 ハガキアンケートの結果を受け、平成31年1月以降到着の質問票については電子マネーから金券に移行する。</p> <p>2) 質問票返送依頼 平成30年度より開始した上記の返送依頼の総合的な評価については、現時点では時期尚早であるため、平成30年度末に最終的な評価を実施し、平成31年度の方針を策定する。</p>			
(P) 計画 (D) 実施	<p>観点2：コミュニケーション活動に対しての取組 設定した指標</p> <ol style="list-style-type: none"> エコチル調査参加者の参加意識およびモチベーションの維持 地域社会への成果の還元 <p>1) 本ユニットでは、様々なイベント時にエコチル調査参加者アンケートを行い、参加者の声反映されたコミュニケーション活動を行うように努めている。平成30年4月には、高知の全参加者に対してハガキによる意識アンケートも行った。ハガキアンケートの結果は回答を早い時期に参加者へ返すことで、参加者のモチベーションを高めることにつながると考え、3ヶ月後の早いタイミングで広報誌</p>			

	<p>に掲載をした。外部イベント時のエコチル調査参加者アンケートの結果では、エコチル調査に期待することとして、平成 27 年に「調査で分かったことを知らせてほしい」という成果の還元に対する要望が最も高かったが、年々「現状でいい」が最も高くなっており、イベント、謝礼、グッズ配布などの要望がそれに続いている。以上の結果から、参加意識の維持には、成果の還元および参加していることでの直接的なメリットが感じられることが重要であると考え平成 30 年度のコミュニケーション活動を計画、実施した。</p> <p>＜参加者に対する主なコミュニケーション活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコチル調査参加者限定イベントを 2 回実施（総動員数 150 組 464 人） ・こうちエコチル調査会報誌（夏号）を配布 ・5 歳質問票返送者に対しキャンペーン実施（フェイスタオルを発送 981 件） <p>2) 成果を地域社会へ還元するため、エコチル調査で分かってきた暫定結果や学術的成果を簡潔にまとめた「エコチル調査報告書」を県内全域に配布し、協力機関への訪問や講話を積極的に行った。ラジオ出演やイベント開催時にはメディアへ取材依頼を行うなど、エコチル調査の認知度の向上に努めている。また外部イベント出展時には、一般へのアンケート調査を行い、エコチル調査認知度や認知経路など効果を確認している。</p> <p>＜一般に対する主なコミュニケーション活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部イベントへのブース出展（アンケート回収数 合計 899 組） ・エコチル調査対象市町村の学校長会訪問しエコチル調査概要についての講話とエコチル調査への協力要請を実施（10 市町村・10 回講話実施） ・エコチル調査出張講座の実施（保育園、所属長会、小中学校にて計 3 回） ・こうちエコチル調査報告書 2017 年度版を、高知県全 34 市町村、対象地区全保育園幼稚園・教育委員会・小学校、医療機関や県内企業、イベント時などに広く配布（3597 部） ・ラジオ放送への出演（3 回）
(C) 評価	<p>1) 「こうちエコチル調査報告書」の配布やイベント時に調査の報告の掲示を行うなど積極的な成果の還元を行った結果、平成 27 年度から平成 30 年度の同じ外部イベント時のアンケートの結果を比較すると、「分かったことを知らせてほしい」という要望が 59%から 18%に下がり「現状でいい」という声が 38%から 54%に上がった。一方で謝礼への要望が平成 27 年度の 7%から 22%に上がっており、要望が高くなっている。平成 26 年から 2.5 才以降の参加者の謝礼方法を図書券から電子マネーに変更したため、除々に謝礼方法に不満がある層が増えたのではないかと考えられ、改善が求められている。ハガキアンケートの「高知の広報誌を見ているか」の質問では「いつも見ている」52%、「時々見ている」40%、「見っていない」7%の結果から多数の方が広報誌を見ていることが分かった。今年度 10 月末時点の参加維持率は 96. 2%と高い数値を維持しており、これらの結果から、実施した活動が、参加者の期待に沿うものであるといえる。</p> <p>2) 外部子育てイベント一般来場者へのアンケート結果では、エコチル調査認知度が平成 27 年 37%から上昇し、平成 28 年 46%、平成 29 年 54%、平成 30 年 54%を維持している。一般へ実施した積極的な広報活動の効果によるものと考えられる。</p>

	<p>平成27～30年 調査に期待する事</p> <table border="1"> <caption>平成27～30年 調査に期待する事 (期待する事別の割合)</caption> <thead> <tr> <th>期待する事</th> <th>平成27 (n=205)</th> <th>平成28 (n=167)</th> <th>平成29 (n=229)</th> <th>平成30 (n=260)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現状でいい</td> <td>38%</td> <td>44%</td> <td>48%</td> <td>54%</td> </tr> <tr> <td>分かったことをもっと知らせてほしい</td> <td>18%</td> <td>27%</td> <td>36%</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>エコチルグッズ配布</td> <td>16%</td> <td>13%</td> <td>14%</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>親子イベント</td> <td>25%</td> <td>28%</td> <td>23%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>謝礼</td> <td>7%</td> <td>18%</td> <td>14%</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>子育てや環境の講演会</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>6%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>HP・FBメディア活用</td> <td>10%</td> <td>2%</td> <td>3%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>会報誌の充実</td> <td>6%</td> <td>5%</td> <td>3%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1%</td> <td>0%</td> <td>1%</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	期待する事	平成27 (n=205)	平成28 (n=167)	平成29 (n=229)	平成30 (n=260)	現状でいい	38%	44%	48%	54%	分かったことをもっと知らせてほしい	18%	27%	36%	59%	エコチルグッズ配布	16%	13%	14%	33%	親子イベント	25%	28%	23%	35%	謝礼	7%	18%	14%	22%	子育てや環境の講演会	10%	10%	6%	5%	HP・FBメディア活用	10%	2%	3%	10%	会報誌の充実	6%	5%	3%	3%	その他	1%	0%	1%	1%	<p>外部子育てイベント エコチル調査参加者への アンケート結果より</p>
期待する事	平成27 (n=205)	平成28 (n=167)	平成29 (n=229)	平成30 (n=260)																																																
現状でいい	38%	44%	48%	54%																																																
分かったことをもっと知らせてほしい	18%	27%	36%	59%																																																
エコチルグッズ配布	16%	13%	14%	33%																																																
親子イベント	25%	28%	23%	35%																																																
謝礼	7%	18%	14%	22%																																																
子育てや環境の講演会	10%	10%	6%	5%																																																
HP・FBメディア活用	10%	2%	3%	10%																																																
会報誌の充実	6%	5%	3%	3%																																																
その他	1%	0%	1%	1%																																																
(A) 改善	<p>イベントはより多くの参加者と直接的なコミュニケーションが行えるように、一回に多数が参加できるものを計画し効率化を目指す。また告知の仕方によって、参加率や郵送費に大きな違いがでるため、告知はタイミングの良い時期に、効率的な方法で、最大の効果が得られるように、開催時期や告知方法を工夫する必要がある。</p>																																																			

<p>(P) 計画 (D) 実施</p>	<p><u>ア 参加者へのモチベーションの維持に対する取組</u></p> <p>福岡ユニットセンター内の情報交換で、地域広報活動が質問票の回収率向上に効果が認められた事を参考に、一般の方への認知度を向上させることが参加者の継続・回収率維持にも好影響を与えると考え、以下のような一般向けの広報活動を積極的に計画・取組を実施した。</p> <p>① <u>新小学1年生への鉛筆・チラシ配布</u></p> <p>今年度、最年長の参加児が就学する。よって北九州市教育委員会及び小学校校長会に協力要請し、昨年度に直接エコチル調査の説明を行った。その結果、参加者の約90%が在住している八幡西区内の全ての新小学1年生及び保護者に4月の入学式にお祝い鉛筆とエコチル調査意義や進捗を紹介したチラシを配布できた。更に10月には、来年度就学する同区内の全年長児に対して、就学前健診時に同様に鉛筆とチラシの配布を行った。また校長会では、小学校教職員向けにエコチル調査についての資料配布をお願いし、実施できた。</p> <p>② <u>小学校および地域におけるポスター掲示</u></p> <p>地域全体への働きかけとして、ポスターの作成および学校や医会への掲示を計画した。①同様に教育委員会協力の下、八幡西区内の全小学校内に2枚ずつ掲示いただいた。また北九州医師会、北九州地区小児科医会、八幡産婦人科医会、保育所・幼稚園連盟との協力体制を継続し、配布・掲示の依頼を行っている。その結果、八幡西区・東区の全産婦人科医院、北九州地区の小児科医院や総合病院にポスター配布、掲示許可を得て順次配布している。</p> <p>③ <u>参加者向けフォローアップイベント実施方針の見直し</u></p> <p>継続実施しているフォローアップ活動についても、本年度見直しを行った。これまで、参加人数の規模に応じて、小中大と3種類のイベントを実施していたが、小イベントは参加者が限られるため、来年度以降中止することとした。またイベントを通じより多くの参加者と直接触れ合う機会を増やすため、調査に積極的に参加していない方へのフォローアップを強化する目的で、今までイベントに参加出来ない希望者を中心に抽選する方針とした。</p> <p><u>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u></p> <p>回収率向上のため平成29年度から返送依頼チームを発足させ、新方式を取り入れ、本年度も継続している。参加者の応答状況に応じ、電話やハガキの対応を細かく設定し、対応するスタッフ全員が同方式で、1)ハガキや質問票再送時の送付状には参加者に合わせたコメントを手書きで入れる、2)依頼をして返送があった方には謝礼送付時にお礼のコメントを手書きで入れる等、丁寧な対応を行った。また参加者から協力取りやめの申し出があった際の対応も同様に、1)まず理由を聞き、2)個別の状況で質問票が遅れても大丈夫であること、3)書ける範囲で良いこと、4)場合によっては質問票の一回休み等も提案しながら、出来る限り調査を続けていただけよう説得を行った。こうした対応方法は月2回のサブユニットセンター定例会議で情報共有を行い、定期的に全スタッフに周知徹底し全員が同様の対応を出来る体制を整えた。</p> <p><u>エ その他</u></p> <p>参加者から発達障害のある子どものイベント参加について要望があったことを受け、本年度から全スタッフを対象に小児科医および臨床心理士による発達障害についての定期的な勉強会の実施を開始した。その結果、視覚を通じた説明が理解しやすい傾向があるので、4歳詳細調査で検査の流れを絵によって行う等、実践を始めた。大イベントでも同様の実践を行う予定で、絵による注意書きの掲示やスライドの放映、保護者への対応なども、全スタッフが学んだ内容を活かし取り組む予定である。当該イベントには、実際12月予定のイベントに、親から発達障害がある児の</p>
--------------------------	--

	<p>応募が可能か、複数質問が来ており、上記対応を説明し受け入れを行った。勉強会は今後も継続する予定であり、学童期検査や詳細調査、フォローアップ活動でも同様の取組を継続し、発達障害のある参加者もエコチル調査を継続しやすい環境づくりを行うことを目標としている。</p> <p>上記ア・イ・エの取組は、自主的に、且つ効率的に行えるよう、広報グループをイベント班、認知度向上班等に更に細分化し、各グループをリーダーと2~4人の担当に分け、保護者への対応の仕方やアンケート方法等の原案を責任をもって作成する体制とした。出来上がった原案は、月2回のサブユニットセンター定例会議で全スタッフで審議し、ブラッシュアップして実施するようにしている。</p>
(C) 評価	<p><u>ア 参加者へのモチベーションの維持に対する取組</u></p> <p>① <u>新小学1年生への鉛筆・チラシ配布</u> 上記取組が上手くいっているかの評価は短期間では難しいと思われるが、4月の入学式での鉛筆・チラシ配布後、サブユニットセンターホームページおよびスタッフブログへのアクセス数が急激に向上した。ブログは平均2桁台の閲覧数が354まで向上した。</p> <p>② <u>小学校および地域におけるポスター掲示</u> ①同様、評価はホームページやブログの閲覧状況、質問票回収率の推移を長期的に観察する必要がある。一方、①②の実施を通じ、教育委員会および対象地域の全小学校におけるエコチル調査への良好な協力体制が構築できたのではないかと評価している。各校責任者の校長に調査の意義を理解頂けた点、且つトップダウンにより各小学校の教職員への周知が効率的に出来た点が挙げられる。今後参加児は順次就学していき、学校現場に理解を頂かなくてはならない調査の計画もある。円滑な調査を実施する上で、必要な協力体制が整備できたと考える。</p> <p>③ <u>参加者向けフォローアップイベント実施方針の見直し</u> 前年度までに全参加者に実施したアンケートでは、調査を継続している理由として9%がイベントを挙げ、フォローアップ活動全体では20%に上っている。本年度8月実施のイベントでは定員の約2倍の応募数を得た。さらに参加者の内20%は新規の方に参加頂く方針とし、今後の調査継続意欲向上に役立てた。アンケートでは90%が「よかった」以上の満足度であり、今後の実施については100%が希望していた。また12月実施予定の大規模イベントでは、376組1,546名の応募を得て、午前午後の部共に満席を超える応募数となった。これまで年々応募数は増加しており本年度最も多い応募数となったことから、多くの参加者に支持いただいたと評価できる。</p> <p><u>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> 平成30年10月までに返送依頼を開始した発送グループでは、依頼をした方のその後の回収率が13.6%~61.1%であった(平成30年4月~10月返送依頼開始グループでは平均41.0%)。また、返送依頼を行った方で次回依頼せずに自主的に返してくれた方(変革率)は平均30.0%(平成30年4月~10月返送依頼開始グループ)であった。回収率全体についても、平成28年度まではおおよそ平均を下回る数値であったが、平成29年度より徐々に向上が見られ、平成30年11月現在では、2歳半以降は全ての年齢の質問票において全国平均以上を推移している。</p> <p><u>エ その他</u> 4歳詳細調査で実践を始めた。12月の大イベント後にアンケートを行い参加者の評価を調査する方針である。</p>
(A) 改善	<p><u>ア 参加者へのモチベーションの維持に対する取組</u></p> <p>① <u>新小学1年生への鉛筆・チラシ配布</u> 本取組は参加者の周囲の環境における認知度向上に直接寄与できると考えた。評価から調査の関心が高まったことが見受けられ、全参加児が就学するまでの今後3</p>

年は継続予定である。今後入学式または就学前健診時のどちらの方法が良いかも本年度の結果をふまえて検討していく予定である。

② 小学校および地域におけるポスター掲示

来年度からは小学校現場での更なる周知として、4月から教室へのポスター掲示を1か月間依頼することとした。さらに区外への転居者も約1割いるため、市内全域の小学校にポスター掲示を拡充する予定である。

③ 参加者向けフォローアップイベント実施方針の見直し

12月の大イベントでは、無記名アンケートを行う予定であり、イベントによる今後の参加意欲の変化、質問票を返送する意欲につながったか等、調査する方針である。さらに当該イベントでは「調査でわかったこと」としてセンター長の講演も取り入れる予定であり、今後も成果発表の場としても位置づけることを考えている。

イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

教育委員会を通じたエコチル調査の意識向上等、一般向け広報の効果も考慮し評価もふまえると、一定の効果があると考えた。今後も回収率の推移を見ながら返送依頼を継続する意向である。

エ その他

12月の大イベントでのアンケート結果を元に、今後の取組方法を検討する予定である。また勉強会は継続し来年度以降の学童期検査でも実践したいと考える。

これらの実施にあたっては、月2回のサブユニットセンター定例会議で意見を交換し情報共有を行い、各班スタッフが責任をもって各エコチル調査業務に取り組む組織づくりを昨年度末から取り入れた。意見が一致しない場合も有るが、それぞれの班が案の内容を吟味し提出することは、スタッフ全員の士気を高め、ひいては当サブユニットセンター全体の検査の質と向上が得られると考えており、更にこれは参加率の向上に繋がると考えている。今後も大いに意見交換して一人ひとりのスタッフが積極的に業務に取り組める現場を作って行ける様に改善する。また来年度から学童期調査が控えており、10月に産業医科大学学長、理事長以下各センター長が出席する会合で、現在の調査室では詳細調査と学童期検査をするには十分なスペースがないことを説明し、広面積の調査室へ移動出来ることが可能になった。スタッフが働きやすい環境を整えることは、より効率的で良い調査が実施できる基盤と考えており、今後も改善出来る点は積極的に改善予定である。

1. 参加者のモチベーション維持に対する取組

(1) 質問票スタンプラリー企画

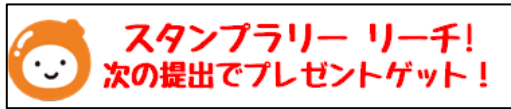
計画: 昨年度より開始したスタンプラリー企画（3回連続して質問票提出の参加者に対し保護者向けアメニティを進呈）の周知に努めるとともに、①「リーチ！」の案内を追加、また②途中脱落を防止するための質問票再送付の二つの取組により参加者のモチベーション維持を図る。

実施: 8月に発行した『エコチル通信 KUMAMOTO Vo1.5』に質問票スタンプラリー企画の案内を盛り込み全参加者に送付した。また、2019年2月発行予定の情報誌『ひごチル Plus Vo1.5』にも同企画について掲載する方向で制作を進めている。

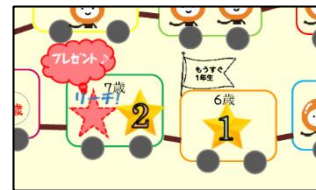
以上の広報活動に加え、下記2点の案内を追加し参加者へ直接アプローチを行っている。

① 質問票発送事前案内にてスタンプラリー★リーチの案内

質問票発送の前週に、参加者自身の質問票提出状況が一目で確認できるスタンプラリーカードを事前案内に同封して送付しているが、今回の質問票を提出することで3回連続提出を達成する参加者には、特別にラベル（下記図1）を封筒表面に貼付し目を引くよう工夫している。またスタンプラリーカードにもリーチ表記（下記 図2）を追加し提出意欲の向上を促す。



(図1)



(図2)

② 途中脱落防止のための質問票再送付

スタンプラリー企画において1回目提出があったものの2回目の提出が確認されず、3回目の抽出を控えている参加者に対し質問票の返送依頼を実施した。スタンプラリーカードを同封して質問票を再送付することで、参加者のモチベーションが途切れないよう働きかけを行うとともに、質問票の回収につなげている。

(P) 計画
(D) 実施

(2) エコチル調査イベント

計画: 今年度は各調査地域へのアプローチに主眼を置き、各調査地域の行政機関などが開催するイベントへのブース出展に加え、参加者以外の地域住民も参加可能なイベントを企画した。地域社会全体でのエコチル調査の認知度を高めることで、参加者の意欲を引き出すことを目的としている。

実施: 新たな試みとして、エコチル調査主催イベントへ調査対象地域の住民を招待した。5月に水俣・芦北地域で開催した「エリックさんと英語でうたって・おどろう♪」では調査参加者が友人などを同伴できる形を採用した。10月に天草地域で開催した「ファミリー映画上映会 in 天草」では地域運営協議会委員など関係協力機関にもアナウンスし、行政機関の広報誌やコミュニティラジオなどで広く地域住民に呼びかけた。なお、全てのイベントにおいて事前に参加者の質問票提出状況を確認し、提出のない参加者には可能な限りイベント受付時に声掛けし返送依頼を行った。

(3) オリジナルポスター制作・配布

計画: 調査に参加している子どもをモデルとし、エコチル調査への協力継続を呼びかけるポスターを作成した。今回は、3地域の中でも返送率向上が急務となっている人吉・球磨地域在住の参加者に限定してモデルを募集した。その他地域は次年度以降に募集し作成する予定。

実施: 1,162名に参加を依頼し、応募は56名（応募率4.8%）であった。厳選なる抽選の上3名の子どもを選出しポスター制作を行った。ポスターデザインは、毎年発行している情報誌の裏表紙に採用したほか、各調査対象地域の担当リサーチコーディネーターが医療・行政機関や保育園などの教育機関、スーパーマーケットなどをはじめとする小売店に出向き、掲示していただけるようお願いした。また、地域運営協議会でも委員に配布し、各関係協力機関に掲示していただくよう依頼した。

(4) 人吉球磨月刊情報誌『どうぎゃん』への広告連載

計画: 3地域のなかでも特に返送率が低迷している人吉・球磨地域における打開策として、圧倒的な購読者数を誇る地域密着型の月刊情報誌『どうぎゃん』に広告を連載。人気コーナ

一とのタイアップ広告を含め 4 回シリーズでエコチル調査についての内容を紹介し、地域住民や参加者にエコチル調査を理解し協力を得られるよう工夫をした。

実施：掲載 1 回目はエコチル調査のイメージ広告、2 回目は読者が最も興味を示すと考えられる調査結果報告（子育ての生活環境（3 歳）～気になるカビやダニ～）、3 回目は投函した質問票がデータ入力されるまでの流れを追ったエコチル調査事務局内の紹介、4 回目は「エコチルママの子育てぶっちゃけトーク」と銘打ち、参加者 4 名による座談会で子育てやエコチル調査への思いを語っていただいた。

2. 質問票返送率を維持・向上させるための取組

(1) リマインド方法の見直し、強化

計画：返送率が低いグループへのアプローチを軸とし、主に質問票再送付という手法を用いて返送率の底上げを図る計画を立てた。特に当サブユニットセンターにおいて返送率の低下が顕著である 5 歳質問票（4 月 3 日 WEB 会議資料において 67.4%）に焦点を当て、返送率を 70% 台まで引き上げることを目標とし 5 歳質問票の返送依頼に質問票再送付を追加した。

実施：5 歳調査時期において、質問票発送から約 15 週間経過時点で未提出の参加者には質問票を再送付する。その際、他の調査時期で行う質問票の再送付とは差をつけ、必ず開封してもらえよう透明封筒に歯ブラシとオリジナル歯みがきカレンダーを同封して質問票を再送付する。また、同封の送付文も文字量を必要最低限とし、チラシのようなデザインで視覚的に伝わるよう工夫した。

(2) 小学 1 年質問票の事前案内

計画：今年度より開始された小学 1 年質問票の事前案内を 2 段階に分けて行うことで、質問票発送後の早い段階から回収できるよう働きかけを行う。

実施：1 回目は、通知表等が手元にあると想定される夏休み期間中に小学 1 年質問票の事前案内を送付した。その際、オリジナルの成長記録帳とマグネットを同封し、冷蔵庫等目に付く場所に記録帳を貼れるよう工夫し、学期ごとに欠席日数と身体測定結果を記録していただけるよう促した。

2 回目は、小学 1 年質問票の発送直前に「もうすぐ小学 1 年質問票が届きます」とスタンプラリーカード（ハガキ）を送付し、発送後早期からの回収を目指している。

【成長記録表の活用事例】



(使用見本)



(裏表見本)



(マグネット 4 種)

(C) 評価

1. スタンプラリー企画に関する評価

10 月より、3 回連続提出達成者には順次アメニティ（初回はエコバック）を送付しているが、その際に簡単なアンケートを同封し 10 月中に 25 件の回答を得た。その結果「スタンプラリーは質問票提出の動機付けになりましたか」という問いに対し「なった」が 72%、「ならなかった」が 8%、「わからない」が 20%という結果であった。一方で、「今後もスタンプラリーを継続した方がよいと思いますか」という問いでは「継続してほしい」が 80%、「どちらでもよい」が 20%、「継続しなくてよい」は 0%であった。また、途中脱落を防止するために 9 月から 10 月末までに質問票 55 件を再送付し、このうち 10 月末までに 11 件の回収ができた。現時点で 20%の回収ができたことからスタンプラリーを用いたアプローチは参加者意識へ働きかける効果があったと評価する。

しかしながら、イベント開催時に行ったアンケートにおいて、スタンプラリー企画についての認知度を調べたところ、水俣市で開催したイベントでは「知っている」が 57.1%、「知らない」が 28.6%、無回答が 14.3%であった。また、天草市で開催したイベントでは「知っている」が 77%、「知らない」が 23%という結果であった。このことによりスタンプラリー

	<p>一企画自体を知らない参加者が一定数いることを把握した。この層へ向けて周知を図ることで、一層多くの参加者のモチベーション向上を促し、返送率に反映させるよう工夫する必要がある。</p> <p>2. エコチル調査イベント・ポスター制作・広告掲載に関する評価</p> <p>天草地域を対象に開催した「ファミリー映画上映会 in 天草」では158世帯の参加があり、調査参加者が111世帯、調査非参加者が47世帯であった。非参加者の応募のきっかけとしては「市政だより」44%、「友人の誘い」44%、「職場にて」6%、「保育施設にて」6%という結果であり、そのうちエコチル調査を「知っていた」が37%、「知らなかった」が63%という結果であった。約半数が「市政だより」を見て応募していることから、行政機関が発行する広報誌を活用した広報活動は有用と考えられる。また、このイベントにおいて調査参加者111世帯中、質問票を過去3回以上未提出の参加者が11世帯あった。このうち7世帯がこれ以降に現調査時期の質問票を提出したことを確認した。イベント当日は普段連絡がとれない参加者との交流もあり、参加者のモチベーションの維持につながったものと考えている。</p> <p>また、ポスター制作と広告掲載に関する評価については、今年度末に配布する情報誌とともにアンケートを同封し、広報への認知度評価を行う予定である。</p> <p>3. 5歳質問票再送付による返送依頼強化の取組に関する評価</p> <p>4月から10月にかけてこの取組による5歳質問票の再送付を203件行った。その内39件を回収し返送率は19.1%であった。他の調査時期（返送率が低いグループのみ）で行った質問票再送付では、返送率14.1%（142件送付したうち20件を回収）であることに対し、5%の差が認められることから一定の効果があつたと評価できる。現在69.6%（10月6日WEB会議資料より）までは改善しており、引き続き目標値である70%台まで返送率の底上げに努めたい。</p> <p>4. 小学1年質問票の事前案内に関する評価</p> <p>質問票の発送が10月下旬であったことから、評価については今後行う。</p> <p>5. 全体評価</p> <p>昨年度よりリマインド方法を変更し、さまざまな取組を行った結果、前年度の年齢毎・地域別回返率は、すべての地域においてわずかではあるが1～2ポイントの上昇が見られた。質問票の返送率は、全体的に年々下降していく傾向であるが、相反する結果であり一定の効果があつたと評価できる。</p> <p>特に、5歳の質問票においては、人吉・球磨地域で4.5ポイント、天草地域で1.9ポイント、水俣・芦北地域で1.6ポイントであり、課題であった人吉・球磨地域の回収率上昇へとつながった。</p>
(A) 改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年質問票は早期から回収できるように取組を開始しており、進捗を見ながら11月以降に他の調査時期とは切り離して返送依頼を行うこととしている。具体的には第1回目の返送依頼は4週間後にハガキを送付する。質問項目が少ないことをアピールするデザインとしている。その後の返送依頼は架電を中心としたアプローチを検討している。 ・来年度は学童期検査も視野に置いてエコチル調査イベントの実施を検討中。各調査対象地域へ向けたアプローチとしては、学童期検査を控えた各関係協力機関への説明などのアウトリーチとも関連して検討している。 ・昨年度より複数の取組を組み合わせることで、返送率の改善が確認された。しかしスタンプラリー企画や質問票の再送付など、郵送物が増えたことで業務が煩雑化している。来年度以降は質問票の発送業務も控えていることから郵送物発送業務の合理化を図っているところである。 <p>熊本大学サブユニットセンターの実情としては、返送率の維持が喫緊の課題であることに変わりはないが、学年質問票や学童期検査、そして質問票発送などの計画を鑑み業務整理を進めていく。</p>

表6 個人情報の管理状況 (平成30年3月～平成31年1月末)

	1	2	3	4	5	6	7	8
	個人情報の所在等の特定	個人情報へのアクセス権の設定等	個人情報の適正な利用と管理	個人情報が記録された媒体の管理	自己点検リストの作成	基本ルールの周知に関する取り組み	質問票管理方法及び処理方法	過去1年の問題事例数
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
神奈川ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
甲信ユニットセンター(山梨大学)	○	○	○	○	○	○	○	0
甲信サブユニットセンター(信州大学)	○	○	○	○	○	○	○	0
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
愛知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	0

評価1～7について ○:適切な対応を実施している △:一部改善を要する ×:改善を要する
 ※平成27年度には、個人情報管理に関する基本ルールの違反が1件あり。

表7 成果発表の遵守状況 (平成30年3月～平成31年1月末)

	成果発表ルールの遵守状況		成果発表届出書																			追加調査に関する承認申請書	合計
	事後報告	合計件数	誌上发表前		学会発表			マスメディア等			アウトリーチ活動							追加調査に係る外部研究費報告書・公開報告会	合計				
			査読あり(原著論文等)	査読なし(解説・総説等)	特別講演・シンポジウム	口頭	ポスター	プレスリリース	取材・報道機関等への情報資料提供(口頭のみを含む)	その他	エコチル調査協力者へのニューズレター等	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	一般雑誌・商業誌での発表	一般市民への広報(広告等)	一般向けのシンポジウム・講演	エコチル関係者限定会合	その他						
コアセンター	0	0	7	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	17	0	0	
メディカルサポートセンター	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9	0	0	
北海道ユニットセンター	0	0	2	0	0	4	5	0	0	0	2	0	0	1	3	1	0	0	1	19	0	0	
宮城ユニットセンター	1	1	15	0	1	3	6	0	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	1	32	1	1	
福島ユニットセンター	0	0	8	1	1	3	4	0	0	0	4	1	0	4	2	24	4	0	3	59	2	2	
千葉ユニットセンター	0	0	2	0	0	3	4	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	12	2	2	
神奈川ユニットセンター	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	7	0	0	1	0	14	0	0	
甲信ユニットセンター(山梨大学)	0	0	0	0	1	2	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	2	
甲信サブユニットセンター(信州大学)	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	6	0	0	
富山ユニットセンター	0	0	16	2	5	3	3	2	0	0	2	6	0	12	9	3	5	2	1	71	0	0	
愛知ユニットセンター	0	0	7	1	0	6	5	1	0	1	1	0	0	3	3	3	1	3	2	37	0	0	
京都ユニットセンター	0	0	4	2	3	3	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	0	20	0	0	
大阪ユニットセンター	0	0	13	0	0	1	5	0	0	0	2	0	0	1	4	1	1	1	0	29	1	1	
兵庫ユニットセンター	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	9	1	1	
鳥取ユニットセンター	0	0	1	0	0	2	5	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	
高知ユニットセンター	0	0	4	1	0	2	1	0	0	5	4	0	0	0	4	0	1	0	2	24	0	0	
産業医科大学サブユニットセンター	0	0	15	0	0	2	1	0	1	0	0	1	0	4	0	0	0	0	2	26	0	0	
九州大学サブユニットセンター	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	6	0	0	
熊本大学サブユニットセンター	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
宮崎大学サブユニットセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
琉球大学サブユニットセンター	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	
計	1	1	108	9	16	38	47	3	2	6	27	8	0	40	34	34	16	11	15	414	9	9	

参考①-1 実施体制（全体）

ユニットセンター/ サブユニットセンター	総数	委託費での雇用によるエコチル業務従事者																		委託費での雇用ではないエコチル業務従事者			
		教員		研究員		リサーチコーディネーター								事務職員		その他		教員		事務職員			
						看護師・保健師・ 助産師		臨床心理士		その他有資格者 (国家資格)		無資格者										合計	
		従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数	従事時間 合計 (週当たり)	人数
北海道ユニットセンター	43	105	7	0	0	44	3	0	0	0	0	138	7	182	10	415	12	0	0	111	13	5	1
宮城ユニットセンター	30	153	5	0	0	110	4	0	0	0	0	275	8	385	12	357	12	0	0	5	1	0	0
福島ユニットセンター	47	163	5	0	0	286	8	8	1	47	2	457	12	797	23	612	16	0	0	2	3	0	0
千葉ユニットセンター	29	58	2	108	4	8	1	0	0	0	0	201	6	209	7	270	8	0	0	66	8	0	0
神奈川ユニットセンター	11	35	1	0	0	0	0	10	1	0	0	70	2	80	3	200	5	0	0	1	1	1	1
甲信ユニットセンター(山梨大学)	18	134	4	0	0	176	6	0	0	0	0	0	0	176	6	217	7	0	0	16	1	0	0
甲信サブユニットセンター(信州大学)	24	80	3	0	0	116	5	0	0	0	0	40	1	156	6	184	8	0	0	37	7	0	0
富山ユニットセンター	35	59	2	39	1	65	11	30	2	2	1	83	4	180	18	326	10	0	0	70	4	0	0
愛知ユニットセンター	23	75	2	68	3	81	3	0	0	0	0	100	5	181	8	163	5	0	0	17	4	4	1
京都ユニットセンター	37	78	2	46	8	24	2	0	0	30	1	269	14	323	17	36	2	0	0	5	8	0	0
大阪ユニットセンター	35	116	4	102	5	119	8	13	2	33	4	53	3	218	17	254	8	0	0	8	1	0	0
兵庫ユニットセンター	33	120	3	0	0	12	3	0	0	0	0	97	3	109	6	327	14	0	0	23	10	0	0
鳥取ユニットセンター	16	39	1	0	0	78	2	39	1	0	0	0	0	117	3	335	10	0	0	20	2	0	0
高知ユニットセンター	54	39	1	202	7	120	4	0	0	63	2	228	9	410	15	157	5	0	0	736	22	155	4
産業医科大学サブユニットセンター	22	77	2	0	0	162	6	6	1	0	0	20	1	188	8	119	4	0	0	11	8	0	0
九州大学サブユニットセンター	20	89	3	0	0	60	2	0	0	0	0	321	10	381	12	90	3	0	0	3	2	0	0
熊本大学サブユニットセンター	27	78	2	35	1	0	0	0	0	0	0	90	3	90	3	394	16	0	0	19	4	30	1
宮崎大学サブユニットセンター	13	0	0	39	1	39	1	0	0	0	0	28	1	67	2	188	6	39	1	12	2	25	1
琉球大学サブユニットセンター	12	38	1	0	0	0	0	0	0	0	0	60	2	60	2	110	3	0	0	25	5	5	1

参考①-2 実施体制（詳細調査）

	詳細調査に係る人員（精神発達検査者除く）					精神発達検査者	
	医師・教員	リサーチ コーディネーター	事務員	その他	医師・看護師 の外部 委託	検査者	うち 臨床 心理士
北海道ユニットセンター	17	9	3	39	○	8	1
宮城ユニットセンター	14	13	0	7	○	4	0
福島ユニットセンター	20	20	15	0	○	11	6
千葉ユニットセンター	19	7	1	17	○	5	0
神奈川ユニットセンター	1	2	0	1	○	3	1
甲信ユニットセンター（山梨大学）	4	6	3	0	—	4	0
甲信サブユニットセンター（信州大学）	3	4	2	0	○	4	0
富山ユニットセンター	3	18	2	0	○	4	2
愛知ユニットセンター	1	6	1	0	—	6	0
京都ユニットセンター	6	12	0	3	○	6	0
大阪ユニットセンター	1	1	0	9	○	7	6
兵庫ユニットセンター	2	2	3	4	—	2	1
鳥取ユニットセンター	1	3	0	0	—	4	1
高知ユニットセンター	14	6	0	13	○	3	1
産業医科大学サブユニットセンター	3	3	4	0	—	4	1
九州大学サブユニットセンター	2	7	0	0	—	4	1
熊本大学サブユニットセンター	7	4	9	6	○	3	0
宮崎大学サブユニットセンター	5	1	3	19	○	4	0
琉球大学サブユニットセンター	3	2	0	1	○	2	1

参考② 平成30年度地域運営協議会への参加機関呼びかけ数

	①健康・福祉系	②環境系	③教育系	④その他	合計
北海道ユニットセンター	51	5	17	5	78
宮城ユニットセンター	50	0	15	9	74
福島ユニットセンター	144	1	19	3	167
千葉ユニットセンター	45	8	4	0	57
神奈川ユニットセンター	23	3	1	0	27
甲信ユニットセンター(山梨大学)	18	2	4	6	30
甲信サブユニットセンター(信州大学)	8	1	3	0	12
富山ユニットセンター	18	1	11	0	30
愛知ユニットセンター	21	3	2	5	31
京都ユニットセンター	53	3	2	0	58
大阪ユニットセンター	32	2	9	0	43
兵庫ユニットセンター	19	1	1	0	21
鳥取ユニットセンター	5	1	2	0	8
高知ユニットセンター	21	4	1	0	26
産業医科大学サブユニットセンター	37	1	5	3	46
九州大学サブユニットセンター	10	0	1	2	13
熊本大学サブユニットセンター	33	0	32	8	73
宮崎大学サブユニットセンター	17	1	2	0	20
琉球大学サブユニットセンター	9	3	1	0	13

参考③ 詳細調査の参加者数【平成30年9月28日時点（暫定値）】

	詳細調査の 同意者数	詳細調査 協力取り止め等		詳細調査 現参加者数	【参考】 全体調査の 協力取り止め 等	C-1.5y					C-2y			C-3y				C-4y			
		協力取り止め等	試料 廃棄			（%）	全体	環境測定 記録	住環境 調査	生活行 動記録	長期的 ハウス ダスト	全体	医学的 検査	精神神 経発達 検査	全体	環境測 定記録	住環境 調査	生活行 動記録	全体	医学的 検査	精神神 経発達 検査
北海道ユニットセンター	405	11		2.7%	394	4	403	403	403	403	403	395	394	395	381	381	381	381	330	306	315
宮城ユニットセンター	448	13		2.9%	435	6	448	448	447	448	448	435	431	434	412	412	412	412	380	362	374
福島ユニットセンター	636	22		3.5%	614	9	636	636	636	636	635	618	613	616	576	576	576	576	496	463	488
千葉ユニットセンター	301	18		6.0%	283	8	301	301	301	301	300	298	295	297	285	285	285	285	250	241	245
神奈川ユニットセンター	326	20		6.1%	306	7	326	326	326	326	326	310	306	309	299	299	299	299	265	251	251
甲信ユニットセンター(山梨大学)	227	8		3.5%	219	4	227	227	227	227	227	222	220	222	212	212	212	212	190	190	183
甲信サブユニットセンター(信州大学)	131	10		7.6%	121	6	131	131	131	131	130	129	128	129	121	121	121	121	102	91	102
富山ユニットセンター	271	9		3.3%	262	2	271	271	271	271	271	269	264	267	252	252	252	252	228	223	215
愛知ユニットセンター	282	7		2.5%	275	1	282	282	282	282	282	281	280	281	275	275	275	275	265	254	258
京都ユニットセンター	195	6		3.1%	189	2	195	195	195	195	195	190	188	190	190	190	190	190	160	153	149
大阪ユニットセンター	392	10	2	2.6%	382	5	390	390	390	390	389	383	383	383	371	371	371	371	320	315	308
兵庫ユニットセンター	248	3		1.2%	245	2	248	248	248	248	245	246	246	246	241	241	241	241	214	214	189
鳥取ユニットセンター	149	6		4.0%	143	2	149	149	149	149	147	143	143	143	139	139	139	139	116	116	116
高知ユニットセンター	340	13		3.8%	327	3	340	340	340	340	340	333	333	331	328	328	328	328	267	265	253
産業医科大学サブユニットセンター	147	4		2.7%	143	2	147	147	147	147	147	147	147	147	139	139	139	139	122	121	120
九州大学サブユニットセンター	238	17		7.1%	221	3	238	238	238	238	238	231	228	228	215	215	215	215	185	182	168
熊本大学サブユニットセンター	148	3		2.0%	145	1	148	148	148	148	148	147	147	146	145	145	145	145	127	124	119
宮崎大学サブユニットセンター	90	3		3.3%	87	1	90	90	90	90	89	89	89	89	88	88	88	88	76	76	75
琉球大学サブユニットセンター	44	1		2.3%	43	1	44	44	44	44	44	44	44	44	43	43	43	43	40	40	40
合計	5,018	184	2	3.7%	4,834	69	5,014	5,014	5,013	5,014	5,004	4,910	4,879	4,897	4,712	4,712	4,712	4,712	4,133	3,987	3,968

※詳細調査の同意者:現所属組織の児の数(リクルート組織、母親の数ではない(多胎で詳細調査に参加している時は多胎の数))

参考④ フォローアップ活動（質問票の回収状況、コミュニケーション活動）

	コミュニケーション活動						
	ニュースレター	ホームページ	粗品配布	主催参加者限定イベント	一般向けイベント主催	地域の参加イベント	その他
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	—
神奈川ユニットセンター	○	○	○	—	—	○	○
甲信ユニットセンター(山梨大学)	○	○	○	○	○	—	○
甲信サブユニットセンター(信州大学)	—	○	—	○	○	○	○
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
愛知ユニットセンター	○	○	○	—	—	○	○
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	—
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	—	○	○
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	—	—	○
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	—	—	—	○
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	—
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	—	—

参考⑤ エコチル調査の全国データを用いた論文など 45編
(うち中心仮説に係る論文3編：太字)

(平成31年1月末時点)

No	論文	Publication (English)	著者	学術雑誌
45	妊婦の血液中金属濃度とIgE抗体の関係(エコチル調査)	Associations between metal levels in whole blood and IgE concentrations in pregnant women, based on data from the Japan Environment and Children's Study.	Tsuji, M., et al.	Journal of Epidemiology 2019 Jan.
44	妊娠の意図と妊娠時の気持ちが産後うつへ与えるインパクトについて:子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	Impact of intention and feeling toward being pregnant on postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Baba, S., et al.	Archives of Women's Mental Health 2018 Dec.
43	産後うつと対児愛着の関連と変化:子どもの健康と環境に関する全国調査より	Changes in the association between postpartum depression and mother-infant bonding by parity: longitudinal results from the Japan Environment and Children's Study.	Tsuchida, A., et al.	J Psychiatr Res. 2018 Nov 28;110:110-116.
42	時間的労働因子と食行動との関連性:エコチル調査全国のデータを用いた研究結果	Association between time-related work factors and dietary behaviors: Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Tanaka, R., et al.	Environ Health Prev Med. 2018 Dec 14;23(1):62.
41	帝王切開で出生した児の便秘発症リスクについて	Association between cesarean section and constipation in infants: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Yoshida, T., et al.	BMC Res Notes. 2018 Dec 12;11(1):882.
40	大規模出生コホート研究(エコチル調査)における妊娠前と妊娠中の日本の女性の年代ごとの睡眠状況について	Sleep status varies by age among Japanese women during preconception and pregnancy in a nationwide birth cohort study (the Japan Environment and Children's Study (JECS)).	Konishi, M., et al.	Sleep and Biological Rhythms
39	食事からのイソフラボン摂取と尿道下裂との関連性について	Isoflavone Intake in Early Pregnancy and Hypospadias in the Japan Environment and Children's Study.	Michikawa, T., et al.	Urology. 2018 Nov 15. pii: S0090-4295(18)31199-3.
38	不育症患者の妊娠帰結～エコチル調査10万人バースコホート	Adverse pregnancy and perinatal outcome in patients with recurrent pregnancy loss: Multiple imputation analyses with propensity score adjustment applied to a large-scale birth cohort of the Japan Environment and Children's Study.	Sugiura-Ogasawara, M., et al.	Am J Reprod Immunol. 2018 Nov 14:e13072.
37	つわりの程度と胎児の性別、胎児数の関連性について:子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	Severity of nausea and vomiting in singleton and twin pregnancies in relation to fetal sex: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Mitsuda, N., et al.	J Epidemiol. 2018 Nov 10.
36	日本における妊娠中の飲酒と妊娠高血圧症候群との関連:エコチル調査	Association between alcohol consumption during pregnancy and hypertensive disorders of pregnancy in Japan: the Japan Environment and Children's Study.	Iwama, N., et al.	Hypertens Res. 2019 Jan;42(1):85-94.
35	妊娠前の月経困難症が妊娠中の精神的ジストレスに与える影響	Preconception dysmenorrhea as a risk factor for psychological distress in pregnancy: The Japan Environment and Children's Study.	Watanabe, Z., et al.	J Affect Disord. 2018 Nov 5;245:475-483.
34	妊娠前及び妊娠中の身体活動が、分娩週数と分娩方法に及ぼす影響(エコチル調査より)	Effects of physical activity during pregnancy on preterm delivery and mode of delivery: the Japan Environment and Children's Study.	Takami, M., et al.	PLoS One. 2018 Oct 29;13(10):e0206160.

No	論文	Publication (English)	著者	学術雑誌
33	母親の魚摂取と先天性消化管閉鎖症との関連性について	Fish consumption in early pregnancy and congenital gastrointestinal tract atresia in the Japan Environment and Children's Study.	Michikawa, T., et al.	Br J Nutr. 2019 Jan;121(1):100-108.
32	胎児機能不全と新生児気質との関連性について	Non-reassuring foetal status and neonatal irritability in the Japan Environment and Children's Study: A cohort study	Morokuma, S., et al.	Sci Rep. 2018; 8: 15853.
31	居住形態と産後うつとの関連: 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	Association between family members and risk of postpartum depression in Japan: does "who they live with" matter? — the Japan Environment and Children's Study.	Honjo K., et al.	Soc Sci Med. 2018 Nov;217:65-72.
30	妊娠中の血中カドミウムおよび鉛濃度と妊娠糖尿病との関連性	Associations between Maternal Blood Cadmium and Lead Concentrations and Gestational and Diabetes Mellitus in the Japan Environment and Children's Study.	Oguri T., et al	Int Arch Occup Environ Health. 2018 Oct 30.
29	母親の自閉症傾向特性と子どもへの愛着形成との関連性について	Associations between broader autism phenotype (BAP) and maternal attachment are moderated by maternal postpartum depression when infants are one month old: A prospective study of the Japan Environment & Children's Study.	Hirokawa K., et al.	J Affect Disord. 2019 Jan 15;243:485-493.
28	エコチル調査における先天性形態異常の有病率	Prevalence of congenital anomalies in the Japan Environment and Children's Study cohort.	Mezawa H., et al.	J Epidemiol. 2018 Sep 22.
27	エコチル調査における妊娠中の母親の曝露に関する質問票調査結果	Questionnaire results on exposure characteristics of pregnant women participating in the Japan Environment and Children Study (JECS).	Iwai-Shimada M., et al.	Environ Health Prev Med. 2018 Sep 15;23(1):45.
26	双胎妊娠と単胎妊娠における妊娠中母体血圧の比較: エコチル調査	Blood pressure changes during twin pregnancies: The Japan Environment and Children's Study	Iwama, N., et al.	Journal of Hypertension
25	妊婦の血液中重金属濃度と早産の関係(エコチル調査)	The association between whole blood concentrations of heavy metals in pregnant women and premature births: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	Tsuji, M., et al.	Environmental Research
24	つわりの程度と早産リスクの関連性について: 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)より	Nausea and vomiting during pregnancy associated with lower incidence of preterm births: the Japan Environment and Children's Study	Mitsuda, N., et al.	BMC Pregnancy and Childbirth 2018 Jun 27;18(1):268
23	男性における職業間の食事摂取の違い	Variation in men's dietary intake between occupations, based on data from The Japan Environment and Children's Study (JECS)	Tanaka, R., et al.	American Journal of Men's Health 2018 Jun 1;1557988318780847
22	母親のアレルギ-疾患とsmall-for-gestational-age(SGA)の関連について	Having small for gestational age infants was associated with maternal allergic features in the JECS birth cohort	Saito, M., et al.	Allergy. 2018 May 26.
21	同一職業群内における詳細に分類した職種間での食事摂取の違い	Dietary Differences in Male Workers among Smaller Occupational Groups within Large Occupational Categories: Findings from the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Tanaka, R., et al.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2018 May 11;15(5).

No	論文	Publication (English)	著者	学術雑誌
20	生殖補助医療による妊娠における精神的ストレス	Lack of association between receiving ART treatment and parental psychological distress during pregnancy: Preliminary findings of the Japan Environment and Children's Study	Yoshimasu, K., et al.	Reproductive Biomedicine & Society Online, 2018, 5, 5-16. https://doi.org/10.1016/j.rbms.2017.09.002
19	妊娠期および出産後における魚食/ω3系多価不飽和脂肪酸摂取と抑うつとの関連	Dietary intake of fish and n-3 polyunsaturated fatty acids and risks of perinatal depression: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	Hamazaki, K., et al.	Journal of Psychiatric Research, 2018, 98:9-16. https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2017.11.013
18	日本における妊婦のアレルギーとメンタルヘルスとQoLについて	Allergy and Mental Health Among Pregnant Women in the Japan Environment and Children's Study	Yamamoto-Hanada, K., et al.	Journal of Allergy Clinical Immunology: In Practice http://dx.doi.org/10.1016/j.jaip.2017.12.006 http://www.jaci-inpractice.org/article/S2213-2198(17)31024-3/abstract
17	母親・父親及び出生児に関する基本属性	Baseline Profile of Participants in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Michikawa, T., et al.	Journal of Epidemiology, 2017 Oct 25. http://doi.org/10.2188/jea.JE20170018
16	親のコンディションが子どもの性別に与える影響:トリヴァース・ウィラード仮説の検証	Parental condition and infant sex at birth in the Japan Environment and Children's Study: a test of the Trivers-Willard hypothesis	Morita, M., et al.	Letters on Evolutionary Behavioral Science, 2017, 8(2): 40-44. DOI: 10.5178/lebs.2017.63
15	日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系リスク要因 (JECS)	Preconception gynecological risk factors of postpartum depression among Japanese women: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	Muchanga, S. M. J., et al.	Journal of Affective Disorders, 2017, 217: 34-41. https://doi.org/10.1016/j.jad.2017.03.049
14	妊婦の睡眠とSmall-for-Gestational-Age (SGA)との関連に関する研究 (JECS)	Maternal Sleep and Small for Gestational Age Infants in the Japan Environment and Children's Study: a cohort study	Morokuma, S., et al.	BMC Research Notes, 2017, 10(1):394 https://doi.org/10.1186/s13104-017-2675-9
13	妊娠中の母親と父親のアレルギープロフィール-子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査)	Allergic profiles of mothers and fathers in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study	Yamamoto-Hanada, K., et al.	World Allergy Organization Journal, 2017, 10(1): 24. https://doi.org/10.1186/s40413-017-0157-0
12	東日本大震災後の宮城県被災地における妊婦のソーシャルキャピタルの実態調査	Pregnant Women's Awareness of Social Capital in the Great East Japan Earthquake-Affected Areas of Miyagi Prefecture: The Japan Environment and Children's Study	Nishigori, H., et al.	Disaster medicine and public health preparedness, 2017, 11(3), 355-364. https://doi.org/10.1017/dmp.2016.150
11	日本における妊婦の選択的セロトニン再取り込み阻害薬服用と先天異常との関連: エコチル調査より	Selective serotonin reuptake inhibitors and risk of major congenital anomalies for pregnancies in Japan: A nationwide birth cohort study of the Japan Environment and Children's Study	Nishigori, H., et al.	Congenital anomalies, 2017, 57(3): 72-78. https://doi.org/10.1111/cga.12202
10	日本における妊婦の薬剤服用調査	Drug Use before and during Pregnancy in Japan: The Japan Environment and Children's Study	Nishigori, H., et al.	Pharmacy, 2017, 5(2) : 21. https://doi.org/10.3390/pharmacy5020021

No	論文	Publication (English)	著者	学術雑誌
9	東日本大震災後の宮城県被災地における妊婦へのドメスティックバイオレンスの実態調査	Incidence of Domestic Violence Against Pregnant Females After the Great East Japan Earthquake in Miyagi Prefecture: The Japan Environment and Children's Study	Sakurai, K., et al.	Disaster medicine and public health preparedness, 2016, 11(2), 216-226. https://doi.org/10.1017/dmp.2016.109
8	日本人妊婦における不適切な葉酸摂取の頻度と関連要因: エコチル調査	Prevalence and determinants of inadequate use of folic acid supplementation in Japanese pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Obara, T., et al.	The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine, 2017, 30(5): 588-593. http://dx.doi.org/10.1080/14767058.2016.1179273
7	子宮内膜症が産科合併症に及ぼす影響	Obstetrical Complications in Women with Endometriosis: A Cohort Study in Japan	Harada, T., et al.	PLOS ONE, 2016, 11(12): e0168476. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0168476
6	妊娠悪阻とsmall-for-gestational-ageとの関連に関する研究 (JECS)	Relationship between hyperemesis gravidarum and small-for-gestational-age in the Japanese population: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	Morokuma, S., et al.	BMC pregnancy and childbirth, 2016, 16: 247. https://doi.org/10.1186/s12884-016-1041-6
5	ソーシャルキャピタルと妊娠糖尿病の有病との関連	Association between social capital and the prevalence of gestational diabetes mellitus: An interim report of the Japan Environment and Children's Study	Mizuno, S., et al.	Diabetes research and clinical practice, 2016, 120: 132-141. http://dx.doi.org/10.1016/j.diabres.2016.07.020
4	妊娠中の喫煙と出生体重の関連: 「子どもの健康と環境に関する全国調査」のデータによる適切なモデルによる検討	Association between maternal smoking during pregnancy and birth weight: an appropriately adjusted model from the Japan Environment and Children's Study	Suzuki, K., et al.	Journal of Epidemiology, 2016, 26(7):371-7. http://doi.org/10.2188/jea.JE20150185
3	妊婦の発酵食品摂取と不安障害・うつとの関連	Fermented Food Consumption and Psychological Distress in Pregnant Women: A Nationwide Birth Cohort Study of the Japan Environment and Children's Study	Takahashi, F., et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine, 2016, 240 (4): 309-321. http://doi.org/10.1620/tjem.240.309
2	東日本大震災直後の被災地宮城における妊娠中の精神的ジストレス	Psychological distress during pregnancy in Miyagi after the Great East Japan Earthquake: The Japan Environment and Children's Study	Watanabe, Z., et al.	Journal of Affective Disorders, 2016, 15;190:341-8. https://doi.org/10.1016/j.jad.2015.10.024
1	エコチル調査開始年度に登録された約1万組の母子に関する基本属性集計	The Japan Environment and Children's Study (JECS): a preliminary report on selected characteristics of approximately 10,000 pregnant women recruited during the first year of the study	Michikawa, T., et al.	Journal of Epidemiology, 2015, 25(6):452-8. http://doi.org/10.2188/jea.JE20140186

参考⑥ エコチル調査の追加調査に係る論文 17編 (平成31年1月末時点)

No	論文	Publication (English)	著者	学術雑誌
17	メタボローム解析を用いた妊娠糖尿病発症予測マーカーの探索	Exploration of predictive metabolic factors for gestational diabetes mellitus in Japanese women using metabolomic analysis.	Sakurai K., et al.	J Diabetes Investig. 2018 Jun 29.
16	妊娠中の肯定的な感情とその変化-エコチル宮城ユニット追加調査より-	Positive Emotion and its Changes during Pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study in Miyagi Prefecture.	Nakamura, Y., et al.	Tohoku J Exp Med. 2018 Aug;245(4):223-230.
15	一都市における屋内外の空气中粒子状物質に含まれるエンドトキシン濃度とその予測因子	Airborne endotoxin concentrations in indoor and outdoor particulate matter and their predictors in an urban city.	Yoda, Y., et al.	Indoor Air. 2017 Sep;27(5):955-964.
14	妊婦の精神的・身体的ストレス状況と労働による影響の調査	Status of Pregnant Women's Mental and Physical Stress and Influences of Work (妊婦の精神的・身体的ストレス状況と労働による影響の調査)	Anan, A., et al.	JJOMT(日本職業・災害医学会会誌) 2017. 65(4)
13	妊娠中携帯電話過剰使用と出生時体重の関連 (JECS追加研究)	Association of Excessive Mobile Phone Use during Pregnancy with Birth Weight: an Adjunct Study in Kumamoto of Japan Environment and Children's Study	Xi Lu., et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2017. 22:52
12	日本人妊娠女性の赤血球中多価不飽和脂肪酸濃度の決定因子:エコチル調査における追加調査の研究プロトコルおよびベースラインデータ	Determinants of polyunsaturated fatty acid concentrations in erythrocytes of pregnant Japanese women from a birth cohort study: study protocol and baseline findings of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study.	Saito, S., et al.	Environmental Health and Preventive Medicine. 2017. 22(1)
11	日本人女性における妊娠期と出産後の母体血赤血球中多価不飽和脂肪酸レベル	Polyunsaturated Fatty Acid Levels in Maternal Erythrocytes of Japanese Women during Pregnancy and after Childbirth.	Kawabata, T., et al.	Nutrient 2017. 9(3)
10	日本の幼児の使い捨て紙おむつから抽出した尿中有機リン系殺虫剤代謝物の定量分析	Quantitative analysis of organophosphate insecticide metabolites in urine extracted from disposable diapers of toddlers in Japan	Oya, N., et al.	Int J Hyg Environ Health. 2017. 220(2PtA)
9	食事摂取頻度調査票 (FFQ) をもちいたポリ塩化ビフェニル (PCBs) 曝露の推定	Assessment of questionnaire-based PCB exposure focused on food frequency in birth cohorts in Japan.	Eguchi, A., et al.	Environ Sci Pollut Res Int. 2017 Feb;24(4):3531-3538.
8	妊娠中後期における抑うつ症状と血清n-3系多価不飽和脂肪酸に関するケース・コントロール研究	Association of serum n-3 polyunsaturated fatty acids with psychological distress in the second and third trimesters of pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study	Hamazaki, K., et al.	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2016. 114
7	出生コホート参加へのモチベーションに関する研究	Survey of motivation to participate in a birth cohort.	Yamamoto, M., et al.	J Hum Genetics (2016)volume 61, pages 787-791
6	妊娠中のヨガ (マタニティ・ヨガ) 実践と、塩酸リトドリン投与との関連に関する研究: 子どもの健康と環境に関する全国調査における追加調査	The Association between Prenatal Yoga and the Administration of Ritodrine Hydrochloride during Pregnancy: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study.	Kawanishi, Y., et al.	PLoS One 2016. 11(6)
5	黄砂のアレルギー症状への影響	Effect of desert dust exposure on allergic symptoms: A natural experiment in Japan.	Kanatani, KT., et al.	Ann Allergy Asthma Immunol. 2016. 116(5)
4	妊娠前期における抑うつ症状と血清n-3系多価不飽和脂肪酸に関するケース・コントロール研究	Serum n-3 polyunsaturated fatty acids and psychological distress in early pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and	Hamazaki, K., et al.	Transl Psychiatry. 2016. 6:e737
3	周産期の脂肪酸状態の判定を目的とした、日本人胎盤の脂肪酸組成の不均一性に関する方法論的研究	Heterogeneity of the Fatty Acid Composition of Japanese Placentae for Determining the Perinatal Fatty Acid Status: a Methodological Study.	Yamazaki, I., et al.	J Oleo Sci. 2015. 64(8)

No	論文	Publication (English)	著者	学術雑誌
2	高齢妊娠で無侵襲的出生前検査を受検した妊婦の非特異的メンタルストレスの検討	Non-specific psychological distress in women undergoing noninvasive prenatal testing because of advanced maternal age.	Suzumori, N., et al.	Prenatal Diagnosis. 2014. 34(11): 1055-60. (doi: 10.1002/pd.4427).
1	『黄砂と子どもの健康調査』の計画	Birth cohort study on the effects of desert dust exposure on children's health: protocol of an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study.	Kanatani, KT., et al.	BMJ Open. 2014. 4(6)

参考⑦ その他の学術雑誌等における発表 46件 (平成31年1月末時点)

No	論文	著者名	雑誌名
46	出生コホート研究—子どもたちの健康を守る環境づくりのために	山本 緑	医学のあゆみ. 2018. 266(2):169-174.
45	エコチル調査追加調査『黄砂と子どもの健康調査』	Kanatani, K., et al.	BabLab紀要 2018年11月 67-68頁
44	黄砂のアレルギーへの影響～子どもを包む空気を考える～	Kanatani, K., et al.	大気化学研究誌 2018年7月 39巻
43	エコチル調査を用いた東日本大震災後の福島県における妊娠帰結	Kyozuka H., et al.	Tohoku J Exp Med. 2018 Sep;246(1):27-33.
42	環境保健研究のジレンマ	村田勝敬ほか	日衛誌(Jpn. J. Hyg.) 第73巻 第2号 2018年5月
41	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」追跡期間の課題と取り組み	佐藤 晶子ほか	福島県保健衛生雑誌 年:2018月:3巻:31頁:25-31
40	エコチル調査(千葉UC)における妊婦の血清葉酸とカフェインを含む飲料の関連について	Otake, M., et al.	Journal of Epidemiology 年:2018
39	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」リクルート期間の進捗報告	Hashimoto, K., et al.	Fukushima Journal of Medical Science 年:2017月:8巻:63(2)頁:57-63
38	エコチル調査における国際連携:背景、活動と今後について	Ishitsuka, K., et al.	Environ Health Prev Med. 2017 Jul 14;22(1):61. doi: 10.1186/s12199-017-0667-y.
37	小児疫学調査における2歳児を対象とした採血実施状況 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」詳細調査から	佐藤 晶子ほか	福島県保健衛生雑誌 年:2017月:3巻:29頁:14-18
36	福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」	橋本 浩一	福島県保健衛生雑誌 年:2016月:3巻:27頁:28-32
35	Relieving pain and distress during venipuncture: Pilot study of the Japan Environment and Children's Study (JECS).	Yamamoto-Hanada K, Futamura M, Kitazawa H, Ohya Y, Kobayashi F, Kusuda T, Sanefuji M, Oda M, Mitsubuchi H, Shibata E, Tsuji M, Kayama F, Nakano Y, Suda E, Michikawa T, Katoh T, Saito H.	Pediatr Int. 2015. 57(5):1044-7. (doi: 10.1111/ped.12818).
34	エコチル調査への期待と責任(特集(エコチル調査に求めるもの—環境リスクから子どもを守るために—)の一部)	橋本 浩一	化学物質と環境 年:2014月:5巻:125頁:43289
33	福島ユニットセンターの活動	橋本 浩一	チャイルドヘルス 年:2014月:3巻:19頁:48-49
32	Harmonizing Biomarker Measurements in Longitudinal Studies of Children's Health and the Environment.	Ruth Etzel, Marie-Aline Charles, Michael Dellarco, Katie Gajeski, Karl-Heinz Jöckel, Steven Hirschfeld, Michihiro Kamijima, Toshihiro Kawamoto, Marike Kolossa-Gehring, Shoji Nakayama, Borge Schmidt, Ying Tian, Birgit Wolz, Cécile Zaros, Jun Zhang.	Biomonitoring. 2014. 1:50-62. (doi: 10.2478/bimo-2014-0006).
31	Rationale and study design of the Japan environment and children's study (JECS).	Kawamoto T, Nitta H, Murata K, Toda E, Tsukamoto N, Hasegawa M, Yamagata Z, Kayama F, Kishi R, Ohya Y, Saito H, Sago H, Okuyama M, Ogata T, Yokoya S, Koresawa Y, Shibata Y, Nakayama S, Michikawa T, Takeuchi A, Satoh H and Working Group of the Epidemiological Research for Children's Environmental Health.	BMC Public Health. 2014. 14:25. (doi: 10.1186/1471-2458-14-25).
30	北海道3地区における妊婦の喫煙の実態について: 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」北海道ユニットセンター登録者のデータから	荒木, 敦子; 西條, 泰明; 伊藤, 善也; 池野, 多美子; 宮下, ちひろ; 伊藤, 佐智子; 土川, 陽子; 田村, 菜穂美; 吉岡, 英治; 川西, 康之; 村林, 宏; 岸, 玲子; エコチル調査北海道ユニットセンター事務局	北海道公衆衛生学雑誌. 2013. 27(2):105-113.

No	論文	著者名	雑誌名
29	子どもの成長・発達に影響を与える環境要因を明らかにする取り組み—エコチル調査	川本俊弘	環境情報科学. 2013. 41(4):16-20
28	東日本大震災後の福島の子どもたちとエコチル調査ができること	橋本 浩一	とやま小児保健 年:2012 月:11 巻:10 頁:16-18
27	上伊那地域における「子どもの健康と環境に関する全国調査」	堺 温哉, 津田 洋子, 塚原 照臣, 日高 義彦, 稲葉 雄二, 金井 誠, 福島 義光, 野見山 哲生	信州公衆衛生雑誌. 2012. 6(2): 101-106.
26	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の意義と今後の展望	佐藤洋	公衆衛生. 2011. 75(7):529-532.
25	「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)始まる	新田裕史	日本医事新報. 2011. 4560:48-49
24	エコチル調査 エコチル調査の特徴と米国の動向	新田裕史	Biophilia. 2011. 7(3):71-73
23	なぜ子どもへの環境影響が重要なのか?—エコチル調査の科学的背景	藤原武男	Biophilia. 2011. 7(1):59-62.
22	エコチル調査が本格スタート 子どもの環境影響に関する大規模調査への理解を	戸高恵美子	助産雑誌. 2011. 65(9):810-815.
21	エコチル調査 —パイロット調査—	諸隈誠一	Biophilia. 2010. 6(4):72-75
20	エコチル調査 子どもの健康と環境に関する全国調査	丹藤昌治	Biophilia. 2010. 6(2):75-77.
19	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)について	丹藤昌治	公衆衛生. 2010. 74(8):721-723
18	「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」について	丹藤昌治.	ファルマシア. 2010. 46(7):677-680.
17	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)について	藤原武男	小児保健研究. 2010. 69(6):727-734.
16	わが国の小児環境保健に対する取り組み—エコチル調査の開始にあたって—	稲寺秀邦	富山大学医学会誌. 2010. 21(1): 23-30.
15	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の概要	佐藤洋	保健医療科学. 2010. 59(4):360-365.
14	環境汚染物質と出生性比	須藤紀子	保健医療科学. 2010. 59(4):325-329.
13	喘息の環境要因	藤原武男, 大澤万伊子	保健医療科学. 2010. 59(4):351-359.
12	自閉症の環境要因	藤原武男, 高松育子	保健医療科学. 2010. 59(4):330-337.
11	世界における先行出生コホート研究の教訓	村田勝敬, 間正理恵.	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1127-1132.
10	わが国における研究事例:東北スタディ	仲井邦彦, 佐藤洋.	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1123-1126.
9	"エコチル調査"に望むもの:小児科の立場から	横田俊平.	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1113-1116.
8	環境化学物質の次世代影響に関するわが国における研究事例—北海道スタディの概要とこれまでの成果	岸玲子, 佐々木成子	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1117-1121.

No	論文	著者名	雑誌名
7	"エコチル調査"に望むもの:産科の立場から	江川美保, 小西郁生.	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1107-1112.
6	"エコチル調査"に望むもの:公衆衛生・疫学の立場から. 医学のあゆみ	山縣然太郎	2010. 235(11):1104-11106.
5	エコチル調査"とメディカルサポートセンターの役割	藤原武男, 福原陽子, 斎藤博久, 北川道弘	医学のあゆみ.2010. 235(11):1100-11103
4	"エコチル調査"の概要とコアセンターの役割	川本俊弘, 新田裕史	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1093-1098.
3	"エコチル調査"に至るまで	塚本直也	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1087-1092.
2	"エコチル調査"前史	佐藤洋	医学のあゆみ. 2010. 235(11):1083-1086.
1	環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」	丹藤昌治	ペリネイタルケア. 2009. 28(12):66-72.

参考⑧-1 学会での発表 77件 (平成30年3月1日から平成31年1月末)

No	ユニットセンター等名	学会名	発表形態	発表タイトル	追加調査
1	コアセンター	第21回環境ホルモン学会研究発表会	ポスター発表	エコチル調査における妊娠中の母親の曝露に関する質問票集計結果	
2	コアセンター	第65回日本小児保健協会学術集会	特別講演・シンポジウム	エコチル調査の概要	
3	コアセンター	日本パーソナリティ心理学学会	特別講演・シンポジウム	エコチル調査の概要と進捗	
4	メディカルサポートセンター	日本健康心理学会	特別講演・シンポジウム	シンポジウムタイトル：子どもの心身の健康づくりを支援する健康心理学ー現在進行中ー 演題タイトル：出生コホート研究から得られた子どものライフスタイルをどう活かすか	
5	北海道UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	エコチル調査北海道ユニットセンターにおける妊娠時のシラカンバ特異IgEレベル	
6	北海道UC	INCHES2018	ポスター発表	Autism Spectrum Disorder Screening in General Japanese Toddlers Using M-CHAT: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	○
7	北海道UC	第21回環境ホルモン学会研究発表会	ポスター発表	エコチル調査「北海道ユニットセンターの進捗状況と、2歳までの喘鳴・湿疹・食物アレルギーの有病割合に関する報告」	
8	北海道UC	北海道周産期談話会	口頭	エコチル調査北海道ユニットセンターに登録した両親の特徴と出生アウトカムの集計結果	
9	北海道UC	第11回オホーツク医学大会	口頭	環境省エコチル調査：調査概要および状況	
10	宮城UC	日本脂質栄養学会第27回大会	ポスター発表	在胎期間に応じた出生体重における臍帯血中脂肪酸組成および不飽和酵素活性指標	○
11	宮城UC	日本妊娠高血圧学会	口頭・ポスター発表	妊娠期間中の飲酒と妊娠高血圧症候群リスクとの関連	
12	宮城UC	第70回日本産婦人科学会学術講演会	シンポジウム	生殖・周産期分野の前方視的研究から得られた最新の知見と先制医療への展望 胎児の発達に影響を与える環境要因と病態の解明ー周産期メンタルヘルスに着目してー	
13	福島UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	初産婦の母体年齢が分娩週数、出生体重に与える影響についての検討（エコチル調査）	
14	福島UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	ヒトパレコウイルス3型への中和抗体価と周産期因子との関連	○
15	福島UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	大規模出生コホート調査における発達検査の実施状況と課題（エコチル調査より）	
16	福島UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	出生コホート調査における現参加者数維持のためのコミュニケーション活動とその課題	
17	福島UC	第42回日本産婦人科栄養・代謝研究会	口頭	メタボローム解析を用いた早発妊娠高血圧症候群における妊娠初期血液代謝産物の網羅的解析	○
18	福島UC	第71回日本産婦人科学会学術講演会	口頭	Comprehensive metabolic analysis for early-onset preeclampsia in the first trimester	○
19	福島UC	第77回日本公衆衛生学会総会 シンポジウム 子どもの環境保健研究の公衆衛生学的意義：エコチル調査等の出生コホート研究の地域公衆衛生活動への貢献	特別講演・シンポジウム	「東日本大震災の復興とともに歩む福島県でのエコチル調査」	
20	福島UC	第59回日本児童青年精神医学会	口頭	福島市における東日本大震災後の子どもの精神状態と発達障害との関連について-エコチル追加調査	
21	千葉UC	日本人類遺伝学会第63回大会	口頭・ポスター発表	出生コホート調査参加者の遺伝子解析に対する考えと遺伝リテラシーについて	○

No	ユニットセンター等名	学会名	発表形態	発表タイトル	追加調査
22	千葉UC	第29回日本疫学会学術総会	口頭・ポスター発表	生後1か月児の家庭内喫煙状況およびその背景要因に関する検討	
23	千葉UC	ISEE/ES AC 2018	ポスター発表	Association between maternal low energy reporters of food questionnaire and some factors in pregnant women in Chiba	
24	千葉UC	ISEE/ES AC 2018	口頭	Portable Device Handling in Infants and Mother-Child Relationship	
25	千葉UC	第20回日本こども健康科学会学術大会	特別講演・シンポジウム	エコチル調査でわかってきたこと	
26	神奈川UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	質問票返送の催促方法の違いによる回収率の差に関する考察（エコチル調査）	
27	甲信UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	エコチル調査における追跡率に関連する要因の検討；山梨エリアと信州エリアの比較から	
28	甲信UC	第65回日本小児保健協学会学術集会	特別講演・シンポジウム	教育講演「PM2.5とアレルギー疾患」発生源別PM2.5成分と児のアレルギー症状	○
29	甲信UC	日本小児泌尿器科学会・金沢市	口頭	小児期の下部尿路機能および排便機能の発達について	
30	甲信UC	56回国際環境疫学会 ISES-ISEE (Ottawa,Canada)	口頭	妊娠初期における血中スギ特異的IgEクラス判定と花粉症（アレルギー性鼻炎）との関係ーエコチル調査山梨県内のデータから	
31	甲信UC	European congress of Epidemiology 2018	ポスター発表	Effect of delay at 12 months of age on later developmental status determined using the Ages and Stages Questionnaire: The Japan Environment and Children's Study	
32	富山UC	第77回 日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	3歳児健診を活用したエコチル調査富山ユニットセンターにおけるフォローアップの検討	
33	富山UC	第77回 日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	エコチル調査における富山ユニットセンターの3歳児健診会場での質問票回収活動	
34	富山UC	第89回日本衛生学会学術総会	ポスター発表	エコチル調査における富山ユニットセンターの工夫3：未記入箇所問い合わせの実施	
35	富山UC	第57回富山県小児保健学会	口頭	黄砂が小児の目・鼻・呼吸器の症状に与える影響（エコチル調査追加調査より）	○
36	富山UC	第57回富山県小児保健学会	口頭	エコチル調査 ベースラインプロファイル～富山県の特徴～	
37	富山UC	第27回 日本臨床環境医学会学術集会	特別講演・シンポジウム	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	
38	富山UC	日本脂質栄養学会第27回大会	特別講演・シンポジウム	妊婦における魚食・n-3系多価不飽和脂肪酸摂取と抑うつとの関連について（エコチル調査より）	
39	富山UC	The 57th Annual Meeting of the Japan Oil Chemists' Society	特別講演・シンポジウム	Role of omega-3 polyunsaturated fatty acids on depressive symptoms in younger generations and among pregnant women	
40	富山UC	DHA・EPA協議会	特別講演・シンポジウム	メンタルヘルスにおけるDHA・EPAの役割	
41	富山UC	日本脂質栄養学会第27回大会	特別講演・シンポジウム	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	
42	愛知UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	出生コホート研究参加児の母親の就労状況と質問票返送日数との関連についてー愛知県におけるエコチル調査のデータからー	
43	愛知UC	第64回中部日本小児科学会	ポスター発表	母親の抑うつと養育態度の関連ー愛知県におけるエコチル調査参加者の結果より	
44	愛知UC	第69回名古屋市立大学医学部学術集会 RA（博士課程研究遂行協力制度）成果発表会	ポスター発表	幼児の殺虫剤曝露量モニタリング	○
45	愛知UC	第64回東海公衆衛生学会	口頭	エコチル調査愛知ユニットセンターにおける進捗報告 ー質問票の回収状況と発達について	

No	ユニットセンター等名	学会名	発表形態	発表タイトル	追加調査
46	愛知UC	第54回中部小児科学会	口頭	親の抑うつ傾向と養育態度の関連 —愛知県におけるエコチル調査参加者の結果より	
47	愛知UC	第89回日本衛生学会	口頭	1歳半児におけるジノテフラン曝露量と生活環境および食意識との関連	○
48	愛知UC	第46回産業中毒・生物学的モニタリング研究会	口頭	神経発達期における縦断的な有機リン系殺虫剤曝露評価	○
49	愛知UC	第3回日本DCD学会	口頭・ポスター発表	非定型的な運動様式を認める乳幼児の実態調査	○
50	愛知UC	ISEE-ISES AC 2018	口頭	Exposure levels of organophosphorus insecticides in 1.5- and 3-year-old children in Japan 日本の1.5歳児および3歳児における有機リン系殺虫剤への曝露量	
51	京都UC	第49回職業環境アレルギー学会学術大会	口頭	黄砂の乳幼児の症状への影響	○
52	京都UC	日本花粉学会第59回大会	口頭	黄砂の花粉症への短期影響 エコチル追加調査より	○
53	京都UC	第68回日本アレルギー学会学術大会	口頭	The impact of exposure to desert dust in infants' symptoms and the countermeasures to reduce the effects.	○
54	京都UC	第59回大気環境学会年会シンポジウム「越境粒子状物質の健康影響」	特別講演・シンポジウム	黄砂の乳幼児への短期影響—燃焼性大気汚染物質による影響修飾—	○
55	京都UC	日本発達神経科学学会第7回学術大会	特別講演・シンポジウム	妊婦の屋外時間とビタミンD充足状況	○
56	京都UC	ISEE-ISES AC 2018	ポスター発表	The effectiveness of Asian dust now-cast/for-cast intervention among mothers of wheezing children in Japan: A randomized controlled trial	○
57	京都UC	KAAACI	ポスター発表	The effect of Asian dust on infants' nose, eyes and respiratory symptoms	○
58	京都UC	KAAACI・東アジアアレルギーシンポジウム1	特別講演・シンポジウム	Desert dust exposure and allergy - in era of climate change -	○
59	大阪UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	エコチル調査大阪ユニットセンターにおける質問票回収に影響する要因の検討 母親の妊娠期生活習慣と食行動	
60	大阪UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	大阪ユニットセンター広報用ポスター	
61	大阪UC	第29回日本疫学会学術総会	ポスター発表	エコチル調査大阪ユニットセンターにおける質問票回収に影響する地理的要因の検討	
62	大阪UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	妊婦の喫煙と飲酒～エコチル調査大阪ユニットセンターでの状況～	
63	大阪UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	エコチル調査大阪ユニットセンターにおける質問票回収に影響する要因の検討 母親の妊娠期生活習慣と食行動	
64	大阪UC	第77回日本公衆衛生学会総会	口頭	妊婦の喫煙と飲酒～エコチル調査大阪ユニットセンターでの状況～	
65	兵庫UC	第59回大気環境学会年会	ポスター発表	一般家屋における空気中エンドトキシン濃度と空気清浄機使用との関係	○
66	兵庫UC	第28回日本健康医学会総会	口頭	呼気一酸化窒素濃度（FeNO）と生活環境との関連	○
67	兵庫UC	第67回日本アレルギー学会学術大会	特別講演・シンポジウム	アレルギーと環境（エコチル調査も含めて）	
68	兵庫UC	The Joint Annual Meeting of the International Society of Exposure Science and the International Society for Environmental Epidemiology (ISES-ISEE 2018)	ポスター発表	Endotoxin concentrations in airborne particulate matter and house dust in homes of Japanese children	○
69	鳥取UC	第77回日本公衆衛生学会総会	ポスター発表	妊娠前の既往歴が血中オキシトシン濃度に与える影響	○

No	ユニットセンター等名	学会名	発表形態	発表タイトル	追加調査
70	鳥取UC	第61回鳥取県公衆衛生学会	口頭	妊娠期の血中オキシトシンの養育行動に与える影響	○
71	鳥取UC	The Society of Endometriosis and Uterine Disorders (SEUD 2018)	ポスター発表	Obstetrical Complications in Women with Endometriosis: A Cohort Study in Japan	
72	鳥取UC	第54回日本周産期・新生児医学会学術集会	ポスター発表	子宮内膜症の既往がある妊婦はpreterm PROMと前置胎盤のリスクが増加する	
73	高知UC	第94回日本小児科学会高知地方会	口頭	「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」 ー進捗報告および今後の展望ー	
74	産業医科大学SUC	平成30年度 日本産業衛生学会九州地方会	口頭	Variation in men's dietary intake between occupations, based on data from The Japan Environment and Children's Study (JECS)	
75	九州大学SUC	日本農芸化学会2019年度大会	口頭	生後1年間における乳幼児の腸内真菌叢形成と出産・育児環境因子の関連性解析	○
76	熊本大学SUC	第89回日本衛生学会学術総会	ポスター発表	妊娠中携帯電話過剰使用と出生時体重の関連（JECS追加研究）	○
77	琉球大学SUC	第77回日本公衆衛生学会総会	口頭	妊娠初期における正常血圧妊婦と前高血圧妊婦の生活習慣病関連因子の比較検討～南九州・沖縄UCエコチル調査から～	

参考⑧-2 マスメディア 34件 (平成30年3月1日から平成31年1月末)

No	ユニットセンター等名	発表形態	媒体名及びタイトル
1	宮城UC	プレスリリース	東北大学プレスリリース 妊娠期間中の飲酒の継続は妊娠高血圧症候群リスクを高める
2	宮城UC	プレスリリース	東北大学プレスリリース 月経困難症の既往が周産期のメンタルヘルスマネジメントに重要
3	千葉UC	その他	広報かもがわ 第30回千葉大学予防医学センター エコチル調査公開講座
4	千葉UC	その他	南房総生活情報誌CLIP (クリップ) 第30回千葉大学予防医学センター市民講座「遺伝子と病気について」
5	千葉UC	その他	ぐるっと千葉 遺伝と病気について学ぼう
6	千葉UC	その他	南房総生活情報誌CLIP (クリップ) ちばエコチル調査講演会「子どもの健康と発達障害を知ろう」
7	千葉UC	その他	ぐるっと千葉 ちばエコチル調査講演会「子どもの健康と発達障害を知ろう」
8	千葉UC	取材・報道機関等への情報資料提供 (口頭のみを含む)	房日新聞 子どもの健康と環境学ぶ
9	千葉UC	プレスリリース	千葉大学プレスリリース ちばエコチル調査講演会「子どもの健康と発達障害を知ろう！」を開催
10	千葉UC	取材・報道機関等への情報資料提供 (口頭のみを含む)	房日新聞 発達障害を知ろう 千葉大学予防医学センター 館山で専門家迎え講演会
11	千葉UC	取材・報道機関等への情報資料提供 (口頭のみを含む)	房日新聞 250人が理解深める 「発達障害」テーマに漫画家の沖田さんらが講演
12	甲信UC	取材・報道機関等への情報資料提供 (口頭のみを含む)	山梨日日新聞 エコチル調査初年度参加者「折り返し」
13	甲信SUC	その他	F M長野放送「エコチル信州応援団」 毎週金13:55~14:00
14	富山UC	プレスリリース	富山大学プレスリリース 帝王切開での出生と乳児期の便秘は関係が無い
15	富山UC	プレスリリース	富山大学プレスリリース 産後うつと関連して対児愛着が悪くなる (エコチル調査より)
16	愛知UC	その他	月刊ケリー5月号 エコチル調査シンポジウム&公開講座を開催
17	愛知UC	プレスリリース	エコチル調査公開講座2019を開催します
18	愛知UC	プレスリリース	妊娠期間中母親血中カドミウム及び鉛と妊娠糖尿病との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査) における研究
19	愛知UC	プレスリリース	流産・死産を繰り返す不育症でも先天異常や染色体異常は増加しない
20	高知UC	その他	高知新聞 エコチル調査対談記事
21	高知UC	その他	高知放送番組「きょうも元気にばわらじ！」 2018/4/23OA エコチル調査について
22	高知UC	その他	FMこうち「Blue Project」 (2018/7/14OA) エコチル調査について
23	高知UC	その他	高知放送ラジオ「今日も元気にばわらじ！」 (2018/7/16OA) エコチル調査について

No	ユニットセンター等名	発表形態	媒体名及びタイトル
24	高知UC	その他	高知県出産・育児応援サイト「こうちプレマnet」イベントカレンダー 子育て講演会お知らせ
25	高知UC	その他	高知新聞 みんなの情報掲示板アドにゅーすけ子育て講演会お知らせ
26	高知UC	その他	高知新聞社発行ミリカ子育て講演会お知らせ
27	高知UC	その他	高知新聞 みんなの情報掲示板アドにゅーすけ子育て講演会お知らせ
28	高知UC	その他	高知新聞 みんなの情報掲示板アドにゅーすけ子育て講演会お知らせ
29	産業医科大学SUC	取材・報道機関等への情報資料提供（口頭のみを含む）	福岡県環境保全功労者知事表彰 特になし
30	産業医科大学SUC	プレスリリース	産業医科大学・国立環境研究所 同時報道発表「The association between whole blood concentrations of heavy metals in pregnant women and premature births: The Japan Environment and Children's Study (JECS)」について
31	産業医科大学SUC	プレスリリース	産業医科大学・国立環境研究所 同時報道発表「妊婦の血液中金属濃度とIgE抗体の関係」について
32	熊本大学SUC	その他	天草市コミュニティラジオ「みつばちラジオ」エコチル調査について (2018年9月19日OA)
33	宮崎大学SUC	プレスリリース	「エコチル調査ハッピーフェスタ2018」の開催について
34	宮崎大学SUC	取材・報道機関等への情報資料提供	MRTニュース「エコチル調査」

参考⑧-3 アウトリーチ活動（一般向けシンポジウム・講演等） 125件

（平成30年3月1日から平成31年1月末）

No	ユニットセンター等名	講演会・イベント名	発表タイトル	人数
1	コアセンター	国立環境研究所 公開シンポジウム2018	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)ーこれまでに分かったことー	—
2	コアセンター	名城大学薬学部講演	妊娠期の化学物質曝露と子どもの発達	—
3	メディカルサポートセンター	第8回エコチル調査シンポジウム	エコチル調査における先天性形態異常の有病率 Prevalence of congenital anomalies in the Japan Environment and Children's Study	—
4	メディカルサポートセンター	第8回エコチル調査シンポジウム	妊娠中の母親と父親のアレルギープロフィールーこどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	—
5	北海道UC	第1回親子料理教室 2018年5月26日実施		34
6	北海道UC	第2回親子料理教室 2018年6月2日実施		32
7	北海道UC	第3回親子料理教室 2018年6月16日実施		36
8	北海道UC	夏のフルーツ狩り 2018年7月1日 午前・午後の2回実施		119
9	北海道UC	親子料理教室 2018年7月21日実施		40
10	北海道UC	親子料理教室 2018年7月22日実施		40
11	北海道UC	エゾチル通信写真撮影会(札幌) 2018年8月18日実施		40
12	北海道UC	親子遠足「木工体験」 2018年9月15日実施		33
13	北海道UC	親子遠足「養鶏場見学」 2018年9月16日実施		32
14	北海道UC	防災食セミナー 2018年10月6日実施		31
15	北海道UC	北見サブユニットセンター「親子ビクスレス」2018年5月20日実施		18
16	北海道UC	第20回日本赤十字北海道看護大学 大学祭「いきものきょうしつ」2018年6月23日実施		51
17	北海道UC	北見サブユニットセンター「キッズダンス」2018年10月20日 午前・午後の2回実施		84
18	北海道UC	高校での出張講義（札幌南高等学校）	胎児期の環境が将来の健康に影響している？	約80
19	北海道UC	高校での出張講義（札幌国際情報高等学校）	胎児期の環境が将来の健康に影響している？	40
20	北海道UC	第8回エコチル調査シンポジウム	妊娠中のマタニティヨガ実践と、塩酸リトドリン投与との関連に関する研究： 子どもの健康と環境に関する全国調査における追加調査	190
21	北海道UC	旭川サブユニットセンター「親子ダンス教室」 2018年11月10日実施		28
22	北海道UC	エゾチル通信写真撮影会(北見) 2018年12月15日実施		23
23	北海道UC	エゾチル通信写真撮影会(旭川) 2018年12月16日実施		24
24	宮城UC	第8回エコチル調査シンポジウム	日本人の妊娠女性における医薬品・サプリメントの使用状況について 妊娠中のアルコール摂取と妊娠高血圧症候群の関連	190
25	宮城UC	登米市こどもまつり		530
26	宮城UC	石巻赤十字病院健康まつり		200
27	宮城UC	石巻市楽しさいっぱい子ども展		150
28	宮城UC	石巻市民食育健康フェスティバル		150
29	宮城UC	元気なくりはらっこ大会		300
30	宮城UC	大崎市健康と福祉のつどい		400

No	ユニットセンター等名	講演会・イベント名	発表タイトル	人数
31	宮城UC	岩沼市にこにこ保育展		150
32	宮城UC	女川町健康をつくる市民のつどい		11
33	宮城UC	第25回 エコチルセミナー_大崎 「ちょっと小さめ？太め？気になる子供の成長～ヒントは食生活にあり～」		13
34	宮城UC	第26回 エコチルセミナー_栗原 「ちょっと小さめ？太め？気になる子供の成長～ヒントは食生活にあり～」		7
35	宮城UC	第27回 エコチルセミナー_石巻 「ちょっと小さめ？太め？気になる子供の成長～ヒントは食生活にあり～」		4
36	宮城UC	第28回 エコチルセミナー_気仙沼 「ちょっと小さめ？太め？気になる子供の成長～ヒントは食生活にあり～」		5
37	宮城UC	第29回 エコチルセミナー_岩沼 「ちょっと小さめ？太め？気になる子供の成長～ヒントは食生活にあり～」		4
38	宮城UC	第30回 エコチルセミナー_登米 「ちょっと小さめ？太め？気になる子供の成長～ヒントは食生活にあり～」		6
39	福島UC	福島市主催 すこやか親子セミナー 第3回 ふくしまっ子元気な体と心づくり 小児科医からのメッセージ 講演	ふくしまっ子元気な体と心づくり 小児科医からのメッセージ	17
40	福島UC	エコチル★ふくしま 子育て講演会 & ファミリーコンサート	エコチル★ふくしま 子育て講演会&ファミリーコンサート	305
41	千葉UC	第29回千葉大学予防医学センター市民講座「出生コホート調査における化学物質測定の実状」	健康への影響が気になる金属について:エコチル調査で測定する金属	18
42	千葉UC	第30回千葉大学予防医学センター市民講座「遺伝子と病気について」	1)エコチル調査ってなんだろう 2)エコチル調査でわかること	34
43	千葉UC	千葉市食育のつどい2018	1)子どもの健康と環境 2)こどもの食べ物とアレルギー	200
44	千葉UC	びよきちわくわくフェスタ	エコチル調査ってなんだろう？	482
45	千葉UC	安房地区 保健主事・養護教諭合同研修会	子どもの健康と環境:スマートフォンの影響	—
46	千葉UC	ちばエコチル調査講演会「子どもの健康と発達障害を知ろう！」千葉講演	エコチル調査の取り組み	81
47	千葉UC	ちばエコチル調査講演会「子どもの健康と発達障害を知ろう！」館山講演	エコチル調査の取り組み	252
48	千葉UC	ママキッズフェスタ (一般市民を対象にした広報活動、ポスター掲示、アンケート、チラシ配布)		800 チラシ配布数
49	千葉UC	すこやか親子のENJOYアカデミー2018～家族の健康を楽しく学ぼう！！～ (一般市民を対象にした広報活動、アンケート、チラシ配布)		50 チラシ配布数
50	甲信UC	エコチルやまなしファミリーイベント 「うごく！大きな絵があるコンサート」		293名 (大人145名 子ども148名)
51	甲信UC	エコチルやまなしフォーラム2018初冬 「子どもの“こころ”はどう育つ～親子のきずなを深めるヒント～」		88名 (大人57名 子ども31名)
52	甲信SUC	親子参加イベント		313
53	甲信SUC	2018秋のエコチルフェスティバル	エコチル調査の現在と未来	30
54	富山UC	東京女子医科大学講演(教職員対象)	サブタイトル:「魚食と抑うつとの関連」	100
55	富山UC	東京都医学総合研究所講演(教職員対象)	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	20
56	富山UC	平成30年度産業医研修会	メンタルヘルスにおけるEPA・DHA(ω3系多価不飽和脂肪酸)の役割	30
57	富山UC	平成30年度富山県在宅保健士らいちょう会研修会	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)から分かったこと	25

No	ユニットセンター等名	講演会・イベント名	発表タイトル	人数
58	富山UC	平成30年度富山市民大学 富山の環境の未来を学ぶ	子どもの健康と富山の環境	20
59	富山UC	平成30年度富山市養護教諭研修会	公衆衛生的観点からみたエコチル調査	100
60	富山UC	富山県魚津市立道下小学校での講演	目によい生活を送ろう	280
61	富山UC	富山県富山市立音川小学校での講演	ゲームと体について考えよう	100
62	富山UC	第8回エコチル調査シンポジウム	妊娠期および出産後における魚食/ω3系脂肪酸摂取と抑うつとの関連	190
63	愛知UC	第8回エコチル調査シンポジウム	妊娠中の血中カドミウムおよび鉛濃度と妊娠糖尿病との関連性	190
64	愛知UC	エコチル調査公開講座2019	不育症のママの妊娠について	80
65	愛知UC	北区区民まつりブース出展		150
66	愛知UC	一宮市健康まつり「たのしいうんどろあそび」		178
67	愛知UC	一宮市よいこのつどい		197
68	京都UC	ながはま健康フェスタ	黄砂とPM2.5のアレルギーへの影響～気をつけるポイント～	30
69	京都UC	プチイベント・救命講習会（2018/3）		21
70	京都UC	プチイベント・お名前バッグを作ろう（2018/3）		115
71	京都UC	プチイベント・プチヨガ教室（2018/6）		16
72	京都UC	プチイベント・くまごろうものがたり（2018/6）		48
73	京都UC	プチイベント・先生と話そう！（2018/6） 「教えて！アレルギー」		7
74	京都UC	エコチルフェスタ京都（2018/7）		918
75	京都UC	プチイベント・風呂敷を使ってみよう！（2018/10）		5
76	京都UC	京都やんちゃフェスタ（2018/11）		900
77	京都UC	プチイベント・先生と話そう！（2018/11） 「発達が心配・・・」		2
78	京都UC	プチイベント・クリスマスライトを作ろう（2018/12）		64
79	京都UC	エコチルファミリア消しゴムはんこでオリジナルグッズを作ろう		10
80	京都UC	クリスマスライトを作ろう		74
81	京都UC	エコチルフェスタ（午前）		411
82	京都UC	エコチルフェスタ（午後）		315
83	京都UC	参加者向けイベント（エコチルカフェ）講演会 お母さん、子どもたちに伝えたい大切なこと～食、寝、遊～		45
84	京都UC	参加者向けイベント（エコチルカフェ）手作り講習会 ガラスアートで小物入れを作ります		19
85	京都UC	参加者向けイベント（エコチルカフェ）参加者交流と一般広報 よってって、あそんでってエコチルカフェ		110
86	京都UC	参加者向けイベント（エコチルフェスタ）人形劇		556
87	大阪UC	おおさかユニット講演会2018	エコチル調査でわかってきたこと ー大阪ユニットー	60
88	大阪UC	講演会「エコチル調査のあゆみとこれから」		60
89	大阪UC	夏の子ども映画上映会2018		650
90	兵庫UC	親子運動教室		106

No	ユニットセンター等名	講演会・イベント名	発表タイトル	人数
91	兵庫UC	学研わくわく科学教室		220
92	兵庫UC	リラクソヨガ		7
93	兵庫UC	初めてのキッズダンス		84
94	兵庫UC	元気いっぱい英語リトミック		140
95	兵庫UC	第8回エコチル調査シンポジウム	妊娠中の女性がいる家屋内外の空気中粒子状物質に含まれるエンドトキシン濃度とそれを予測する因子	190
96	鳥取UC	らんま先生のサイエンスショー		452
97	鳥取UC	第1回ガイナレのお兄さんと遊ぼうサッカーにも挑戦		107
98	鳥取UC	第2回ガイナレのお兄さんと遊ぼうサッカーにも挑戦		105
99	高知UC	高知県梶原町立梶原小・中学校（梶原学園）での「エコチル調査出張講座」	エコチル調査からわかる大切なこと	45
100	高知UC	高知県香美市での園長会での「エコチル調査出張講座」	エコチル調査からわかる大切なこと	8
101	高知UC	第8回エコチル調査シンポジウム	つわりの程度と早産リスクの関連性について	190
102	高知UC	高知県私立園長会にて、エコチル調査概要説明及び進捗報告	子どもの健康と環境に関する全国調査 こうちエコチル調査	28
103	高知UC	スポーツフェスタ		395
104	高知UC	すこやか2018へブース出展		1500
105	高知UC	ハロウィン列車イベント		70
106	高知UC	高知大学物部キャンパス一日公開へブース出展		217
107	高知UC	スポーツフェスタin幡多		138
108	高知UC	科学の祭典へブース出展		154
109	九州大学SUC	第27回福岡母性衛生学会	胎児から新生児そして小児へのトランジション医療	162
110	産業医科大学SUC	ハラハラ・ドキドキ☆みんなびっくり！マジックショー 2018年3月3日 午前・午後の2回実施		93
111	産業医科大学SUC	第2回ヤーッ!!カラテ教室 2018年8月1日実施		26
112	熊本大学SUC	エリックさんと英語でうたおう・おどろう♪		102
113	熊本大学SUC	日本百名城 人吉お城まつり（ブース出展） 2018年4月28～29日実施		307
114	熊本大学SUC	平成30年度天草市健康フェスタ（ブース出展）2018年6月16日実施		67
115	熊本大学SUC	ファミリー映画上映会（天草地域） 2018年10月14日実施		717
116	熊本大学SUC	平成30年度水俣市健康まつり（ブース出展）2018年11月4日実施		67
117	熊本大学SUC	人吉陶芸教室（人吉・球磨地域） 2018年11月18日実施		20世帯 (63名)
118	宮崎大学SUC	どんだけ健康会		314
119	宮崎大学SUC	ジェイミーとLet's英会話		132
120	宮崎大学SUC	ハーバリウム教室		46
121	宮崎大学SUC	ハッピーフェスタ2018		621
122	琉球大学SUC	平成30年度 市民公開講座 ～子どもの発達に目を向けよう～	エコチル調査の概要～沖縄県宮古島の状況～、ちょっと気になるこどもたち、精神神経発達検査担当者から見たエコチル調査	19

No	ユニットセンター等名	講演会・イベント名	発表タイトル	人数
123	琉球大学 SUC	第3回エコチル調査 まいふかこどもまつり		555
124	琉球大学 SUC	英語リトミックinハロウィン		72
125	琉球大学 SUC	英語リトミックinクリスマス		71

参考⑧-4 アウトリーチ活動（一般向けシンポジウム・講演等以外） 135件
（平成30年3月1日から平成31年1月末）

No	ユニットセンター等名	媒体名等	発表タイトル	種類	人数
1	コアセンター	国立環境研究所 春の環境講座	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） 1.何を調べているの？ 2.詳細調査では何を調べているの？ 3.エコチル調査のデータや資料の流れ	一般市民への広報（広告等）	—
2	コアセンター	国立環境研究所 夏の公開	エコチル調査ってどんな調査？、エコチル調査では何を測定しているの？、自分の体組成を知ろう！	一般市民への広報（広告等）	—
3	北海道UC	第9回エコチル調査北海道ユニット旭川地区運営協議会	エコチル調査北海道ユニットセンター 詳細調査における2歳時の特異IgEレベル	エコチル関係者限定会合	17
4	北海道UC	第20回日本赤十字北海道看護大学 大学祭 「エコチルサロン」	「調査からわかったこと」	一般市民への広報（広告等）	207
5	北海道UC	北海道ユニットセンター 広報誌「エゾチル通信第13号」	調査からわかったこと	エコチル調査協力者へのニューズレター等	約7200
6	北海道UC	活動報告2017-18	活動報告2017-18	エコチル調査協力者へのニューズレター等	300
7	宮城UC	参加者向け広報冊子「MUCだより」	質問票集計結果から「お子さんの最近一週間の睡眠」（MUCだより2018年春号、9ページ）	エコチル調査協力者へのニューズレター等	9000
8	宮城UC	東北公衆衛生学会	エコチル宮城ユニットセンターの基本属性・成果報告について	その他	—
9	宮城UC	東北大学オープンキャンパス2018	エコチル調査の紹介	その他	495
10	宮城UC	しょうさいだより第5号（詳細調査参加者向けニューズレター）	ホルムアルデヒドとアセトアルデヒドの屋内および屋外の分布	エコチル調査協力者へのニューズレター等	500
11	宮城UC	MUCだより第10号	「カドミウム濃度と早産との関係」と「インフルエンザ予防接種を受けたことがあるお子さまの割合」	エコチル調査協力者へのニューズレター等	9000
12	福島UC	第52回郡山市こどもまつり	エコチル調査でわかったこと（環境省作成資料およびユニットセンター作成資料）	その他	35000
13	福島UC	平成29年度 活動報告書	平成29年度 活動報告書	その他	600
14	福島UC	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 国際保健学セミナー	出生コホート調査における現参加者数維持のためのコミュニケーション活動とその課題	その他	15
15	福島UC	6歳医学的検査説明会	福島県におけるエコチル調査～福島の子どもの健やかな成長のために～	その他	40
16	福島UC	詳細調査協力医療機関訪問（福島県立医科大学附属病院）	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者限定会合	5
17	福島UC	2か所 詳細調査協力施設訪問（子どもの家）、詳細調査協力医療機関訪問（いわき市立総合磐城共立病院）	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者限定会合	5

No	ユニットセンター等名	媒体名等	発表タイトル	種類	人数
18	福島UC	詳細調査協力医療機関 (太田西ノ内病院)	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者 限定会合	5
19	福島UC	詳細調査協力医療機関 (竹田総合病院、星総合病院)	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者 限定会合	5
20	福島UC	詳細調査協力医療機関 (南会津病院)	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者 限定会合	5
21	福島UC	詳細調査協力医療機関 (白河厚生病院)	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者 限定会合	5
22	福島UC	詳細調査協力医療機関 (公立藤田病院、大原総合病院)	○福島県におけるエコチル調査の実施状況 ○エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告	エコチル関係者 限定会合	5
23	福島UC	詳細調査だより 第34号	詳細調査だより 第34号	エコチル関係者 限定会合	76
24	福島UC	平成30年度福島県市町村教育委員会連絡協議会定期総会	福島県におけるエコチル調査について	エコチル関係者 限定会合	75
25	福島UC	エコチル★詳細調査★だより 第36号	エコチル★詳細調査★だより 第36号	エコチル関係者 限定会合	76
26	福島UC	エコチル★詳細調査★だより 第37号	エコチル★詳細調査★だより 第37号	エコチル関係者 限定会合	76
27	福島UC	平成30年度福島県地域運営協議会	福島県におけるエコチル調査、詳細調査の実施状況、参加者への調査結果のお知らせ、コミュニケーション活動、学術活動、平成29年度年次評価の結果	エコチル関係者 限定会合	24
28	福島UC	エコチル★詳細調査★だより 第38号	エコチル★詳細調査★だより 第38号	エコチル関係者 限定会合	76
29	福島UC	エコチル★詳細調査★だより 第39号	エコチル★詳細調査★だより 第39号	エコチル関係者 限定会合	76
30	福島UC	平成30年度県北・相双地域運営協議会	福島県におけるエコチル調査、詳細調査の実施状況、参加者への調査結果のお知らせ、コミュニケーション活動、学術活動、平成29年度年次評価の結果	エコチル関係者 限定会合	49
31	福島UC	平成30年度第1回発達検査者情報交換会	○福島県におけるエコチル調査の状況 ○詳細調査進捗状況9.25 ○4歳精神神経発達検査実施状況など	エコチル関係者 限定会合	5
32	福島UC	エコチル★詳細調査★だより 第40号	エコチル★詳細調査★だより 第40号	エコチル関係者 限定会合	76
33	福島UC	平成30年度県中・県南地域運営協議会	福島県におけるエコチル調査、詳細調査の実施状況、参加者への調査結果のお知らせ、コミュニケーション活動、学術活動、平成29年度年次評価の結果	エコチル関係者 限定会合	54
34	福島UC	エコチル調査でわかってきたこと	エコチル調査でわかってきたこと	エコチル関係者 限定会合	290
35	福島UC	平成30年度いわき地域運営協議会	福島県におけるエコチル調査、詳細調査の実施状況、参加者への調査結果のお知らせ、コミュニケーション活動、学術活動、平成29年度年次評価の結果	エコチル関係者 限定会合	12
36	福島UC	エコチル★詳細調査★だより 第41号	エコチル★詳細調査★だより 第41号	エコチル関係者 限定会合	76
37	福島UC	4歳精神神経発達検査終了に伴う協力施設訪問	エコチル調査 詳細調査 進捗状況報告 2歳及び4歳精神神経発達検査実施状況	エコチル関係者 限定会合	10
38	福島UC	6歳医学的検査説明会	エコチル調査の概要 等	エコチル関係者 限定会合	20
39	福島UC	6歳医学的検査説明会	エコチル調査の概要 等	エコチル関係者 限定会合	20
40	福島UC	ファミリーフェスタ2018	エコチル調査でわかったこと	一般市民への広報(広告等)	13000

No	ユニットセンター等名	媒体名等	発表タイトル	種類	人数
41	福島UC	第34回 会津若松市健康まつり	エコチル調査でわかったこと	一般市民への広報（広告等）	1950
42	福島UC	福島市健康フェスタ	福島市健康フェスタ	一般市民への広報（広告等）	600
43	福島UC	プレパパ・プレママセミナー	新しい家族を迎えるために 小児科医からのメッセージ	一般市民への広報（広告等）	45
44	福島UC	参加者対象小規模イベント（エコチルふれあい会） 配布資料	エコチル調査からの報告	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	183
45	福島UC	詳細調査だより第35号	詳細調査だより第35号	エコチル調査協力者へのニューズレター等	76
46	福島UC	エコチル☆ふくしま通信 2018年夏号	エコチル☆ふくしま通信 2018年夏号	エコチル調査協力者へのニューズレター等	12500
47	福島UC	エコチル☆ふくしま通信 2018年秋号	エコチル☆ふくしま通信 2018年秋号	エコチル調査協力者へのニューズレター等	12500
48	福島UC	エコチル☆ふくしま通信 2018年冬号	エコチル☆ふくしま通信 2018年冬号	エコチル調査協力者へのニューズレター等	12500
49	福島UC	平成30年度会津地域運営協議会	福島県におけるエコチル調査、詳細調査の実施状況、参加者への調査結果のお知らせ、コミュニケーション活動、学術活動、平成29年度年次評価の結果	エコチル関係者限定会合	35
50	千葉UC	安房健康福祉センター地域保健課作成 妊産婦向け喫煙防止チラシおよびポスター	安房地域の妊産婦の喫煙状況	一般市民への広報（広告等）	—
51	千葉UC	ちばエコチル調査つうしん Vol.13	子どもたちはどのくらい寝てるの？	エコチル調査協力者へのニューズレター等	—
52	千葉UC	大学院修士講義 サステイナブル環境健康科学	環境疫学とコホート研究	その他	—
53	千葉UC	Mahidol and Chiba Summer Seminar on Public Health 2018	Japan Environment and Children's Study (JECS): A national birth cohort study	その他	—
54	千葉UC	平成30年度地域運営協議会（千葉市緑区、君津地区、安房地区、夷隅地区・一宮町、計4回）	1）全国および千葉ユニットセンター平成29～30年度活動報告と今後の計画について 2）全国データを用いた成果発表報告	その他	33
55	千葉UC	対象地域14市区町村 教育委員会、学校長あて配付物	エコチル調査学童期検査について	その他	—
56	神奈川UC	金沢区校長会	金沢区校長会	その他	—
57	神奈川UC	大和市民まつり	大和市民まつり	一般市民への広報（広告等）	—
58	神奈川UC	小田原子育てフェスティバル	小田原子育てフェスティバル	一般市民への広報（広告等）	—
59	神奈川UC	タウンニュース（大和版）2018年6月8日掲載分	エコチル調査の概要と進捗状況ならびに大和市民祭での様子	一般市民への広報（広告等）	—
60	神奈川UC	タウンニュース（小田原版）2018年6月9日掲載分	エコチル調査の概要と進捗状況ならびに小田原子育てフェスティバルでの様子	一般市民への広報（広告等）	—
61	神奈川UC	金沢区内の学校への配布用ちらし	エコチル調査の概要	一般市民への広報（広告等）	—
62	神奈川UC	横浜市金沢区いきいきフェスタ	横浜市金沢区いきいきフェスタ	一般市民への広報（広告等）	—
63	神奈川UC	参加者向け情報誌（HP上にもアップ）	参加者向け情報誌（HP上にもアップ）	エコチル調査協力者へのニューズレター等	—
64	神奈川UC	小田原市校長会	小田原市校長会	その他	—

No	ユニットセンター等名	媒体名等	発表タイトル	種類	人数
65	甲信UC	エコチルやまなしファミリーイベント2018	エコチルやまなし「こびっと通信」号外 質問票調査について	エコチル調査協力者へのニューズレター等	—
66	甲信UC	エコチルやまなし「こびっと通信」13号	子どもの目の健康について考えよう！～IT機器と上手につきあうために～	エコチル調査協力者へのニューズレター等	4200部
67	甲信SUC	エコチル信州「質問票より分かってきたこと」	習い事、保育施設利用状況、パートナーの育児協力	その他	2500
68	甲信SUC	ユニットセンター作成のオリジナルポスター	エコチル信州の質問票集計結果をご紹介します。	一般市民への広報（広告等）	7000
69	富山UC	富山ユニットセンター主催「親子でできる運動遊び」	「エコチル調査でわかったこと」	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	45
70	富山UC	大学院医学特別実習（富山大学）	脂肪酸とは？	その他	5
71	富山UC	福井大学 講演会	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他	30
72	富山UC	社会医学講義：修士課程（平成30年5月25日）	脂肪酸と疾病	その他	5
73	富山UC	新潟県医師会産業医研修会（上越会場）	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他	30
74	富山UC	富山県医師会産業保健研修会（富山県医師会）	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他	30
75	富山UC	第46回情報交換会（富山UC）	妊娠中の新築・改築住宅居住と早産、切迫早産、SGAの関連性	エコチル関係者限定会合	28
76	富山UC	第46回情報交換会（富山UC）	フォローアップ：3歳児健診会場での声掛け終了の御礼	エコチル関係者限定会合	28
77	富山UC	第48回情報交換会（富山UC）	プレスリリースの報告：帝王切開と便秘、産後うつとボンディングのテーマより	エコチル関係者限定会合	33
78	富山UC	家庭教育かわら版「ほっとタイムス」2018春夏号	エコチル調査を実施しています。	一般市民への広報（広告等）	—
79	富山UC	エコファミリー新聞 富山県版	ご存知ですか？ エコチル調査	一般市民への広報（広告等）	—
80	富山UC	エコチルとやまホームページ	エコチル調査でわかったこと 全国と富山の集計結果 パートナーの家事・育児状況	一般市民への広報（広告等）	—
81	富山UC	エコチルとやまホームページ エコチル調査でわかったこと	エコチル調査と国の統計情報を比較しました	一般市民への広報（広告等）	—
82	富山UC	富山県内全小学校で実施される就学時健診・富山県PTA連合総会にて配布するチラシ	エコチル調査を実施しています。	一般市民への広報（広告等）	1万
83	富山UC	エコチルとやまホームページ エコチル調査でわかったこと	全国と富山の集計結果	一般市民への広報（広告等）	—
84	富山UC	富山家庭教育かわら版 ほっとタイムス2018秋冬号	ご存知ですか？ エコチル調査	一般市民への広報（広告等）	—
85	富山UC	エコチルとやまホームページ エコチル調査でわかったこと	エコチル調査に参加されたお父さんお母さんの約半数にアレルギーあることが判明！	一般市民への広報（広告等）	—
86	富山UC	エコチル富山ホームページ エコチル調査でわかったこと	妊娠中の身体活動量が非常に少ないと、早産のリスクが増す	一般市民への広報（広告等）	—
87	富山UC	富山大学広報誌「トムズプレス」47号	妊娠中の身体活動量が非常に少ないと、早産のリスクが増す	一般市民への広報（広告等）	—
88	富山UC	エコチルとやまホームページ エコチル調査でわかったこと	帝王切開での出生と乳児期の便秘は関係が無い	一般市民への広報（広告等）	—
89	富山UC	エコチルとやまホームページ エコチル調査でわかったこと	産後うつと関連して対児愛着が悪くなる	一般市民への広報（広告等）	—
90	富山UC	エコチル親子でできる運動遊び～幼児期に獲得したい動きエトセトラ～	エコチル調査でわかったこと	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	45

No	ユニットセンター等名	媒体名等	発表タイトル	種類	人数
91	富山UC	第7回エコチルネイチャープログラム	エコチル調査でわかったこと	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	84
92	富山UC	2018 スポーツフェスタ	エコチル調査 進捗&結果報告	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	299
93	富山UC	エコチル親子でできる運動遊び～幼児期に獲得したい動きエトセトラ～	エコチル調査でわかったこと	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	39
94	富山UC	2018年12月2日（日）開催 ウィンターフェスタ	エコチル調査でわかったこと	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	575
95	富山UC	エコチルとやま新聞Vol17	人間関係は資産！？ ソーシャル・キャピタルという考え方	エコチル調査協力者へのニューズレター等	5700
96	富山UC	エコチルとやま新聞Vol.18 1面, 6面	(1面)妊娠中の身体活動量が非常に少ないと、早産のリスクが増す、(6面)エコチル調査でわかったこと	エコチル調査協力者へのニューズレター等	5700
97	愛知UC	創新（名古屋市立大学発行 一般向け広報誌）	エコチル調査公開講座を開催	一般市民への広報（広告等）	6000
98	愛知UC	名古屋市北保健センターにおける臨床研修医、地域医療研修のための講義	子どもたちの健康と環境の関係ーエコチル調査愛知ユニットセンターー	その他	5
99	愛知UC	名古屋市健康福祉局主催「H30年度公衆衛生研究発表会」	「環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の歩み	エコチル関係者限定会合	30
100	愛知UC	一宮産婦人科医会	「環境省 こどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の現在と今後	エコチル関係者限定会合	30
101	愛知UC	平成30年度第2回愛知県保健所長会	子どもの健康と環境に関わる全国調査（エコチル調査）について	エコチル関係者限定会合	30
102	愛知UC	名古屋市立大学 医学部広報誌「瑞医 Vol.38」	環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）進捗報告	一般市民への広報（広告等）	5700
103	愛知UC	交通広告	子供たちの未来について一緒に考えてみませんか？	一般市民への広報（広告等）	—
104	愛知UC	エコあいちマガジン23号	スペシャルコンテンツ エコチル特別授業 ～カドミウムについて学ぼう～	エコチル調査協力者へのニューズレター等	5000
105	京都UC	平成30年度地域エコチル調査運営協議会	環境研究総合推進費 終了研究成果報告書「黄砂の乳幼児への短期影響ー燃焼性大気汚染物質による影響修飾ー」（5-1555） 追加調査 黄砂と子どもの健康調査からの報告	エコチル関係者限定会合	22
106	京都UC	かわら版	黄砂がやってくる	エコチル調査協力者へのニューズレター等	3562
107	大阪UC	産科・小児科合同専門委員会	1.5歳、3歳環境調査結果報告について	エコチル関係者限定会合	25
108	大阪UC	産科・小児科合同専門委員会	エコチル調査分析報告について 報告「エコチル調査からみる泉州地域～子育て～」	エコチル関係者限定会合	25
109	大阪UC	地域運営協議会	エコチル調査のデータから	エコチル関係者限定会合	13
110	大阪UC	第77回日本公衆衛生学会総会	広報用ポスター	その他	3800
111	大阪UC	岸和田市市民フェスティバル	大阪UC広報用ポスター	一般市民への広報（広告等）	51000
112	大阪UC	ニューズレター	たこチルだより vol.8 「毎日の過ごし方」	エコチル調査協力者へのニューズレター等	8000
113	大阪UC	ニューズレター	たこチルだより vol.9 「おねしょ」	エコチル調査協力者へのニューズレター等	8000
114	兵庫UC	第3回ひょうご環境担い手サミット	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	一般市民への広報（広告等）	500

No	ユニットセンター等名	媒体名等	発表タイトル	種類	人数
115	鳥取UC	「ふれあい健康フェスティバル」(鳥取県米子市主催)	エコチル調査質問票の集計結果からわかったこと	一般市民への広報(広告等)	90
116	鳥取UC	がいなだよりVol.16(参加者へのニューズレター)	質問票の集計結果からわかったこと	エコチル調査協力者へのニューズレター等	2730
117	鳥取UC	がいなだよりVol.17(参加者へのニューズレター)	質問票の集計結果からわかったこと	エコチル調査協力者へのニューズレター等	2730
118	鳥取UC	エコチル調査鳥取ユニットセンターのホームページ	質問票集計結果からわかったこと	その他	
119	鳥取UC	エコチル鳥取参加者ファミリー向けイベントらんま先生のサイエンスショー	エコチル調査質問票の集計結果からわかったこと	エコチル調査協力者へのニューズレター等	313
120	高知UC	第二期 高知市健康づくり計画	高知市の集計結果	その他	—
121	高知UC	こうちエコチル調査ちよるるんNews Vol.12	ちよるるんNews Vol.12「はがきアンケートの結果」	エコチル調査協力者へのニューズレター等	6500
122	高知UC	こうちエコチル調査ちよるるんNews Vol.12	ちよるるんNews Vol.12	エコチル調査協力者へのニューズレター等	6500
123	高知UC	高知ユニットセンター広報誌「ちよるるんニュース」13号	高知ユニットセンター広報誌「ちよるるんニュース」13号	エコチル調査協力者へのニューズレター等	6450
124	高知UC	エコチル調査報告書2018「高知版」	エコチル調査報告書2018「高知版」	エコチル調査協力者へのニューズレター等	15637
125	産業医科大学SUC	八幡西区全小学校入学式における新1年生へのチラシ配布	産業医科大学サブユニットセンター作成チラシ配布	一般市民への広報(広告等)	約2500
126	産業医科大学SUC	一般向けポスター	エコチル調査ふくおか産業医科大学サブユニットセンターの紹介	一般市民への広報(広告等)	156(機関)
127	産業医科大学SUC	就学前健診時チラシ配布	エコチル調査産業医科大学サブユニットセンター紹介チラシの配布	一般市民への広報(広告等)	約2600
128	産業医科大学SUC	平成30年度版「北九州市こそだて情報」	エコチル調査の紹介	一般市民への広報(広告等)	約5万部
129	産業医科大学SUC	エコチル調査フォローアップ大イベント第5弾「ズーラシアプラスコンサート 森の中のクリスマス」	エコチル調査でわかったこと	エコチル調査参加者へのシンポジウム・講演	1192
130	熊本大学SUC	エコチル通信Kumamoto Vol.5	エコチル通信Kumamoto Vol.5	エコチル調査協力者へのニューズレター等	2634
131	宮崎大学SUC	のべちルNews-Vol.6	エコチル調査でわかってきたこと 食事編(4歳6か月質問票より)	エコチル調査協力者へのニューズレター等	—
132	宮崎大学SUC	夕刊デイリー新聞	安全な未来に向かって エコチル調査	一般市民への広報(広告等)	4万
133	琉球大学SUC	南九州・沖縄ユニット琉球大学(沖縄)サブユニットセンター 平成30年度 第1回 運営協議会	エコチル調査中心仮説途中経過報告(母体Pb、Se、Mn、Hg血中濃度と出生児の中枢神経系形態異常の関連性)	エコチル関係者限定会合	—
134	琉球大学SUC	第3回エコチル調査 まいふかこどもまつり	質問票調査実施状況・詳細調査実施状況	一般市民への広報(広告等)	—
135	琉球大学SUC	ちゅらちるだよりVOL.10	エコチル調査途中結果から	エコチル調査協力者へのニューズレター等	763

審議経緯

平成 30 年 8 月 2 日 第 1 回エコチル調査評価ワーキンググループ

平成 30 年 10 月 4 日～12 月 12 日 環境省による実地調査(日程は参考 4 を参照)

平成 30 年 9 月 27 日 第 1 回エコチル調査企画評価委員会

平成 31 年 2 月 20 日 第 2 回エコチル調査評価ワーキンググループ

平成 31 年 3 月 6 日 第 2 回エコチル調査企画評価委員会

平成30年度エコチル調査企画評価委員会委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	所属・職名
秋山 千枝子	公益社団法人 日本小児保健協会 会長
有村 俊秀	早稲田大学 政治経済学術院 教授
井口 泰泉	公立大学法人 横浜市立大学大学院 特任教授
石井 太	国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部 部長
稲垣 真澄	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部 部長
稲若 邦文	一般社団法人 日本化学工業協会 化学品管理部 部長
内山 巖雄 (座長)	国立大学法人 京都大学 名誉教授
衛藤 隆	一般社団法人 日本学校保健学会 理事長
神川 晃	公益社団法人 日本小児科医会 会長
竹下 俊行	公益社団法人 日本産科婦人科学会 常務理事
田中 政信	公益社団法人 日本産婦人科医会 名誉会員
遠山 千春	国立大学法人 筑波大学 医学医療系 客員教授
中下 裕子	コスモス法律事務所 弁護士
福島 靖正	国立保健医療科学院 院長
藤村 正哲	特定非営利活動法人 子ども療養支援協会 理事
松本 吉郎	公益社団法人 日本医師会 常任理事
麦島 秀雄	公益社団法人 日本小児科学会
村田 勝敬	国立大学法人 秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座 教授

平成30年度エコチル調査評価ワーキンググループ委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	所属・職名
有村 俊秀	早稲田大学政治経済学術院 教授
井口 泰泉	公立大学法人 横浜市立大学大学院 特任教授
田中 政信	公益社団法人 日本産婦人科医会 名誉会員
麦島 秀雄	公益社団法人 日本小児科学会
村田 勝敬	国立大学法人 秋田大学大学院医学系研究科環境保健学講座 教授

<オブザーバー>

内山 巖雄	国立大学法人 京都大学 名誉教授
-------	------------------

実地調査日程

No	日時		実施機関
1	10月4日(木)	10:00~12:00	高知ユニットセンター
2	10月9日(火)	10:00~12:00	メディカルサポートセンター
3	10月10日(水)	13:00~15:00	神奈川ユニットセンター
4	10月16日(火)	10:00~12:00	富山ユニットセンター
5	10月18日(木)	13:00~15:00	千葉大学ユニットセンター
6	10月19日(金)	13:00~15:00	コアセンター
7	10月22日(月)	13:00~15:00	九州大学サブユニットセンター
8	10月23日(火)	10:00~12:00	産業医科大学サブユニットセンター
9	10月29日(月)	13:00~16:00	南九州沖縄ユニットセンター (熊本大学サブユニットセンター・ 宮崎大学サブユニットセンター・ 琉球大学サブユニットセンター)
10	11月2日(金)	10:00~12:00	鳥取ユニットセンター
11	11月5日(月)	13:00~15:00	愛知ユニットセンター
12	11月8日(木)	14:00~16:00	兵庫ユニットセンター
13	11月9日(金)	10:00~12:00	大阪ユニットセンター
		14:00~15:30	大阪府立大阪母子医療センター
14	11月12日(月)	11:00~13:00	宮城ユニットセンター
15	11月13日(火)	15:00~17:00	北海道ユニットセンター
16	11月19日(月)	13:00~15:00	京都ユニットセンター
17	11月21日(水)	13:00~15:00	甲信サブユニットセンター(信州大学)
18	11月26日(月)	14:00~16:00	福島ユニットセンター
19	12月12日(水)	10:00~12:00	甲信ユニットセンター(山梨大学)